

横須賀市博物館資料集

第 26 号

2002年1月

MISCELLANEOUS REPORT
OF THE
YOKOSUKA CITY MUSEUM

NO. 26

January, 2002

横須賀市自然・人文博物館地球科学部門の研究業績

Contribution on the Earth Sciece Division of the Yokosuka city Museum

横須賀市自然・人文博物館

YOKOSUKA CITY MUSEUM
YOKOSUKA 238-0016, JAPAN

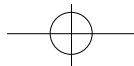
MISCELLANEOUS REPORT OF THE YOKOSUKA CITY MUSEUM

NO. 26

2002

横須賀市博資料集

MIS. REPT. YOKOSUKA CITY MUS.



横須賀市自然・人文博物館地球科学部門の研究業績

蟹江 康 光 *

Contributions on the Earth Science Division of the Yokosuka City Museum

KANIE Yasumitsu *

キーワード：地質学，貝類学，博物館，蟹江康光，横須賀市，神奈川県

Key words: geology, conchology, museum, Yokosuka City, Kanagawa

本資料集は、蟹江学芸員が1967年に横須賀市博物館（現在の横須賀市自然・人文博物館）に就職してから、2001年12月までのおよそ40年間の地球科学部門の業績をまとめたものである。業績集の内容は、地質学・古生物学および貝類学を中心とし、それに博物館学および関連あるものも掲載した。業績文に加え、研究に使用した標本とキーワードをも示した。添付したCD-ROMには各業績の最初のページおよび使用化石標本のカラー写真を付した。また、データベースソフトウェアを使用することにより、論文のキーワードを含め、内容を自由に検索可能である。

Research data are the collection of the forty-year academic records of the Earth Science Division under the curator Dr. Sci. KANIE Yasumitsu from the year 1960 to 2001. He has been doing his research for over 40 years since he began studying geology at Yokohama National University in 1960. After graduating from the university, he began working for the Yokosuka City Museum in 1967. Now he is the curator, and still carries out research. The contents of these records are mainly centered on geology, conchology and the living fossils, with the addition of related information and museology. Specimens and key words are shown in addition to the academic records. The attached CD-ROM shows the first page of each record and color pictures of paleontological specimens studied. The contents and the key words of these are easily detected by using data based on software.

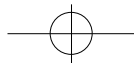
目 次

- | | |
|-----------------------------------|--|
| ・地球科学部門と横須賀市博物館 | ・蟹江康光学芸員が記載した新タクサ |
| ・蟹江康光学芸員の学術的履歴 | ・付編：博物館に収蔵されている模式標本 |
| ・印刷物と付属CD-ROMの使用法 | ・キーワード索引 |
| ・業績目録（論文名，雑誌名など，コメントキーワード，使用標本番号） | ・添付CD-ROM（各業績の第1ページ，古生物と関連標本画像，FileMaker Proソフトウェアによる検索など） |

* 横須賀市自然・人文博物館 238-0016 横須賀市深田台 95

* Yokosuka City Museum, 95 Fukadadai, Yokosuka 238-0016, Japan

原稿受付 2001 年 11 月 29 日。横須賀市博物館業績第 560 号



地球科学部門と横須賀市博物館

1967年に蟹江康光は横須賀市博物館地球科学部門最初の学芸員となった。蟹江康光の地学への関心は高校地学部に始まった。東海地方各地で化石や鉱物採集をしたが、この時にフィールドワークと人間関係のおもしろさを体験した。大学での北海道白亜系と軟体動物化石研究(蟹江, 1966 文献 004, 005)後、横須賀市自然人文博物館(前の横須賀市博物館)に就職した。そのきっかけは、サハリン産白亜紀アンモナイトの同定作業を通じて博物館所蔵の白亜紀化石に出会ったこと、もう一つは博物館付属の天神島臨海自然教育園建設に伴う横須賀市佐島の地質図を作成したことであった。この二つは、白亜紀の世界と三浦半島をフィールドとする研究の方向を決めることとなった。

分野の異なる蟹江の多様な研究は白亜紀の軟体動物(グローバル)から三浦半島・相模湾の軟体動物(ローカル)へ展開し、ローカルからグローバルへ発展したといえる。

中・高一貫教育の私立学園「東海高等学校」地学部には、日本地質学会第100年大会の地学教育部門で表彰された野村松光教諭がおられ、その豊かな個性は、多くの化石・鉱物少年を育成された。

白亜紀の軟体動物からの出発

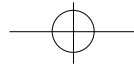
蟹江が博物館へ就職した時、職員は館長と3人の生物系学芸員であった。当時の博物館では、地質学・古生物学の学芸員は国立科学博物館を除くと数名のみであった。博物館のあった久里浜で2年半、そして横須賀中央の現在地へ、博物館の新築・移転・新展示の制作に多忙な時間を過ごした(博物館研究, 44: 1-61. 1971年, 横須賀市博物館特集号 文献 025, 026)。一方、蟹江は千地万造氏(元 大阪市立自然史博物館)らと文部省の「公立博物館の設置基準」制定のための社会教育審議会委員に任命された。1973年に公布されたこの基準は、廃止となった最近

まで、国内の多くの博物館設置の基となった。

1972年, Los Angeles County Museum of Natural History 研修において、カリフォルニア州各地のフィールド訪問と U.S. National Museum の SOHL N.博士など白亜紀巻貝研究者との自由な討議の機会に恵まれ(蟹江, 1973 文献 032), その成果は 1975年の学位論文“Some Cretaceous patelliform gastropods from the northern Pacific region”となった(KANIE, 1975 文献 046)。

1973年と1975年の2回、文部省科学研究補助金による海外学術調査(国際学術調査)で、マダガスカル白亜紀軟体動物研究に参加した。南西部メナベ地方の上部白亜系には現地生のオウムガイ類、アンモナイトや二枚貝のイノセラムスを露頭観察し、軟体動物化石を層序学的に連続して採取することができた(蟹江, 1974, 1976, 1995; KANIE *et al.*, 1977; ASAMA *et al.*, 1981; ほか文献 039, 047, 059, 113, 311)。マダガスカルはその後、民族主義が台頭し、標本の国外搬出はもちろん現地調査も困難な年代が続いたが、1994年に3度目の調査が実現した。これらは1996年の特別展示「国際学術調査報告展示・マダガスカル島の古生物-インド洋に浮かぶゴンドワナ大陸の自然をしらべる-」として結実した(蟹江, 1998 文献 362)。

マダガスカルから帰国後、アンモナイトの復元に欠くことのできない比較材料である、オウムガイ類の観察・調査を行った。「生きている化石-おうむがい-総合研究専門家協議会(JECOLN: Japanese Expert Consultation on Living Nautilus)」メンバーとしての共同研究は、1976年からフィリピン・ネグロス島を中心とした3度の海外学術調査も含め1982年まで行われ(蟹江ほか, 1981, 1982; HAYASAKA *et al.*, 1982 文献 108, 127), 北海道やマダガスカル白亜紀アンモナイトが底生遊泳性(nectobenthic)の頭足類であったことを明らかにし、世界中でオウムガイ類をはじめとする現生・化石頭足類の比較研究(例 KANIE *et al.*, 1980 など 文献 096)のきっかけとなった。情報誌 The Chambered Nautilus Newsletter (1974年創刊)



や Cephalopod Newsletter (1977 年創刊) が刊行され、蟹江は日本での事務局をつとめた。海洋科学技術センター施設を使用しているオウムガイの加圧水槽実験も、この時の研究の一つである。生きているオウムガイを加圧水槽に入れ、外殻・隔壁の強度と生体の予圧生理を観察したが、この実験でオウムガイの生息限界水深 785 m が判明し (KANIE *et al.*, 1980 文献 097), 数度の追認も行った。

この間、北海道の浦河地方で 5 万分の 1 地質図幅 3 枚の作製・調査を行った (酒井・蟹江, 1986; 和田ほか, 1992 文献 162, 254)。この頃、北海道の白亜紀フィールドで始まった有孔虫や放散虫化石による生層序学的研究者との共同研究となった。1980 年代には蝦夷帯を含む神居古潭帯がプレート境界の前弧海盆堆積物であるとの見方は、研究者の反響を呼び、成果である「北海道浦河地方における蝦夷層群直下の下部白亜系」を公表し (蟹江ほか, 1981 文献 115), 以後の研究を若い研究者に託すことができた。

三浦半島の地質と相模湾の軟体動物への展開

横須賀市博物館では学芸員に加えて、1983 年まで 3 名の研究委託者、1984～1989 年まで研究員 1 名、1990 年から 2 名の非常勤職員を迎えて、地球科学部門の調査研究活動と展示教育活動を行ってきた。

研究委託では、長谷川善和氏 (脊椎動物化石, ～1983 年), 鹿間時夫氏 (古生物, 1972～1978 年), 小島郁生氏 (アンモナイト, 1979～1980 年), 松本達郎氏 (アンモナイト, 1981～1983 年) 等の協力があった。1984 年以降は小林和彦研究員 (1984～1986 年) と御園 正研究員 (1987～1989 年) は生徒および教職員を対象に、岩石学を中心とする地球科学の普及・拡充に努力された。1990 年から引き継いだ浅見茂雄研究員はそれらを発展させ、渡辺政美研究員 (貝類学) と共同で市民ボランティアの協力のもと、葉山層産化学合成動物群集の調査と記載を行った (横須賀市文化財調査報告書, 29

号, 1995 年 文献 295)。浅見研究員は、また、三浦半島活断層調査会の顧問でもあり、その指導・育成にも努力され、同会の発展に貢献している。

軟体動物部門では、1978～1982 年に大里明博研究員 (1977～1980 年), 池田 等研究員 (1981～1985 年), 渡辺政美研究員が 1990 年以降、貝類の分類・研究と教育普及活動を担当された。細谷角次郎貝類コレクションは、相模湾産の最大のコレクションであり、研究委託の堀越増興氏と小菅貞男氏 (～1974 年) の努力で 3648 件の目録が作成されており (堀越ほか, 1963; 小菅, 1964), この資料を活用する相模貝類同好会の設立につながった。渡辺研究員は、細谷角次郎氏の孫である倉持卓司氏の協力で、上記の目録の索引と補遺を 1992 年に完成された (横須賀市自然博物館編, 1972)。また、京都市左京区で 1913～1922 年に存在した平瀬与一郎・信太郎親子の運営による平瀬介館で使用されていた陸貝標本の展示・研究コレクションが鹿間時夫氏 (元 横浜国立大学学芸学部) の努力で博物館に寄贈され、研究委託者大山 桂氏 (1975～1980 年)・太田 秀氏 (1981～1983 年) により、模式標本多数を含む目録が作成された (前田ほか, 1983, 1987)。

当時、プレートテクトニクスにもとづく地層・地殻の見方が普及し始めていた。三浦半島における中新～鮮新統三浦層群の研究では、凝灰岩鍵層対比による層序は確立されていたが、化石年代はおおざっぱなものであり、ことに地質構造の複雑な半島南部の三崎層と上位初声層の層序関係と年代、および堆積環境には不明な点が多く、そのテクトニクスについても概念的、モデル的なものが多かった。

蟹江は岡田尚武氏 (現 北海道大学) の協力を得て、白亜系での研究手法をもって石灰質ナノ化石による地層の年代を決め、挟まれる凝灰岩鍵層の性質と対比して堆積物を比較し、三浦半島南部の三浦層群がトラフ (海溝) を挟んだ海側斜面の火山性堆積物であり、一方、半島中・北部の三浦層群は陸側斜面堆積物である

(蟹江ほか, 1991 文献 232, 238) ことを明らかにした。この研究は南関東地域と周辺海域の地質構造と地殻構造の急速な解明に発展した。

相模貝類同好会は 1965 年に設立され、蟹江は博物館における事務局をつとめてきたが、同好会の成果は 1990 年に特別展示「相模湾の貝類学」となった。

同じ横須賀市に設立された海洋科学技術センターの潜水調査船「しんかい 2000」と無人潜水機「ドルフィン 3K」を活用して、亜深海性巻貝の現生・化石種の比較研究、すなわち相模湾の生きている化石・オキナエビスガイの調査・研究を服部陸男博士（海洋科学技術センター）と進め、1984 年には相模湾の水深 100～120 m の岩礁底からオキナエビスガイの生体を採取し、水深 1100 m の深海底ではシロウリガイの密集コミュニティに接することができた。

その後、潜水調査による動物群の観察・採取とコンクリーションおよび堆積岩試料の採集や相模湾、沖ノ山堆列をつくる堆積岩と陸上の新生界との比較研究を進めた（蟹江ほか, 1996 文献 337）。三浦半島と周辺海域の新生界の詳細な化石年代は、地層や産出化石の全国的な比較検討やテクトニクスモデルの作成を可能にした。

再び地域博物館からの出発

それまでの地質調査の成果をまとめて、1991 年に横須賀市自然博物館から「三浦半島の自然環境図」のうち、5 万分の 1「三浦半島地質図」と「三浦半島自然環境図」を出版した。

三浦半島には活発に活動した活断層が 5 枚以上知られている。活断層調査は、従来、地域の研究者が細々と進めていたが、1994 年以降組織的な調査が進められるようになった。

1995 年、地域住民が自ら学習・調査することを目的に、三浦半島活断層調査会が誕生した。この会は会員数が 100 名を超え、会報は 28 号を数えている。横須賀市は 1991 年に冊子「横須賀市域の活断層」を、1996 年には「横須賀市域活断層 - 知ることから始まる災害への対

策」、2000 年には 1/2 万の活断層分布図とその説明書「横須賀市の活断層」を市民向けに発行した。懸案であったトレンチ発掘調査が行われ、断層の詳細な位置と活動年代（地震の発生日）が明らかにされ、予想される大地震の減災のための情報を提供してきた。最近では物理探査を含めた三浦半島活断層の総合解析が行われている（神奈川県, 2001）が、三方を海に囲まれた三浦半島周辺海域での調査は、今後の課題である。

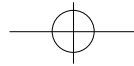
相模湾のシロウリガイをはじめとする底生動物群集が、プレートの沈み込み帯や断層帯に生息する化学合成生物群集であることを明らかにしてきたが、この方面での世界的規模の研究成果が海洋科学技術センターを中心に公開されている。博物館を会場としたシンポジウム「沈み込み帯における化学合成底生生物群集 - 相模湾のシロウリガイ類群集の過去・現在・未来 -」は日本古生物学会第 144 回例会として開催され、成果が「化石」60・61 号（1996 年）に掲載され、2001 年の古生物学会ミレニアムシンポジウム「化学合成化石群集の研究方法与今後の研



第 1 図 シロウリガイ類化石を含む池子層の調査。右側の巨大化石岩塊は、現在、逗子市池子資料館で展示保存されている。1992 年 4 月。

究展望」に発展した（第 1 図）。

今日、南西太平洋海域に生息する特異な巻貝「生きている化石」オキナエビスガイは化石種の形態・生息環境・遺伝学的位置・進化様式の比較解明が世界的規模で明らかにされつつある（例 蟹江ほか, 1995 文献 326）が、この研究も海洋科学技術センターとの特色ある共同研究



の一つである。

神奈川県立博物館との共催展示「伊豆・小笠原弧の形成と活断層」の開催

博物館の調査・研究の成果は、1994年に特別展示「深海から生まれた三浦半島」を開催した。1995年以降に各研究所、調査機関、神奈川県・横須賀市・三浦市などの自治体が行った活断層の調査成果をもとに、三浦半島を含む神奈川県民を対象に活断層などの地盤情報を提供する特別展示と関連行事を1998-1999年に開催した。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の今永 勇氏をリーダーとした共同研究の成果も共催展示した。この展示には両博物館共同のタイトル「活断層海から生まれた神奈川」に、それぞれ固有のサブタイトル「三浦半島の活断層」と「伊豆・小笠原弧の形成と」を付した。

シンポジウムと講演会および展示解説、さらに活断層の現地観察会も共催した。展示解説書「海から生まれた神奈川-伊豆・小笠原弧の形成と活断層-」は104ページのフルカラーからなり、(文献384)を共同刊行し、完売した。神奈川県立温泉地学研究所が協賛し、博物館ボ

県西部の地震、地震の影響-地盤と建築物、地震の影響-津波、横須賀市と三浦市の活断層調査と地震防災、活断層関連ボランティアの紹介、および本展示のホームページと関連ホームページリンク集の内容とした。入場者総数9143名が協力ボランティア延べ704名によって集計された。43万人都市として、決して多い数とはいえないこの数をどう評価するか、これも博物館活動の今後の課題の一つである。入場者は開設当初の8月と阪神大震災5年目の2000年1月に集中した。「三浦半島活断層調査会」と「地球科学ボランティア三浦半島」は展示物と展示解説書をパソコンにより自作し、開催中の行事・運営にも参加した。博物館と市民活動の新たな結びつきとして評価できる活動であった。展示内容とホームページは、展示終了後、かなりの部分を常設展示「三浦半島の活断層」と「深海から生まれた三浦半島」に組み込んだ。

生命の星・地球博物館の「海から生まれた神奈川-伊豆・小笠原弧の形成と活断層-」は7月17日～9月5日の間に行われ、その内容は伊豆・小笠原弧の火山と基盤・丹沢山地と足柄山地、伊豆小笠原弧の火山などであった。

共催のメリットとして、両館共通の特徴ある標本や展示物を配列できること・広報が双方でできること・最新の研究成果を解説した展示解説書「海から生まれた神奈川-伊豆・小笠原弧の形成と活断層-」を多数の地球科学に興味をもつ方へ安価に頒布し、知識の普及に貢献できたこと、関連するシンポジウム・講演会や野外観察会を共有できたことなどがあげられる。また、日本地質学会第106年大会で<地域博物館の共催展「伊豆・小笠原弧の形成と活断層」の開催>をポスター展示することができた(蟹江・今永, 1999 文献386)。ボランティアの参加も含め、新たな博物館のあり方として今後に期待したい。

残された課題

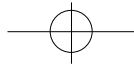
蟹江が上記の研究過程をたどってきたのは、高校生の時に知り合った方々が地球科学の関連



第2図 特別展示「三浦半島の活断層」の展示解説。1999年7月。

ランティア多数が参加した(第2図)。

横須賀市博物館の「海から生まれた神奈川-三浦半島の活断層」は、1999年8月から2000年3月まで、深海から生まれた三浦半島、三浦半島の活断層(衣笠断層帯・北武断層帯・武山断層帯・南下浦断層帯・引橋断層帯)、神奈川



学会で活躍され、その方々とさまざまな分野で討論できたことによる。また、就職時、発光生物学というユニークな分野での研究者であり、1942～1945年まで昭南博物館（今のシンガポール国立博物館）の副館長を勤められた羽根田弥太郎館長が、その国際性をもって横須賀市博物館を整備されたことの貢献が大きい（第3図）。これらの影響のもと、蟹江の研究はグローバルからスタートした。



第3図 横須賀市博物館（今の横須賀市自然人文博物館）のモデルとなった昭南博物館（現在のシンガポール国立博物館）。1942年。

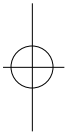
成果の展示パネルの作成と展示説明及び、展示解説書の作成などボランティアとの共同作業を行った。三浦半島活断層調査会は、2001年に、横須賀市民公益団体に登録され、神奈川県博物館協会の推薦によって安藤為次記念賞が授与された。

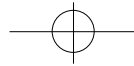
日本の多くの博物館は個性を有する次世代研究者の育成システムの整備が不十分であり、それは世代交代が進む今、もっとも大きな課題となっている。

博物館ボランティアとの共同作業は、新しい市民参加の博物館をつくる一方法として、その運営と育成も市民の財産を預かる博物館の今後の課題である。

横須賀市自然人文博物館では、一人の研究者が非常勤の研究員と研究委託の協力で、地質学・古生物学・活断層学などに加えて、貝類学の系統進化の研究と化学合成動物、そして教育活動を行う（蟹江，1998 文献 374）ことで可能であった。しかし、近年の公的資金の先細りと情報の公開化、また独立行政法人化の波の中で、自治体設立の博物館は、人手・財源の不足や管理方式の根本的解決ができていないのが現状である。

「マダガスカル島の古生物」の特別展示を契機として自然発生的にボランティアが集まり、市民参加型の手作りの展示を模索した。これは、1998年に「地球科学ボランティア三浦半島」、2000年に「横須賀市自然博物館ボランティア」成立への基礎となった。さらに、「三浦半島活断層調査会」も加わり、1998～1999年には神奈川県立生命の星・地球博物館との共同研究の





蟹江康光学芸員の学術的履歴

1941 (昭和 16) 年 8 月 8 日
現住所

名古屋市で生まれる
249-0004 逗子市沼間 2-9-4-405

学 歴

1960 (昭和 35) 年 3 月
1960 (昭和 35) 年 4 月
1960 (昭和 39) 年 3 月
1964 年 4 月～1966 年 3 月

東海高等学校卒業
横浜国立大学学芸学部地学科入学
横浜国立大学学芸学部地学科卒業
横浜国立大学学芸学部地学専攻科

研究歴

1967 (昭和 42) 年 4 月～
1973 年 1～2 月
1975 (昭和 50) 年 3 月
1995 (平成 2) 年 7 月～

地質学・古生物学の研究に着手し、現在にいたる
ロサンゼルス群立自然史博物館・UCLA で研究
九州大学より理学博士号授与
三浦半島活断層調査会顧問

職歴 (常勤)

1966 年 4 月～1967 年 3 月
1967 (昭和 42) 年 4 月～
1970 年 7 月～1983 年 5 月
1983 年 6 月～1998 年 3 月

横須賀市立明浜小学校助教諭
横須賀市博物館技術史員
横須賀市博物館学芸員
横須賀市自然博物館学芸員・横須賀市人文博物館学芸員 (自然博物館と人文博物館に分離)

1983 年 6 月～1998 年 3 月
1998 (平成 10) 年 4 月～
2001 (平成 14) 年 3 月

横須賀市自然博物館主任学芸員
横須賀市自然・人文博物館主任学芸員 (両博物館が統合し、名称を変更)
横須賀市自然・人文博物館を退職

職歴 (非常勤)

1971 年 10 月～1972 年 10 月
1977 年 4 月～1980 年 3 月
1990 (平成 2) 年 9 月
1994 年 4 月～1995 年 3 月
1994 年 8 月～

文部省社会教育審議会専門委員社会教育施設分科会
工業技術院地質調査所非常勤調査員
静岡大学理学部講師
横浜市文化財保護審議会専門調査員
進化生物研究所客員研究員

主な展示

1970 (昭和 45) 年 10 月～

横須賀市博物館の「三浦半島のおいたち・ナウマン象、三浦半島をとりまく地形、生命の歴史、美しい石、岩石壁面、紫外線と蛍光鉱物、三浦半島の貝類」

1983 (昭和 57) 年 6 月～

横須賀市人文博物館の「三浦半島をつくる地層・関東ローム層」など特別展示

1987 年 2～5 月

「横須賀市 80 年のあゆみ」における「三浦半島の交通の移り変わり」

1988 (昭和 64) 年 5 月～

馬堀自然教育園「教育園付近の地質構造、走水-馬堀湧水の推定湧出機構、地殻ひずみ量の観測システム、地殻のひずみ量」

1989 年 12 月～1990 年 4 月

特別展示「三浦半島の自然久里浜・野比地区の調査研究成果」で「地形・地質 (北武断層、活断層の存在による危険地帯、直立した地層)」

1990 年 4 月～7 月

特別展示「相模湾の貝類学」

1994 年 1～5 月

特別展示「深海から生まれた三浦半島」

1996 年 6 月～1997 年 3 月

国際学術調査報告展示「マダガスカル島の新生物」

1999 年 4 月～2000 年 3 月

特別展示「三浦半島の活断層-伊豆小笠原弧の形成と活断層」

1999 (平成 11) 年 11 月～

天神島ビジターセンター「天神島とその周辺の地形と地質、天神島をつくる地層、天神島付近の地質学的特徴」

2001 年 12 月～2002 年 1 月

特別企画展示「横須賀市自然人文博物館地球科学部門 30 年の成果」

主な著書

1975 年 「北太平洋沿岸地域における笠型巻貝の進化的研究」著書 046, 博士号学位論文

1985 年 「横須賀の地質」著書 154

1986 年 「西舎地域の地質」著書 162, 酒井 彰と共著

1991 年 「三浦半島地質図・三浦半島環境地質図」, 著書 232

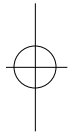
1991 年 「三浦層群-年代学と諸問題」著書 228, 共著編集

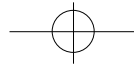
1992 年 「5 万分の 1 地質図幅<三石>及び説明書」著書 254, 和田信彦ほかと共著

1994 年 「深海から生まれた三浦半島」著書 941

1995 年 「葉山層群の断層破碎帯から発見された化学合成生物群」著書 295-301, 共著編集

1999 年 「伊豆・小笠原弧の形成と活断層」著書 384, 今永 勇と共著編集





印刷物と付属 CD-ROM の使用方法

1. 印刷物 (Printed matters)

業績目録について (On the contributions)

業績目録は次の順に配列した。業績番号, 著者名, 発行年, 表題, 雑誌・書籍名あるいは学会等, ページ, 発行地。＊を付してあるものには欧文要旨が添えられている。

次段落文章はコメント, そして標本番号。

キーワードは, 日本語と英語を5～6語で示してある。これらのキーワードは, 索引から引くこともできる。

標本の所在場所 (Depository of the specimens)

使用標本の所在地は, 欧文の機関名簡略記号と標本番号の組み合わせで示してある。横須賀市自然博物館 (YCM) 以外に保管されていない標本は, 標本番号を省略してあることもある。

機関名簡略記号, 資料保管機関名, 郵便番号, 所在地を以下に示す。

GK.H	(九州大学理学部地球惑星科学教室, 812-8581 福岡市東区箱崎)
GY	(横浜国立大学地学教室→国立科学博物館 169-0073 東京都新宿区百人町)
KMNH	(北九州市立自然史博物館, 805-0061 北九州市八幡東区西本町)
MCM	(三笠市博物館, 068-2111 三笠市幾春別錦町)
MFM	(瑞浪市化石博物館, 509-6132 瑞浪市明世町山野内)
MN	(二本木光利氏標本, 064-0822 札幌市中央区北二条西 22)
MT	(立松正衛氏標本: 岐阜県立博物館寄託, 501-3941 岐阜県関市小屋名)
NSM	(国立科学博物館分館, 169-0073 東京都新宿区百人町)
Ra	(国分 博氏標本, 068-2141 北海道三笠市本町 264-1)
SSME	(仙台市科学館, 980-0903 仙台市青葉区台原)
UMUT	(東京大学総合研究博物館, 113-0032 東京都文京区本郷)
YCM-GP	(横須賀市自然博物館古生物資料, 238-0016 横須賀市深田台)
YCM-GPIg	(横須賀市自然博物館池上古生物資料)
YCM-GPUr	(横須賀市自然博物館浦河古生物資料)
YCM-GR	(横須賀市自然博物館岩石資料)
YCM-H	(横須賀市自然博物館軟体動物資料)

索引・キーワードの使用方法

(How to use the index or key words)

索引は原則として, 生物分類 (学名) ・項目・地層名・地質年代・地名 (海洋) の順に日本語と英語 (～6 語の単語で配列してある 6 ページ参照)。

地名のうち, 英語県名の場合には, 「Prefecture」を省略してある。

2. CD-ROM

本 CD-ROM 版には, 「BOOK.pdf」, 「SP_DATA.fp5」, 「PDF_CONTRB」, 「PHOTO」, 「README.txt」ファイルが収録されている。Windows, Macintosh どちらのOSでも閲覧できる。

・「BOOK.pdf」は本冊子内容の pdf 形式のファイルです。閲覧には「Acrobat Reader 4.0」以上が必要である。アドビ・システム社のホームページ www.adobe.co.jp から, Acrobat Reader をダウンロード (無料) できる。

・「DATA.fp5」には標本リストを収録してある。閲覧には「FileMaker Pro 5」が必要である。FileMaker Pro 5 を持っていない方は「PHOTO」フォルダー内のファイルをご利用下さい。

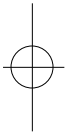
・「PHOTO」: 標本画像を jpg 形式のファイルで入れてある。標本番号をファイル名にしてある。

・「PDF_CONTRB」は, 各業績の表紙を pdf ファイルで収録してあり, Acrobat Reader で閲覧でき, 簡単用語検索も可能である。6001-015: 1960 年代の業績 1-15 まで, 7016-091: 1970 年代の業績 16-91 まで, 8092-210: 1980 年代の業績 93-210 まで, 9211-391: 1990 年代の業績 211-391 まで, 0392-415: 2000～2001 年代の業績 392-415 まで, 66619971: 前記に漏れた各年代の業績で, 1966 年 1, 1967 年 1, 1988 年 1, 1994 年 1, 1995 年 1, 1996 年 1-2, 1997 年 1 が収録されている。A1-Y3: 研究員・研究委託の業績で, 28 件を収録。

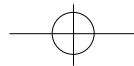
本 CD-ROM は, 将来的に改良版の作成を計画している。間違い等, お気づきの点は下記までお知らせ下さい。

アドレスは, kani@museum.yokosuka.kanagawa.jp あるいは地球科学部門 (〒238-0016 横須賀市深田台 95) である。

・Adobe Acrobat Reader はアドビ・システム社の, FileMaker Pro 5 は FileMaker, Inc. の登録商標である。



ファイル・フォルダの内容	Macintosh	Windows
CD-ROMの使用説明書	 README.txt  README.pdf	 READMEW.txt  README.pdf
本書子に収録された業績目録の電子版	 業績目録 (電子版)	 BOOK.pdf
研究業績等に使用した標本のデータベース。FileMaker Pro5 以上が必要です。	 標本データベース	 SP_DATA.fp5
データベースの構成、動植物分類表、地質年表	 データベース参考資料	 FPS_INDEX.pdf
研究業績等に使用した標本の標本番号順の写真集	 標本写真集 (HTML)	 INDEX.html
研究業績の内容を検索するための日本語キーワード。右側の数字は業績番号	 キーワード (日本語)	 KEYWORDE.pdf
研究業績の内容を検索するための英語キーワード。右側の数字は業績番号	 KEYWORDS	 KEYWORDE.pdf
各研究業績第1ページの印刷物	 PDF_CONTRB	 PDF_CONTRB
研究業績等に使用した標本の標本番号順の写真集。jpgファイル形式	 PHOTO	 PHOTO
これからAcrobat Reader 5をインストールできます	 Acrobat Reader 5.0	 AROBAT_LP



蟹江康光学芸員業績集 Academic records of the Curator Dr. KANIE Yasumitsu

- 001 SATO T. and KANIE Y. 1963. *Lilloetia* sp. (Ammonite callovienne) de Mitarashi au Bassin Tetori. *Trans. Plaeon.t Soc. Japan*, (N.S.), (49):8.

佐藤 正氏に蟹江が化石を提供して、学会へはじめて報告した。このジュラ紀アンモナイトは北方要素をもつ。

UMUT

アンモナイト, ジュラ紀, 手取層群, 御手洗, 岐阜県 ammonite, Jurassic, Tetori Group, Mitarashi, Gifu

- 002 蟹江康光・浅見清秀 1963. 鎌倉の地質. かまくら子ども風土記 [別冊]: 34-52. 鎌倉市教育研究所.

鎌倉市教育委員会の依頼による地質ガイドブック。このときに作成した1万分の1の地質図は、後の基本資料。

地質, 新生代, 三浦層群, 上総層群, 鎌倉, 神奈川県 geology, Cenozoic, Miura Group, Kazusa Group, Kamakura, Kanagawa

- 003 小島郁生・蟹江康光 1965. 北海道留萌小平村の白亜系産化石—アンモナイト化石目録2—。自然科学と博物館, 32(3-4): 50-53.

小平の白亜系産アンモナイトは保存が良い。標本は国立科学博物館に収蔵。

NSM-PM

アンモナイト, 白亜紀, 蝦夷累層群, 小平, 北海道 ammonite, Cretaceous, Yezo Supergroup, Obira, Hokkaido

- 004 蟹江康光 1966. 横須賀市博物館所蔵北海道留萌郡小平村の白亜紀化石. * 横須賀市博研報 [自然], (12): 13-17, 図版 5-6.

小平の白亜系産アンモナイトは保存が良い。ここに図示された化石は横須賀市自然・人文博物館に収蔵されたもの。

YCM-GP0001-001^006, 0002-001^008, 0003-

001^006, 0004-001^008, 0005-001^013, 0006, 0007, 0008-001^002, 0009^0011, 0012-001^002, 0013, 0014-001^002, 0015, 0016, 0017-001^006, 0018-001^002, 0019-001^003, 0020, 0021-001^002, 0022-001^003, 0023-001^002, 0024-001^003, 0025-001^002, 0026-001^002, 0027-001^003, 0028-001^003, 0029, 0030-001^003, 0031-001^004, 0032-001^006, 0033-001^025, 0034-001^003, 0034-005^010, 0035-001^007, 0036-001^005, 0037-001^003, 0038-001^004, 0039-001^008, 0040-001^005, 0041-001^003, 0041-005^009, 0042-001^005, 0042-007^010, 0043-001^002, 004-001^002, 0045^0056, 0057-001^002, 0059

アンモナイト, 白亜紀, 蝦夷累層群, 小平, 北海道 ammonite, Cretaceous, Yezo Supergroup, Obira, Hokkaido

- 005 蟹江康光 1966. 北海道浦河地方の白亜系. * 地質雑, 72(7): 315-328.

北海道浦河地方の白亜系(白亜紀の地層)は、さらに5万分の1地質図幅「西舎」(地質調査所, 1986年), 「三石」(北海道立地下資源調査所, 1992年), 「浦河」(地質調査センター, 2002年刊行予定)に公表。

YCM-GP001-917, 1002-1199, 2076-2090

アンモナイト, 白亜紀, 化石層序, 蝦夷累層群, 浦河, 北海道 ammonite, Cretaceous, Yezo Supergroup, Urakawa, Hokkaido

- 006 蟹江康光 1967. 三浦半島横須賀市佐島の地質. * 横須賀市博研報 [自然], (13): 38-44.

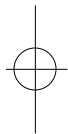
横須賀市博物館が天神島臨海自然教育園の開設にあたり、周辺地域を含めて地質調査を行った。

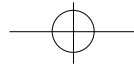
YCM-GP0063^0070

軟体動物, 新第三紀, 地質図, 横須賀市, 神奈川県 mollusca, Neogene, geological map, Yokosuka City, Kanagawa

- 007 蟹江康光 1967. 横須賀市佐島地区の地質. 横須賀市博雑報, (12): 1-4.

横須賀市博物館が天神島臨海自然教育園の開設に





あたり, 周辺地域を含めて地質調査を行い, 展示に必要な事項をも報告した。

軟体動物, 新第三紀, 地質図, 横須賀市, 神奈川県
mollusca, Neogene, geological map, Yokosuka City,
Kanagawa

008 蟹江康光 1967. いわゆる「へそ石」につ
いて. 横須賀市博雑報, (12): 22-23.

横須賀市南東部の海岸では, へそ石と呼ばれる岩
石が知られている。これは葉山層から洗い出された
コンクリーション (ノジュール) である。

YCM-GR156-1

コンクリーション, 新第三紀, 葉山層, 横須賀市,
神奈川県
concretion, Neogene, Hayama Formation, Yokosuka
City, Kanagawa

009 蟹江康光 1967. 三浦半島のおいたち。
かながわの自然, (4): 2-3. 神奈川県自然
保護協会。

三浦半島の地質を地史的に解説した。

新第三紀, 三浦層群, 地史, 三浦半島, 神奈川県
Neogene, Miura Group, geological history, Miura
Peninsula, Kanagawa

010 蟹江康光 1967. 下浦断層について一関
東大震災時の地震断層一。三浦古文化,
(3): 115-120.

1923年の関東地震時に横須賀市長沢 (下浦) 地区
に地震断層が出現したことを山崎 (1926) が報告し
ている。蟹江は, その痕跡を調査・報告したが, 直
後に地形は改変された。

地震断層, 活断層, 関東地震, 横須賀市, 神奈川県
earthquake fault, active fault, Kanto earthquake,
Yokosuka City, Kanagawa

011 MATSUMOTO T. and KANIE Y. 1967.
Ainoceras, a new heteromorph ammonoid
genus from the Upper Cretaceous of
Hokkaido. *Mem. Fac., Sci., Kyusyu Univ.*,
[D] 18(2): 349-359 pls. 20-21.

Ainoceras は, 幼生期には巻貝型の成長を, 成年殻

は平巻きの成長様式をもつ異常巻アンモナイトであ
る。

GK.H5575, GY.16 (=NSM-PM)

アンモナイト, 異常巻, 白亜紀, 浦河, 北海道,
ammonite, heteromorph, Cretaceous, Urakawa,
Hokkaido

012 蟹江康光 1969. 三浦半島, 平作川の埋
積谷. 横須賀市博雑報, (14): 8-9.

三浦半島中東部を流れる平作川には, 氷河期の海
面低下時に刻まれた深さ 50 m におよぶ谷地形が存在
する。沖積層は埋積谷堆積物である。

埋積谷, 第四紀, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県,
buried valley, Quaternary, Miura Peninsula,
Yokosuka City, Kanagawa

013 蟹江康光 1969. 三浦半島, 佐島の北方, 秋谷
の第三系にみられる堆積構造. * 横須賀
市博研報 [自然], (15): 37-43.

三浦半島西部の佐島地区に露出する三浦層群には,
各種の堆積構造を観察できる。

堆積構造, 新第三紀, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県
sedimentary structure, Neogene, Miura Peninsula,
Yokosuka City, Kanagawa

014 蟹江康光 1969. 三浦半島, 秋谷の第三紀層か
らブナの葉化石の発見とその意味. 横須賀市
博雑報, (14): 9-10.

三浦半島西部の佐島地区に露出する三浦層群から
ブナの葉化石が発見された。それから類推される古
地理が考察されている。

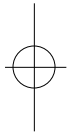
YCM-GP0172

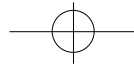
ブナ, 三浦層群, 新第三紀, 横須賀市, 神奈川県
Fagus crenata, Miura Group, Neogene, Yokosuka
City, Kanagawa

015 蟹江康光・西条好迪 1969. 神津島自然
観察行. 横須賀市博雑報, (14): 28-31.

伊豆諸島, 神津島を訪れた時の紀行文。流紋岩類
についての記述がある。

火山岩, 流紋岩, 神津島, 伊豆諸島, 東京都
volcanic rock, rhyolite, Kozu Island, Izu Islands





- 016 蟹江康光 1970. 三浦半島, 秋谷の第三紀層からブナ *Fagus crenata* BLUME の発見とその意味. * 横須賀市博研報, [自然], (16): 30-34.

三浦半島西部の佐島地区に露出する三浦層群からブナの葉化石が発見された。それから類推される古地理が考察されている。

YCM-GP0172

ブナ, 三浦層群, 新第三紀, 横須賀市, 神奈川県 *Fagus crenata*, Miura Group, Neogene, Yokosuka City, Kanagawa

- 017 蟹江康光 1970. 三浦半島のおいたち. 横須賀市博雑報, (15): 27-29.

展示「三浦半島のおいたち」の古地形を作成するために, 海陸地形を数値で復元したときのデータ。古地理, 新第三紀, 第四紀, 三浦半島, 神奈川県 paleogeography, Neogene, Quaternary, Miura Peninsula, Kanagawa

- 018 新井重三・高橋幸夫・坂本栄一・蟹江康光 1971. 三浦半島, 津久井におけるいわゆる化石床の成因について (予報) * 横須賀市博研報 [自然], (17): 1-11.

化石層は, 化石床とも呼ばれ, その成因にさまざまな解釈が行われた。宮田層に典型的な形状の化石床が見つかり, その成因を論じた。

化石床, 宮田層, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県 fossil enclosure, Miyata Formation, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 019 蟹江康光 1971. 三浦半島, 津久井ならびにその周辺の宮田層. * 横須賀市博研報 [自然], (17): 28-32.

横須賀市津久井に露出する宮田層の層序的位置を報告。

層序, 宮田層, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県 stratigraphy, Miyata Formation, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 020 蟹江康光 1971. 未固結堆積物の採取一

博物館展示への応用一. 横須賀市博雑報, (16): 16-28.

固結の弱い実物の化石層を博物館内で展示するために, 試行した報告。

展示, 化石層, 堆積物, 宮田層, 第四紀, 横須賀市 exhibition, fossil bed, deposit, Miyata Formation, Quaternary, Yokosuka City

- 021 蟹江康光・長谷川善和 1971. 横須賀市大木根で完全なナウマン象肩甲骨の発掘. 横須賀市博雑報, (16): 28-29.

横須賀市南西部でナウマン象の化石が発見され, 肩甲骨は完全な状態で発掘された。これらの標本は, 展示「ナウマン象」で公開されている。

YCM-GP0210

ナウマンゾウ, 宮田層, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県 *Palaeoloxodon naumanni*, Miyata Formation, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 022 蟹江康光 1971. 三浦半島のおいたち. 横須賀市博教育資料シリーズ, (7): 11 ページ.

展示「三浦半島のおいたち」の展示解説書。同書は3版まで改訂され, 現在は「深海から生まれた三浦半島」に改題されている。

新第三紀, 三浦層群, 葉山層, 三浦半島, 神奈川県 Neogene, Miura Group, Hayama Formation, Miura Peninsula, Kanagawa

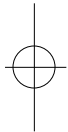
- 023 蟹江康光・正井義郎 1971. 横須賀市博物館のおいたちと使命. 地質ニュース, (202): 59-63.

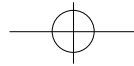
1970年に移転開館した横須賀市博物館の地質部門の全国への紹介。

博物館, 地質, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県 museum, geology, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

- 024 長谷川善和・蟹江康光 1971. 横須賀市大木根の宮田層産ナウマン象. * 横須賀市博研報 [自然], (18): 36-41.

横須賀市南西部でナウマンゾウの頭骨を除く化石





が発掘され、特に肩胛骨は完全な状態で採取できた。これらの標本の形状を記載した報告書。

YCM-GP0210, 0501-001^012

ナウマンゾウ, 哺乳類, 宮田層, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県

Palaeoloxodon naumanni, mammal, Miyata Formation, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

025 蟹江康光 1971. 未固結堆積物の実物展示.

* 博物館研究, 44(3): 13-17.

固結の弱い実物の化石層を博物館内で展示するために、実行した経過を博物館界へ報告。

展示, 博物館学, 化石層, 堆積物, 第四紀, 横須賀市 exhibition, museology, fossil bed, deposit, Quaternary, Kanagawa

026 蟹江康光・柴田敏隆 1971. 博物館資料収納器具の規格化. * 博物館研究, 44(3): 34-40.

横須賀市博物館で地質標本・貝類標本などを収納するために、収納器具の規格化を推進した。この企画は、その後、多くの博物館などで採用され、一標準規格となっている。

博物館学, 博物館, 収納器具, 規格化, 横須賀市, 神奈川県

museology, museum, storage, standardize, Yokosuka City, Kanagawa

027 蟹江康光 1972. 和歌山県湯浅の南西方の白亜系から産出した *Anagaudryceras* と *Inoceramus* について. 地質学会第 79 年会演旨: 141.

和歌山県湯浅から報告された白亜紀アンモナイト。

YCM-GP 0500-001^005

白亜紀, アンモナイト, イノセラムス属, 湯浅, 和歌山県 Cretaceous, ammonite, *Inoceramus*, Yuasa, Wakayama

028 蟹江康光 1972. ナウマン象. 横須賀市博教育資料シリーズ, (13): 11 ページ.

ナウマンゾウの化石は、1868 年に横須賀軍港の工事中に日本で最初に発見され、ナウマン博士によって世界に報告された。横須賀市南西部でも 1929 年、

1964 年と 1970 年に発見された。その歴史的研究をも含めた展示解説書。

ナウマンゾウ, 哺乳類, 展示, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県

Palaeoloxodon naumanni, mammal, exhibition, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

029 蟹江康光 1972. 自然科学資料の標本番号と産地記載. 神奈川県博協会報, (28): 14-17.

自然科学資料, 特に化石の研究には、産出地と産状の記述が必要である。横須賀市博物館における標本番号と産地記載の方法についての報告。

博物館学, 地質標本, 産地, 標本番号, 横須賀市, 博物館

museology, geological specimen, locality, specimen number, Yokosuka City, museum

030 KANIE Y. 1972. *Anagaudryceras* and *Inoceramus* from the Cretaceous formation of southwestern Yuasa, Wakayama Prefecture, Japan. *Sc. Rept., Yokosuka City Mus.*, (19): 20-22, pl. 3.

和歌山県湯浅から報告された白亜紀後期のアンモナイトと二枚貝のイノセラムス。

YCM-GP0500-001^005

白亜紀, アンモナイト, イノセラムス属, 湯浅, 和歌山県 Cretaceous, ammonite, *Inoceramus*, Yuasa, Wakayama

031 鹿間時夫・長谷川善和・蟹江康光 1972. 横須賀市大津層産巨角鹿距骨化石. * 横須賀市博研報〔自然〕, (19): 36-39. pl. 4.

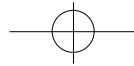
オオツノジカは巨角鹿と書く。約14万年前の大津層から、そのかかとの骨が見つかり、*Shinomegaceroides* sp. に同定された。

YCM-GP0521

オオツノジカ, 哺乳類, 第四紀, 大津層, 横須賀市, 神奈川県

astragalus, mammal, Quaternary, Otsu Member, Yokosuka City, Kanagawa

032 蟹江康光 1973. アメリカの博物館と古生物



学. 横須賀市博雑報 (18): 35-40.

1971 年, ロサンゼルス群立自然史博物館に滞在し, あわせてアメリカ各地の自然史博物館を訪れ, 特に古生物学とのかかわりを報告した。

古生物学, 博物館, 博物館学, ロサンゼルス, アメリカ

paleontology, museum, museology, Los Angeles, U. S. A.

033 蟹江康光 1973. エアースクライブマシンによる化石整形. 横須賀市博雑報 (18): 40-41.

エアースクライブマシンは, 空気圧工具で, もともと彫刻などに使用されてきた。アメリカ各地で化石の整形に使用されており, 価格も安価であるので, 報告した。固い岩石に有効である。

エアースクライブ, 圧縮空気, クリーニング, 整形, 化石

air scribe, compressed air, preparation, orthopedition, fossil

034 蟹江康光・大越 章 1973. 三浦半島、宮田累層の層序について. 地質学会第80 年会演旨: 17.

三浦半島南部には, 宮田層と呼ばれる海成の第四紀層が分布している。層序の概略についての報告。

宮田層, 第四紀, 三浦市, 横須賀市, 神奈川県
Miyata Formation, Quaternary, Miura City, Yokosuka City, Kanagawa

035 長沼幸男・新井重三・蟹江康光・長浜春夫 1973. 三浦半島, 上総層群最下部層の古流系. 地質学会第80 年会演旨: 123.

上総層群の下部, 小柴層などには, 斜層理 (クロスベッド) をもつ堆積構造が見られる。その方位から, 地層堆積時の古流向を測定した。

第四紀, 上総層群, 斜層理, 古流向, 横浜市, 神奈川県
Quaternary, Kazusa Group, cross bed, paleocurrent, Yokohama City, Kanagawa

036 KANIE Y. and HABE T. 1973. A new species of the Cretaceous pleurotomariid from Cape Soya, north Hokkaido, Japan. *Japan. Jour. Malacol. Venus*, 32(1): 19-24.

Pleurotomaria 属は, 中生代のジュラ紀と白亜紀に栄え, 中生代末 (～始新世?) に絶滅したオキナエビスガイ科の一属である。日本の白亜紀層から最初の新種。
NSM-PM

Pleurotomaria, オキナエビスガイ科, 新種, 白亜紀, 北海道

Pleurotomaria, Pleurotomariidae, new species, Cretaceous, Hokkaido

037 KANIE Y. 1973. A new species of Miocene *Entemnotrochus* from the south of Nokogiri-yama, Boso Peninsula, Japan. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (20): 41-45, pl. 21.

現生のリュウグウオキナエビス *Entemnotrochus rumphii* (SCHEPMAN) の祖先型と考えられる。
Entemnotrochus 属の化石では最初の報告。

YCM -GP0529-001

Entemnotrochus, 巻貝, 三浦層群, 新第三紀, オキナエビスガイ類, 千葉県,
Entemnotrochus, Gastropoda, Miura Group, Neogene, Pleurotomariidae, Chiba

038 蟹江康光 1974. ロサンゼルス郡立自然史博物館. モンキー, (130): 14-17.

1971 年, ロサンゼルス群立自然史博物館に滞在し, 特に古生物学部門についての報告。

古生物学, 博物館, 博物館学, ロサンゼルス, アメリカ

paleontology, museum, museology, Los Angeles, U. S. A.

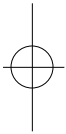
039 蟹江康光 1974. マダガスカル, 東アフリカの古生物調査. 横須賀市博雑報, (19): 49-56.

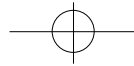
マダガスカルにおける日本隊による古生物学調査。蟹江は白亜紀アンモナイトと恐竜の調査を分担。帰途に東アフリカのカラー盆地のゴンドワナ相堆積物を調査。

アンモナイト, 恐竜, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ゴンドワナ

ammonite, dinosaur, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

040 蟹江康光 1974. 横須賀市博物館付属臨海自然





教育園ならびにその周辺（佐島）の地形・地質．＊横須賀市博雑報, (20): 64-69.

天神島臨海自然教育園を含む，横須賀市佐島付近の地質。

天神島臨海自然教育園，横須賀市，博物館，地形，地質，神奈川県

Tenjinjima Marine Biological Garden, Yokosuka City, museum, topography, geology, Kanagawa

- 041 高橋輝雄・大越 章・長田敏明・長沼幸男・蟹江康光・新井重三 1974. 三浦半島東南部第四系の堆積学的研究. 地質学会第81年会演旨: 67.

三浦半島東部には横須賀累層と呼ばれる第四紀の海成層が分布している。ここでは堆積学的検討を報告。横須賀層，第四紀，堆積学，横須賀市，神奈川県
Yokosuka Formation, Quaternary, sedimentology, Yokosuka City, Kanagawa

- 042 蟹江康光 1974. 北海道浦河地方の白亜系。地質学会第81年会演旨: 146.

1966年の論文「北海道浦河地方の白亜系」のフィールドをさらに下部白亜系まで拡大し，その層序を報告。

層序，軟体動物，微化石，白亜紀，浦河，北海道
stratigraphy, mollusca, microfossil, Cretaceous, Urakawa, Hokkaido

- 043 蟹江康光 1975. 石灰質ノジュールの粒度分析. 横須賀市博雑報, (21): 9.

炭酸カルシウムを含むノジュールあるいはコンクリーションと周辺堆積物を粒度分析した結果の検討。ノジュール，コンクリーション，粒度分析，堆積学，石灰質
module, concretion, grain analysis, sedimentology, calcareous

- 044 蟹江康光 1975. 超音波スケーラー利用による化石整形. 横須賀市博雑報, (21): 24.

歯石除去に使用されている超音波スケーラー利用による化石整形の結果。

超音波スケーラー，化石，整形，古生物学
ultrasonic scaler, fossil, orthopedition, paleontology

- 045 蟹江康光 1975. サンドブラスト機による化石整形. 横須賀市博雑報, (21): 25.

サンドブラスト機は，石・ガラスへの彫刻や塗料剥離などに粉末を加圧空気で吹き付ける機械である。脊椎動物の化石整形には以前から使用されてきた。報告は小型化石への試行結果。

サンドブラスト機，化石，整形，古生物学
sand brast machine, fossil, orthopedition, paleontology

- 046 KANIE Y. 1975. Some Cretaceous patelliform gastropods from the northern Pacific region. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (21): 1-44, pls. 1-20.

笠型巻貝にはさまざまな種類があるが，白亜紀のものはカツラガイに近い種類であることを明らかにした。蟹江の博士論文。

YCM-GP0498, 0534, 0538, 0543^6, 591, Ur036013, 224003, 260012, 305002, 311001^311004, 457001-002, 457008-001, 457027-019, 457027-021, 457027-023, 463002,

白亜紀，笠型巻貝，進化，北海道，北太平洋
Cretaceous, limpet, evolution, Hokkaido, Northern Pacific

- 047 蟹江康光 1976. マダガスカル，インドの古生物調査. 横須賀市博雑報, (22): 54-59.

マダガスカルにおける日本隊による第2次古生物学調査。蟹江は白亜紀アンモナイトと恐竜の調査和を分担。帰途にインドのゴンドワナの植物化石を調査。

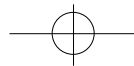
アンモナイト，恐竜，白亜紀，マダガスカル，古生物，ゴンドワナ

ammonite, dinosaur, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

- 048 蟹江康光 1976. 三浦半島のおいたち. 横須賀市博教育資料シリーズ, (7 改訂版): 10 ページ.

展示「三浦半島のおいたち」の展示解説書。本書は改訂2版。現在は「深海から生まれた三浦半島」に改題されている。

新第三紀，三浦層群，葉山層，三浦半島，神奈川県



Neogene, Miura Group, Hayama Formation, Miura Peninsula

049 蟹江康光・小島郁生 1976. 恐竜のひそむ地層. 自然科学と博物館, 43(3): 105-107.

マダガスカルにおける日本隊による第2次古生物学調査。蟹江は白亜紀恐竜の調査を分担。国立科学博物館の出版物に投稿。

恐竜, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ギンドワナ dinosaur, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

050 小島郁生・蟹江康光 1976. アンモナイトを求めて. 自然科学と博物館, 43(3): 108-110.

マダガスカルにおける日本隊による古生物学調査。蟹江は白亜紀恐竜の調査を分担。

アンモナイト, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ギンドワナ ammonite, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

051 蟹江康光・小島郁生 1976. 恐竜時代の陸と海. 自然科学と博物館, 43(3): 111-114.

マダガスカルにおける日本隊による古生物学調査。蟹江は白亜紀の地層調査を分担。

古地理, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ギンドワナ paleogeography, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

052 蟹江康光・小島郁生 1976. マダガスカル島西北部, マジュンガ近郊の含恐竜骨白亜系について. 地質学会第83年会演旨: 51.

マダガスカル, マハジャンガ (マジュンガ) における恐竜化石を含む白亜紀の調査。

恐竜, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ギンドワナ dinosaur, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

053 木村政昭・湯浅真人・正井義郎・蟹江康光 1976. 三浦半島で発見された漸新—中新世初期の枕状溶岩. * 地質調査所月報, 27(7):

451-457, 図版 8-10.

横須賀市平作で枕状溶岩が発見された。現在は横須賀市の天然記念物に指定されている。

枕状溶岩, 始新世, 天然記念物, 横須賀市, 神奈川県 pillow lava, Eocene, natural monument, Yokosuka City, Kanagawa

054 蟹江康光・石川重幸 1976. 三浦半島, 平作川の沖積層. * 横須賀市博研報 [自然], (23): 45-59.

三浦半島中東部を流れる平作川には, 深さ 50 m におよぶ埋積谷地形が存在する。縄文海進によって埋積された堆積物の多くは軟弱地盤をつくっている。

YCM-GP0553^0555

沖積層, 平作川, 埋積谷, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県 Alluvium, Hirasaku River, buried valley, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

055 長谷川善和・蟹江康光 1976. 横須賀市内産ニホンムカシジカ角化石. * 横須賀市博研報 [自然], (23): 71-74, 図版6.

ニホンムカシジカは, 日本各地で見つかった化石鹿である。化石は大津層産。

YCM-GP0547

ニホンムカシジカ, *Cervus praenipponicus*, 大津層, 横須賀市, 神奈川県

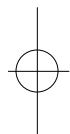
antler, *Cervus praenipponicus*, Otsu Member, Yokosuka City, Kanagawa

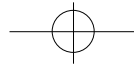
056 首藤次男・高安泰助・岩井武彦・鎌田泰彦・西岡幸一・大塚妙子・小高民夫・増田孝一郎・小笠原憲四郎・野田浩司・鎮西清高・蟹江康光・岡本和夫・松隈昭彦・岩崎泰彦 1977. 鮪川層・安田層・瀧西層の関係について. * 九州大学理研報 [地質], 12(3): 215-227.

「化石・現生底生生態群集の比較生態学的研究」(文部省科学研究費補助金, 総合研究) の一つ「男鹿半島鮪川層の底生群集」の報告書。

底生群集, 軟体動物, 新第三紀, 男鹿半島, 秋田県 benthos, mollusca, Neogene, Oga Peninsula, Akita

057 蟹江康光・新井重三・長沼幸男・大越章・長





田敏明・高橋輝雄 1977. 三浦半島東部, 横須賀付近の第四系. * 地質雑, 83(3): 157-168.

三浦半島東部には横須賀累層と呼ばれる第四紀の堆積学が分布している。地質図を図示し、層序には堆積学的解析をした。

横須賀層, 第四紀, 堆積学, 横須賀市, 神奈川県
Yokosuka Formation, Quaternary, sedimentology, Yokosuka City, Kanagawa

058 KANIE Y. 1977. Succession of the Cretaceous patelliform gastropods in the Northern Pacific region. In MATSUMOTO, T. org.: Mid-Cretaceous Events — Hokkaido Symposium, 1976 —. *Palaeont. Soc. Japan, Spec. Paps.*, (21): 53-62., pl. 1.

46の博士論文を日本古生物学会誌にレビューした。笠型巻貝にはさまざまな種類があるが、白亜紀のものはカツラガイに近い中腹類であることを明らかにした。

YCM-GP0544

白亜紀, 笠型巻貝, 進化, 北海道, 北太平洋
Cretaceous, limpet, evolution, Hokkaido, Northern Pacific

059 KANIE Y., HIRANO H. and TANABE K. 1977. Lower Cenomanian mollusks from Diégo-Suarez, northern Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, [C], 3(2): 107-132, pls.1-4.

マダガスカル北端のアンチラナナ（ディエゴスアレ）の白亜紀セノマニアン（セノマニアン）の地層から黄鉄鉱化した小型アンモナイトが多産する。BOULE (1906-1907) と COLLIGNON (1928-1929, 1931)の論文を改訂。

アンモナイト, 軟体動物, 白亜紀, セノマニアン, マダガスカル
ammonite, mollusca, Cretaceous, Cenomanian, Madagascar

060 OBATA I. and KANIE Y. 1977. Upper Cretaceous Dinosaur-bearing sediments in Majunga region, Northwestern Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, [C], 33: 161-172, pls.1-49.

52 報告の論文。マダガスカル, マハジャンガ（マジュンガ）におけるは恐竜化石を含む白亜紀の地層。恐竜, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ギンダワナ dinosaur, Cretaceous, Madagascar, paleontology, Gondwana

061 蟹江康光・小島郁生・三上 進 1977. 古生物学的立場からみたオオベソオウムガイの生態観察. 地質学会第 84 年会演旨: 383.

アンモナイトに似る殻の内部構造をもつオウムガイ類の生態観察を, 日本ではじめて行った。観察結果は遊泳性よりも底生動物的であった。

オウムガイ類, *Nautilus* 属, アンモナイト, 現生, 生態 Nautiloid, *Nautilus*, ammonite, modern, mode of life

062 蟹江康光・小島郁生・三上 進 1977. 古生物学的立場からみたオオベソオウムガイの生態観察. 地質雑, 83(4): 247-249.

アンモナイトに似る殻の内部構造をもつオウムガイ類の生態観察を行った。結果は遊泳性よりも底生動物的であった。

オウムガイ類, *Nautilus* 属, アンモナイト, 現生, 生態 Nautiloid, *Nautilus*, ammonite, modern, mode of life

063 蟹江康光 1977. 化石オウムガイ類とアンモナイト類の生活を復元する. 自然科学と博物館, 44(4): 158-161.

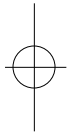
オウムガイ類の生態観察結果は遊泳性よりも底生動物的であったことにもとづき, アンモナイトを生物として復元した。62 論文の解説。

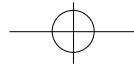
オウムガイ類, *Nautilus* 属, アンモナイト, 現生, 生態 Nautiloid, *Nautilus* 属, ammonite, modern, mode of life

064 福田芳生・川本信之・小島郁生・蟹江康光 1978. 走査型電子顕微鏡によるシーラカンス鱗表面の観察. * 横須賀市博研報〔自然〕, (24): 45-50, 図版 8-9.

生きている化石シーラカンスの鱗表面を走査型電子顕微鏡での観察結果。

シーラカンス, 魚類, 鱗, 走査型電子顕微鏡, SEM Coelacanth, pisces, scale, scanning electron





microscope, SEM

- 065 NODA M. and KANIE Y. 1978. Campanian *Inoceramus* from the Menabe area, south western Madagascar, Part I. *Bull. Natn Sci., Mus.*, [C], 4(1): 11-32, pls.1-4.

マダガスカル南西部のメナベ地方には海成の後期白亜紀層が連続的に露出し、アンモナイトや二枚貝のイノセラムスの進化を考えるのに、よいフィールドである。

イノセラムス, *Inoceramus* 属, 進化, 白亜紀, マダガスカル *Inocerami*, *Inoceramus*, evolution, Cretaceous, Madagascar

- 066 蟹江康光 1978. 三浦半島および房総半島へそ石（コンクリーション）の産出層準について. 横須賀市:博館報, (24): 28-30.

8の報告の続報。へそ石は、三浦半島東南部だけでなく、房総半島中部地域の保田層群の風化した泥岩中に転石として含まれている。

YCM-GP0542, GR0132, 0155-001^004, 0156-001
コンクリーション, 新第三紀, 葉山層 (群), 保田層群, 神奈川県, 千葉県
concretion, Neogene, Hayama Formation (Group), Hota Group, Kanagawa, Chiba

- 067 蟹江康光 1978. 南関東地域の地殻歪量. 横須賀市博館報 (24) : 29-30.

気象庁が、海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
earthquake foreseeing, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 068 蟹江康光 1978. 第2回北アメリカ古生物学会議 (NAPC, II) および白亜紀中期地史的事変 (MGE) 研究グループのキャンザス集会に参加して. 横須賀市博館報, (24): 37-41.

北アメリカ古生物学会議 (NAPC, II) は、北米で最大の古生物学会である。その一セッションが白亜紀中期地史的事変 (MGE) の研究集会であった。

北アメリカ古生物学会議, 白亜紀, 地史, Western Interior, アメリカ

North American Paleontological Convention, Cretaceous, geohistory, Western Interior, U. S. A.

- 069 蟹江康光 1978. 北海道浦河産のアナプチクスについて. 地質学会第5年会演旨: 230.

アナプチクスはアンモナイト蓋という意味であるが、実は顎器であった。北海道浦河産白亜紀のものは *Gaudryceras* の顎器と推定された。

アナプチクス, 顎器, アンモナイト, 白亜紀, 浦河, 北海道

anaptychus, jaw apparatus, ammonite, Cretaceous, Urakawa, Hokkaido

- 070 NODA M. and KANIE Y. 1978. Campanian *Inoceramus* from the Menabe area, southwestern Madagascar, Part II. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, [C], 4(2): 63-72, pls. 5-8.

マダガスカル南西部のメナベ地方には海成の後期白亜紀層が連続的に露出し、二枚貝のイノセラムスの進化を考えるのに、よいフィールドである。論文 65 の第2報。

イノセラムス, *Inoceramus* 属, 進化, 白亜紀, マダガスカル *Inocerami*, *Inoceramus*, evolution, Cretaceous, Madagascar

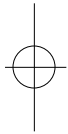
- 071 OBATA I. and KANIE Y. 1978. A Danian nautiloid from Majunga, northwest Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, [C], 4(2): 73-82, pls. 1-2.

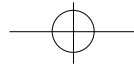
白亜紀-古第三紀 (K-T) 境界の直上にダニアンがある。そこからはアンモナイトは産せず、オウムガイ類が見つかる。マハジャンガ (マジュンガ) から新種 *Hercoglossa danica* を記載した。

オウムガイ類, *Hercoglossa danica*, ダニアン, K-T 境界, マダガスカル

Nautiloid, *Hercoglossa danica*, Danian, K-T boundary, Madagascar

- 072 UJIIÉ H., KANIE Y. and OBATA I. 1978. Notes on localities of the Cretaceous-Tertiary Pelecypods described from Madagascar. *Bull.*





Natn. Sci. Mus., [C], 4(3): 132-135. In TASHIRO, M.: Selected bivalve fossils from the Maastrichtian, Danian and Eocene of Madagascar: 117-138, pls. 1-3.

白亜紀-古第三紀 (K-T) 境界の直上にダニアンがある。そこからはアンモナイトは産しないが、二枚貝化石を多産する。その産地を記載した。

二枚貝, ダニアン, K-T 境界, 化石産地, マダガスカル
Bivalvia, Danian, K-T boundary, fossil locality, Madagascar

073 蟹江康光 1978. Mid-Cretaceous Events 及び North American Paleontological Convention II のキャンザス集会. 化石, (28): 87-96.

北アメリカ古生物学会議 (NAPC, II) は、北米で最大の古生物学会である。その一セッションが白亜紀中期地史の事変 (MGE) の研究集会であった。

北アメリカ古生物学会議, 白亜紀, 地史, Western Interior, U.S.A.

North American Paleontological Convention (NAPC), Cretaceous, geohistory, Western Interior

074 蟹江康光・棚部一成・福田芳生・平野弘道・小畠郁生 1978. 日本及び樺太産後期白亜紀アンモナイト顎器の研究予報. 地質雑誌 84(10): 629-631, 図版 1.

オウムガイ類の生態観察から、アンモナイトの蓋と呼ばれていたものは、顎器であることが明らかになった。白亜紀アンモナイト顎器の研究予報。

アンモナイト, 顎器, 白亜紀, 日本, サハリン
ammonite, jaw apparatus, Cretaceous, Japan, Saghalien

075 浜田隆士・出口吉昭・福田芳生・波部忠重・平野弘道・蟹江康光・川本信之・三上 進・小畠郁生・奥谷喬司・棚部一成 1978. 日本におけるオウムガイ類飼育研究の進展.
* 貝類雑誌, 37(3): 131-136.

日本で初めての水族館におけるオウムガイ類の飼育報告。この研究が日本だけでなく、世界のアンモ

ナイト研究のエポックメイキングになった。

オウムガイ類, アンモナイト, 飼育, 水族館, 日本
Nautiloid, ammonite, keeping, aqualium, Japan

076 蟹江康光・米谷盛寿郎・竹谷陽二 1978. 浦河地域. *Cretaceous* 一白亜紀の国際対比に関する総合研究連絡誌一, (1): 10-13.

文部省科学研究費補助金による「白亜紀の国際対比に関する総合研究」による北海道浦河地域の研究報告。

微化石, 白亜紀, 対比, 浦河, 北海道
microfossil, Cretaceous, correlation, Urakawa, Hokkaido

077 TANABE K. and KANIE Y. 1978. Colour markings in two species of tetragonitid ammonites from the Upper Cretaceous of Hokkaido, Japan. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (25): 1-6, pl. 1.

オウムガイ類生態観察の業績。白亜紀アンモナイトの *Tetragonites* が、現生オウムガイの *Nautilus* に似ていると推定。

オウムガイ属, *Tetragonites*, アンモナイト, 白亜紀, 北海道

Nautilus, *Tetragonites*, ammonite, Cretaceous, Hokkaido

078 蟹江康光・米谷盛寿郎・竹谷陽二郎 1979. 浦河地域の白亜紀系化石層序について(補足). *Cretaceous*, (2): 25-26.

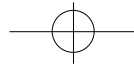
報告 76 の補足。文部省科学研究費補助金による「白亜紀の国際対比に関する総合研究」による北海道浦河地域の研究報告。

微化石, 白亜紀, 対比, 浦河, 北海道
microfossil, Cretaceous, correlation, Urakawa, Hokkaido

079 蟹江康光 1979. 南関東地域の地殻歪量 (2). 横須賀市博物館報 (25): 25.

earthquake foreseeing, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa





- 080 蟹江康光・棚部一成 1979. フィリピン
海域でのオウムガイ生態予察調査報告.

* 横須賀市博物館報, (25): 26-29.

オウムガイ類生態観察の業績。水槽からフィールドでの観察へ踏み出した。フィリピンでのオウムガイの調査。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィリピン

pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

- 081 蟹江康光・棚部一成 1979. フィリピンの博物館と大学. 横須賀市博物館報, (25): 30-32.

フィリピンでのオウムガイの調査の合い間に博物館や大学の現状とシステムをも調査した。

博物館, 大学, 学校, フィリピン

museum, university, school system, Philippines

- 082 TANAKA K. KANIE Y. and OBATA I. 1979. Maastrichtian and Danian Echinoids from northwestern Madagascar. *Bul. Natn. Sci. Mus.*, [C]: 5(2): 25-50, pls. 1-3.

白亜紀末期と-古第三紀 (K-T) 境界の直上のダニアンウニ類の調査と研究。マハジャンガ (マジュンガ) 東方のチョークからなる海成層。

白亜紀, 古第三紀, K-T 境界, ウニ, マダガスカル
Cretaceous, Paleogene, K-T boundary, Echinoid, Madagascar

- 083 KANIE Y. 1979. Implosion of living *Nautilus* under increased hydrostatic pressure. *System. Ass. Symp. Ammonoidea*, York: 12.

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイの生息深度限界を, 海洋科学技術センターの高圧水槽に生態を入れて実験。破壊深度圧力は約 800 m。アンモナイトの国際研究会で発表。

オウムガイ類, *Nautilus* 属, 生息深度, 水圧, 加圧実験

Nautiloid, *Nautilus* depth, hydrostatic pressure

- 084 TANABE K., KANIE Y., FUKUDA, Y., LEHMANN, U. 1979. Rhyncholites and conchorhynchids as calcified jaw elements in some Cretaceous ammonites. *System. Ass. Symp. Ammonoidea*, York: 19

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイ類の顎器を白亜紀アンモナイトとの比較研究。アンモナイトの国際研究会で発表。

オウムガイ類, *Nautilus*, 顎器, 白亜紀, アンモナイト
Nautiloid, *Nautilus* 属, jaw apparatus, Cretaceous, ammonite

- 085 KANIE Y., TANABE K. 1979. Jaw morphology of Cretaceous tetragonitid ammonites. *System. Ass. Symp. Ammonoidea*, York: 12., 20.

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイ類の顎器を白亜紀アンモナイトの *Tetragonites* に比較。アンモナイトの国際研究会で発表。

オウムガイ類, *Nautilus*, 顎器, 白亜紀, アンモナイト, *Tetragonites*

Nautiloid, *Nautilus* 属, jaw apparatus, Cretaceous, ammonite, *Tetragonites*

- 086 蟹江康光・三上 進・山田俊郎・平野弘道・浜田隆士 1979. 飼育環境下におけるオオベソオウムガイの殻成長. * 貝類雑, 38(2): 129-134.

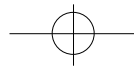
オウムガイ類生態観察の業績。飼育オウムガイ類の殻成長を報告。

オウムガイ類, *Nautilus* 属, アンモナイト, 飼育, 殻成長

Nautiloid, *Nautilus*, ammonite, keeping, shell growth

- 087 KANIE Y. and OBATA I. 1979. Notes on Cretaceous paleogeography in western coast of Madagascar. 1 ' *Histoire du Gondwana vue de Madagascar*, Tananarive.

マダガスカルにおける古生物学調査。蟹江は白亜紀の地層調査を分担。51 の報告に新資料を加えて発表。



古地理, 白亜紀, マダガスカル, 古生物, ギンドワナ
geography, Cretaceous, Madagascar, paleontology,
Gondwana

- 088 福田芳生・小島郁生・棚部一成・蟹江康光 1979. 走査型電子顕微鏡によるトグロコウイカ螺環表面の観察. * 横須賀市博研報, [自然], (26): 9-12, 図版. 3-4.

オウムガイ類生態観察の業績。トグロコウイカの卵殻の走査型電子顕微鏡によるトグロコウイカ螺環表面の観察。

走査型電子顕微鏡, SEM, トグロコウイカ, 頭足類, 殻構造

scanning electron microscope, SEM, *Spirula*, Cephalopoda, shell structure

- 089 MATSUMOTO T. KANIE Y. 1979. Two ornate ammonites from the Urakawa Cretaceous area, Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (26): 13-20, pls. 5.

北海道浦河産のアンモナイト2種を報告。

YCM-GPUr740010, 741001

アンモナイト, *Texanites*, *Promuniericeras*, 白亜紀, 浦河, 北海道

ammonite, *Texanites*, *Promuniericeras*, Cretaceous, Urakawa, Hokkaido

- 090 蟹江康光・棚部一成・福田芳生・平野弘道・小島郁生 1979. レーマン教授とアンモナイト古生物学. 化石, (29): 133-138.

オウムガイ類生態観察の業績。レーマン教授（ハンブルグ大学）は「アンモナイト古生物学」の著者。1978年に日本人5人と熱海で開催した研究会の報告。

レーマン, アンモナイト, オウムガイ類, 古生物学, 研究会

LEHMANN, ammonite, Nautiloidea, paleontology, research group

- 091 MATSUMOTO T. KANIE Y. and YOSHIDA S. 1979. Notes on *Pachydiscus* from Hokkaido. *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ.*, [D]: 44-73, pls. 8-13.

この報告の中で MATSUMOTO and KANIE は浦河における白亜紀末期マーストリヒティアンから *Pachydiscus hidakaensis* n. sp. を記載した。

YCM-GPUr133001

アンモナイト, 白亜紀, マーストリヒティアン, 浦河, 北海道

ammonite, Cretaceous, Maastrichtian, Urakawa, Hokkaido

- 092 松本達郎・棚部一成・蟹江康光 1980. Symposium on the Ammonoidea 出席報告. 地質雑, 86(2): 157.

オウムガイ類生態観察の業績。1979年8月, イギリスのヨークで開催されたアンモナイトシンポジウムの報告。

アンモナイト, オウムガイ類, シンポジウム, イギリス ammonite, Nautiloidea, symposium, England

- 093 MIKAMI S., OKUTANI T., HIRANO H., KANIE Y. and HAMADA, T. 1980. Behaviors in captivity: 11-22. In JECOLN: *Nautilus macromphalus* in Captivity. Tokai Univ. Press, Tokyo.

オウムガイ類生態観察の業績。オオベソオウムガイの水族館水槽内での長期観察記録。

オオベソオウムガイ, 飼育, 水族館

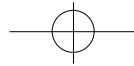
Nautilus macromphalus, keeping, aquarium

- 094 KANIE Y. and HIRANO H. 1980. Bibliography of modern *Nautilus*.: 67-78. In JECOLN: *Nautilus macromphalus* in Captivity. Tokai Univ. Press, Tokyo.

オウムガイ類生態観察の業績。現生オウムガイ類の文献集。

現生, オウムガイ類, *Nautilus* 属, 文献集 modern, Nautiloidea, *Nautilus*, bibliography

- 095 小島郁生・福田芳生・棚部一成・宮内敏哉・蟹江康光 1980. 後期白亜紀ハコエビ *Linuparus japonicus* NAGAO の頭胸甲外皮の微細構造. 九州大学理学部地質研報, 13(2):



277-283, 図版 17-18.*

後期白亜紀カンパニアンのコエビ *Linuparus japonicus* を走査型電子顕微鏡で観察した。

白亜紀, ハコエビ, *Linuparus japonicus*, 走査型電子顕微鏡, SEM

Cretaceous, Lobster, *Linuparus*, scanning electron microscope, SEM

096 蟹江康光 1980. 頭足類のニューズレター。地質雑, 86(3): 218-219.

オウムガイ類生態観察の業績。1977 年から届けられた Cephalopoda Newsletter の紹介。

頭足類、オウムガイ類、アンモナイト
Cephalopoda, Nautiloidea, ammonite

097 KANIE Y., FUKUDA Y., NAKAYAMA, H. SEKI K. and HATTORI, M. 1980. Implosion of living *Nautilus* under increased pressure. *Paleobiology*, 6(1): 44-47.

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイの生息深度限界を、海洋科学技術センターの高圧水槽に生態を入れて実験。破壊深度の圧力は約 800 m。世界初の生体実験。

オウムガイ, *Nautilus* 属, 生息深度, 水圧, 加圧実験
pearly shell, *Nautilus*, depth, hydrostatic pressure

098 蟹江康光 1980. 中生代アンモナイト11種
ハンブルグ大学より横須賀市博物館に寄贈
横須賀市博物館報, (26): 19.

ハンブルグ大学のレーマン教授を訪問した蟹江は、北海道白亜紀のアンモナイトとドイツ産中生代アンモナイトをと交換した。

YCM-GP559^569

中生代、アンモナイト、ドイツ、ハンブルグ大学、レーマン
Mesozoic, ammonite, Germany, Hamburg University, LEHMANN

099 蟹江康光 1980. 南関東地域の地殻歪量
(3). 横須賀市博物館報, (26): 19.

気象庁が、海溝型地震予知のために南関東地区と

静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県

earthquake foreseeing, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

100 蟹江康光 1980. 北・中部ヨーロッパの地質・古生物博物館, 研究所. 横須賀市博物館報, (26): 29-32.

ヨーク博物館, コペンハーゲン地質博物館, ハンブルグ大学地質学古生物学研究所, ニーダーザクセン地質調査所, ゼンケンベルグ自然史博物館, ハーフ化石博物館, チュービンゲン大学地質学古生物学博物館, シュツトガルト州立博物館, ゴルンホーフェン, ベルン自然史博物館, ウイーン自然史博物館を紹介。

博物館, 自然史, 地質学, 古生物学, ヨーロッパ
museum, natural history, geology, paleontology, Europe

100 蟹江康光 1980. 北・中部ヨーロッパの地質・古生物博物館, 研究所. 横須賀市博物館報, (26): 29-32.

ヨーク博物館, コペンハーゲン地質博物館, ハンブルグ大学地質学古生物学研究所, ニーダーザクセン地質調査所, ゼンケンベルグ自然史博物館, ハーフ化石博物館, チュービンゲン大学地質学古生物学博物館, シュツトガルト州立博物館, ゴルンホーフェン, ベルン自然史博物館, ウイーン自然史博物館を紹介。

博物館, 自然史, 地質学, 古生物学, ヨーロッパ
museum, natural history, geology, paleontology, Europe

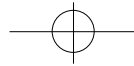
101 KANIE Y. 1980. A new Cretaceous pleurotomariid (Archaeogastropoda) from Hokkaido, Japan. *Prof. S. KANNO. Men. Vol.*: 155158, pls. 18-19.

日本の白亜紀層から2番目のオキナエビス類の新種, *Pleurotomaria yezoensis* を記載。

YCM-GP459015, 0558

Pleurotomaria 属, オキナエビスガイ科, 白亜紀, 浦河, 北海道





Pleurotomaria, Pleurotomariidae, Cretaceous,
Urakawa, Hokkaido

- 102 TANABE K, HIRANO H. and KANIE Y.
1980. The jaw apparatus of *Scalarites*
mihoensis, a Late Cretaceous ammonite.
Bull. Natn. Sci. Mus., [C]: 159-165, pls. 20.

オウムガイ類生態観察の業績。異常巻アンモナイトのスカラリテスの顎器を記載した。
異常巻, アンモナイト, *Scalarites*, 顎器, 白亜紀,
北海道
heteromorph, ammonite, *Scalarites*, jaw apparatus,
Cretaceous, Hokkaido

- 103 TANABE K. FUKUDA Y. KANIE Y. and
LEHMANN U. 1980. Rhyncholites and
conchorhynchids as calcified jaw elements
in some Late Cretaceous ammonites.
Lethaia, 13(2): 157-168.

オウムガイ類生態観察の業績。白亜紀アンモナイトの *Tetragonites* と *Gaudryceras* 顎器の記載。現生オウムガイ類と比較。
白亜紀, アンモナイト, *Tetragonites*, *Gaudryceras*,
顎器, オウムガイ類
Cretaceous, ammonite, *Tetragonites*, *Gaudryceras*,
jaw apparatus, Nautiloid

- 104 HAYAMI I. and KANIE Y. 1980. Mode of
life of a giant capulid gastropod from the
Upper Cretaceous of Saghalien and Japan.
Palaeontology, 23(3): 689-698.

46 の論文で, *Anisomyon giganteus*, *Helcion*
giganteus としていたもの *Gigantocapulus giganteus*
に変更。属名として *Gigantocapulu* を創設
UMUT.MM5535, 5711

Gigantocapulus 属, *Anisomyon* 属, *Helcion* 属, 笠
型巻貝, イノセラムス, 白亜紀,
Gigantocapulus, *Anisomyon*, *Helcion*, limpet,
Inoceramus, Cretaceous

- 105 蟹江康光 1980. 巨大化は進む: 85-89.

浜田隆土編. 日本列島のおいたち. 東海
大学出版会.

Gigantocapulus giganteus を含め, 白亜紀の笠型巻
貝の進化を解説。

Gigantocapulus 属, *Anisomyon* 属, 笠型巻貝, 巻貝,
白亜紀, 進化,
Gigantocapulus, *Anisomyon*, limpet, Cretaceous,
evolution

- 106 KANIE Y., TAKAHASHI T. and MIZUNO
Y. 1980. Color pattern of Cretaceous pleu
rotomariid gastropods from Hokkaido. *Sci.*
Rept. Yokosuka City Mus., (27): 37-42, pls.
1-2.

白亜紀オキナエビスガイ類 *Pleurotomaria fausta* と
P. ezoensis に色模様が保存されている化石が見され
た。模様は現生種と共通である。

YCM-H0002, H8001^3

オキナエビスガイ科, *Pleurotomaria* 属, 色模様, 白
亜紀, 北海道
Pleurotomariidae, *Pleurotomaria*, color pattern,
Cretaceous, Hokkaido

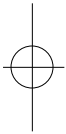
- 107 LEHMANN U., TANABE K., KANIE
Y. and FUKUDA Y. 1980. Ueber den
Kieferapparat der Lytocerataceae
(Ammonoidea). *Palaeont. Z.*, 54(3-4): 319-
329. Stuttgart.

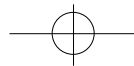
オウムガイ類生態観察の業績。リトセラス科アン
モナイトの顎器を記載。

アンモナイト, 顎器, リトセラス科, ジュラ紀, 白
亜紀
ammonite, jaw apparatus, Lytocerataceae, Jurassic,
Cretaceous

- 108 蟹江康光・早坂祥三・税所俊郎 1981.
中部フィリピンにおけるオウムガイ自生
海域の生態予察調査. 横須賀市博館報,
(27): 40-42.

オウムガイ類生態観察の業績。文部省科学研究費
補助金による中部フィリピンにおけるオウムガイ自





生海域の生態調査報告。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィリピン

pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

109 蟹江康光 1981. 南関東地域の地殻歪量
(4). 横須賀市博館報, (27): 27.

気象庁が、海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。
地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
earthquake foreseeing, strain, South Kanto, Mabori
Biological Garden, Kanagawa

110 蟹江康光・竹谷陽二郎・宮田雄一郎・
1981. 浦河地域の白亜系化石層序につ
いて (補足 2). *Cretaceous* — 白亜系の国
際対比に関する総合研究連絡誌, (4): 29-
32. 仙台.

78 報告の補足。文部省科学研究費補助金による
「白亜紀の国際対比に関する総合研究」による北海道
浦河地域の研究報告。

微化石, 白亜紀, 対比, 浦河, 北海道
microfossil, Cretaceous, correlation, Urakawa,
Hokkaido

111 蟹江康光 1981. 北海道浦河地方の白亜
紀化石層序. 地質学会第 88 年学術大会演
旨: 135. 東京.

白亜紀前期を含めた浦河地方の層序。

76 報告の補足。文部省科学研究費補助金による
「白亜紀の国際対比に関する総合研究」による北海道
浦河地域の研究報告。

微化石, 白亜紀, 対比, 浦河, 北海道
microfossil, Cretaceous, correlation, Urakawa,
Hokkaido

112 蟹江康光 1981. フィリピンにおけるオ
ウムガイの漁業生物学的研究. 水産学会
演旨: 344: 86. 東京.

オウムガイ類生態観察の業績。文部省科学研究費
補助金による中部フィリピンにおけるオウムガイ自

生海域の生態調査報告。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィリピン

pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

113 ASAMA, K. OBATA, I. and KANIE, Y.
1981. Paleontological investigation of
Madagascar by the National Science
Museum Team. Tokyo. *Recent Prog. Nat.
Scis. Japan*, 6: 163-174.

1973 年と 1975 年マダガスカル古生物調査の調査
報告の概報。

古生物学, 白亜紀, 国立科学博物館, マダガスカル
paleontology, Cretaceous, National Science
Museum, Madagascar

114 蟹江康光・服部陸男・中山英明・関 邦
博・水嶋康夫・設楽文明・伊藤信夫 1981.
高水圧下におけるオウムガイの呼吸と殻
破壊実験. 貝雑類, 40(2): 86-95. *

オウムガイ類生態観察の業績。業績番号 97 作成以
後に行ったオウムガイの追加加圧実験。2 回検証し
たが、第 1 回実験とほぼ同様な結果が得られた。

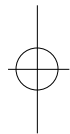
オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 水圧, 呼吸, 殻破壊,
pearly shell, *Nautilus pompilius*, hydrostatic
pressure, respiration, shell implosion

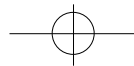
115 蟹江康光・竹谷陽二郎・酒井 彰 宮田
雄一郎 1981. 北海道浦河地方における
蝦夷層群直下の下部白亜系. 地質雑, 87(8):
527-533, 図版 1.*

北海道浦河地方における蝦夷層群直下に整合関係
でニタラチ層と呼ばれる前期白亜紀バランギニアン
の放散虫群集が見いだされた。

放散虫, ニタラチ層, 白亜紀, バランギニアン, 浦
河, 北海道.
radiatoria, Nitarachi Formation, Cretaceous,
Valanginian, Urakawa, Hokkaido

116 蟹江康光 1981. アンモナイトのすみか





と泳ぎ方: 113-134. 小島郁生編, 恐竜時代の生物と自然. 築地書館, 東京.

オウムガイ類生態観察の業績。現生オウムガイ類の研究によって, 絶滅したアンモナイトの生息場所と泳ぎ方を解明できるようになった。

オウムガイ類, *Nautilus* 属, 白亜紀, アンモナイト, 生息環境, 遊泳性

Nautiloidea, *Nautilus*, Cretaceous, ammonite, mode of life, nectonic

- 117 蟹江康光・大越 章 1981. 三浦半島, 宮田台地の第四系. 横須賀市博研報[自然], (28): 57-77.*

三浦半島, 宮田台地には宮田層と呼ばれる第四紀の地層が分布している。層序および地層の分布を地質図示した。

宮田層, 第四紀, 三浦半島, 三浦市, 横須賀市, 神奈川県

Miyata Formation, Quaternary, Miura Peninsula, Miura City, Yokosuka City, Kanagawa

- 118 蟹江康光・川下由太郎・東海大学相模高等学校化石研究会 1981. 北海道平取町上貫気別の上部白亜系産巨大笠型巻貝. 横須賀市博研報[自然], (28): 85-90, 図版20-21.*

論文番号 104 に記載した *Gigantocapulus giganteus* はサハリン産のものであったが, 新たに北海道産の化石を報告する。巻貝としては最大級であろう。

YCM-GP0579-001, 0580-001

Gigantocapulus, 笠型巻貝, イノセラムス属, 白亜紀, 北海道

Gigantocapulus, limpet, *Inoceramus*, Cretaceous, Hokkaido

- 119 OBATA I. KANIE Y., RANAIVONSON C. and RATSIMBA Y. 1981. On the Occurrence of Late Cretaceous molluscan assemblages from the Menabe area, south western Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus.*, [C], 7(4): 155-168, pls. 1-4.

マダガスカル南西部のメナベ地方の白亜紀軟体動物化石群集の報告。ここからは COLLIGNON の膨大なアンモナイトの記載がある。

白亜紀, 軟体動物, アンモナイト, イノセラムス属, メナベ, マダガスカル

Cretaceous, mollusca, ammonite, *Inoceramus*, Menabe, Madagascar

- 120 地学文献目録作成グループ 1982. 神奈川県の文献目録—地学関係(1976-1977). 神奈川自然誌資料, (3): 39-51.

神奈川県の地学文献目録を, 第四紀, 新第三紀, 古生物, 岩石・鉱物, 地質, 地下水・温泉, その他に分けて記述。

地質学, 文献集, 目録, 神奈川県

geology, bibliography, catalogue, Kanagawa

- 121 蟹江康光 1982. 南関東の地殻歪量 (5). 横須賀市博館報, (28): 17.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県 earthquake foreseeing, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 122 蟹江康光 1982. 中部フィリピン, タニョン海峡におけるオウムガイの生態調査. 横須賀市博館報, (28): 22-25.

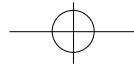
オウムガイ類生態観察の業績。文部省科学研究費補助金による中部フィリピンにおけるオウムガイ自生海域の生態調査報告。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィリピン

pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

- 123 蟹江康光 1982. ナウマン象. 横須賀市博教育資料シリーズ, (13): 1-11. 改訂版.

32の改訂版。ナウマンゾウの化石は, 1868年に横須賀軍港の工事中に日本で最初に発見され, ナウマン博士によって世界に報告された。横須賀市南西部でも1929年, 1964年と1970年に発見された。その歴史的研究の展示解説書。



ナウマンゾウ, 哺乳類, 展示, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県

Palaeoloxodon naumanni, mammal, exhibition, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 124 KANIE Y. 1982. Cretaceous tetragonitid ammonite jaws: a comparison with modern *Nautilus* jaw. Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., (125): 239-258, pls. 39-40.

オウムガイ類生態観察の業績。白亜紀アンモナイトの *Tetragonites* 類アンモナイトの顎器は, オウムガイ属 *Nautilus* のものに似ている。

YCM-GP.Ur307002

白亜紀, アンモナイト, *Tetragonites*, 顎器, オウムガイ属, *Nautilus*

Cretaceous, ammonite, *Tetragonites*, jaw apparatus, Nautiloid, *Nautilus*

- 125 MATSUMOTO T., OBATA I., OKAZAKI Y. and KANIE Y. 1982. An interesting occurrence of a fossil reptile in the Cretaceous of the Obira area. Hokkaido. Proc. Japan. Acad, [B], 58(5): 109-113.

オウムガイ類生態観察の業績。北海道の上部白亜紀層から海生爬虫類の腹部に多数の頭足類顎器が発見された。

爬虫類, 頭足類, 顎器, 白亜紀, 上部蝦夷層群, 北海道 Reptile, Cephalopoda, jaw apparatus, Cretaceous, Upper Yezo Group, Hokkaido

- 126 蟹江康光 1982. 浦河地方における空知層群上部層ならびに蝦夷層群の化石層序。北海道中軸帯の中生界の諸問題 : 3-6. 地団研札幌支部。

シンポジウム「北海道中軸帯の中生界」で浦河地方における空知層群上部層ならびに蝦夷層群の化石層序を報告。

化石層序, 白亜紀, 空知層群, 蝦夷層群, 浦河, 北海道

biostratigraphy, Cretaceous, Sorachi Group, Yezo Supergroup, Urakawa, Hokkaido

- 127 HAYASAKA S., SAISHO T., KAKINUMA Y., SHINOMIYA A., OKI K., HAMADA T., TANABE K., KANIE Y., HATTORI M., VANDE VUSSE F., ALCALA L., CORDERO P. Jr., CABRERA J. J. and GARCIA R. G. 1982. Field study on the habitat of *Nautilus* in the environs of Cebu and Negros Islands, the Philippines. Mem. Kagoshima Univ. Res. Center S. Pac., 3(1): 67-138.

オウムガイ類生態観察の業績。科学研究費補助金によるフィリピン海域でのオウムガイの生態調査報告。

頭足類, オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, フィリピン

Cephalopoda, pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

- 128 蟹江康光 1982. 北九州市立自然史博物館に寄贈された白亜紀アンモナイトの顎器。北九州市立自然史博研報, (4): 9-12.

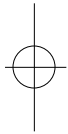
オウムガイ類生態観察の業績。北九州市立自然史博物館に寄贈された白亜紀アンモナイトの顎器 KMNH.lvp200, 002

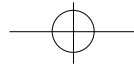
頭足類, アンモナイト, 顎器, 白亜紀, 北海道 Cephalopoda, ammonite, jaw apparatus, Cretaceous, Hokkaido

- 129 蟹江康光 1982. 北海道浦河地方における *Metaplacenticeras subtilistriatum* (白亜紀アンモナイト)の産出層準。横須賀市博研報, [自然], (29): 5-8.

白亜紀アンモナイト *Metaplacenticeras subtilistriatum* の北海道浦河地方における産出層準白亜紀末期のマーストリヒティアンにあることを報告。アンモナイト, *Metaplacenticeras subtilistriatum*, 白亜紀, マーストリヒティアン, 北海道 ammonite, *Metaplacenticeras subtilistriatum*, Cretaceous, Maastrichtian, Hokkaido

- 130 MATSUMOTO T. and KANIE Y. 1982. On





the Cretaceous keeled ammonites from the Urakawa area, Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (29): 9-22, pls. 1-2.

北海道, 浦河地方の上部白亜紀層からアンモナイト *Texanites*, *Protexanites*, *Mortoniceras* を報告。

YCM-GP0583, 0584

アンモナイト, *Texanites*, 白亜紀, 浦河, 北海道 ammonite, *Texanites*, Cretaceous, Urakawa, Hokkaido

- 131 蟹江康光 1983. オウムガイを追って多島海域に探る—フィリピン・1978・1980・1981. 採集と飼育, 45(2): 59-63.

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイを追ってフィリピンの多島海域において 1978・1980・1981 年調査の報告。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィリピン

pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

- 132 蟹江康光 1983. 三浦半島のおいたち。横須賀市博教育資料シリーズ, 7: 10 ページ。改訂 2 版。

展示「三浦半島のおいたち」の展示解説書の改訂 3 版。現在は「深海から生まれた三浦半島」に改題されている。

新第三紀, 三浦層群, 葉山層, 三浦半島, 神奈川県 Neogene, Miura Group, Hayama Formation, Miura Peninsula, Kanagawa

- 133 蟹江康光 1983. 南関東地域の地殻歪量 (6). 横須賀市博館報, (29): 11.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県 forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 134 蟹江康光 1983. 1977-1982 年の地殻歪量からみた南関東地域の地殻変動。横須賀市博館報, (29): 12-13.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の 1974 年 4 月から 1982 年 12 月の計測値データ解析。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県 forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 135 KANIE, Y. and HATTORI, M. 1983. Shell Implosion depth of living *Nautilus*. *Kagoshima Univ. Res. Center S. Pac., Occasional Paps.*, (1): 30-35.

オウムガイ類生態観察の業績。97 論文作成以後に行ったオウムガイの追加加圧実験。2 回目検証 (135 論文), 3 回目の検証 (本論文) したが, 第 1 回実験とほぼ同様な結果が得られた。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 水圧, 呼吸, 殻破壊

pearly shell, *Nautilus pompilius*, hydrostatic pressure, respiration, shell implosion

- 136 棚部一成・早坂祥三・浜田隆士・蟹江康光・青木一永 1983. フィリピン, タニョン (Tanon) 海域におけるオウムガイ (*Nautilus pompilius*) の垂直分布ならびに形態の変異。地質学会第 90 年学術大会: 279.

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイを追ってフィリピンの多島海域において 1978・1980・1981 年調査の報告。

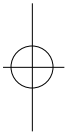
オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィリピン

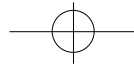
pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

- 137 蟹江康光・大木公彦・服部陸男 1983. フィリピン, タニョン海峡におけるオウムガイの生息環境調査。日本地質学会第 90 年学術大会演旨: 280. 鹿児島。

オウムガイ類生態観察の業績。オウムガイを追ってフィリピンの多島海域において 1978・1980・1981 年調査の報告。

オウムガイ, *Nautilus pompilius*, 生態, 現生, フィ





リピン

pearly shell, *Nautilus pompilius*, mode of life, modern, Philippines

- 138 蟹江康光・大塚真弘・森山哲和 1983. 地層断面剥離による展示 横須賀市博物館報, (31): 40-42.

横須賀市人文博物館の開館にあたって、関東ロー
ム層の地層剥ぎ取り標本を作製・展示した技術報告。
博物館, 展示, 博物館学, 関東ローム層, 地層剥ぎ
取り標本
museum, exhibition, museology, Kanto Loam,
geological peel specimen

- 139 蟹江康光 1983. 三浦半島最古の岩石,
(上). 広報よこすか, (406): 6.

三浦半島最古の岩石は、始新世（約 4000 万年前）
の三浦枕状溶岩である。年代測定は K-Ar 法と Ar-Ar
法による。横須賀市広報誌に掲載。

古第三紀, 始新世, 枕状溶岩, 放射年代, 横須賀市,
神奈川県
Paleogene, Eocene, pillow lava, geological age,
Yokosuka City, Kanagawa

- 140 蟹江康光 1983. 三浦半島最古の岩石,
(下). 広報よこすか, (406): 6.

三浦半島最古の岩石は、始新世（約 4000 万年前）
の三浦枕状溶岩である。年代測定は K-Ar 法と Ar-Ar
法による。横須賀市広報誌に掲載。

新第三紀, 始新世, 枕状溶岩, 放射年代, 横須賀市,
神奈川県
Neogene, Eocene, pillow lava, radio isotope age,
Yokosuka City, Kanagawa

- 141 KANIE, Y. 1983. Occurrences of some
Cretaceous limpets in the Pacific and the U.S.
Western Interior regions. Sci. Rept.
Yokosuka City Mus., (31): 9-14.

白亜紀笠型巻貝には A, B, C の 3 グループがあり,
A は "Anisomyon", B は *ezoensis*, C は
Palaelophaacmaea 群で, C 群は北米内陸地域では報
告がない。

笠型巻貝, 白亜紀, 層準, 太平洋, Western Interior,
U.S.A.

limpet, Cretaceous, geological horizon, Pacific,
Western Interior, U.S.A.

- 142 蟹江康光・山本健一郎 1984. 南関東地域
の地殻歪量 (7). 横須賀市博物館報, (31):
19.

気象庁が、海溝型地震予知のために南関東地区と
静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。
地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori
Biological Garden, Kanagawa

- 143 蟹江康光 1984. 四川省重慶自然博物館,
北部陳列館, 恐竜展覧室. 横須賀市博物館
報, (31): 45.

蟹江が 1980 年 8 月に四川省重慶自然博物館, 北部
陳列館, 恐竜展覧室を見学した時の報告。
自然博物館, 恐竜博物館, 重慶市, 四川省, 中国
Natural History Museum, Dinosaur Museum,
Chongching, Suchen, China

- 144 高橋功二・蟹江康光 1984. 付記, 記載
されたアンモナイト *Parahoplites colossus*
産出地点の地質について. 北海道立
地下資源調査書報告, (55): 26-28.

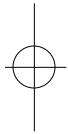
北海道北部の中川町から報告された白亜紀前期
(アプチアン後期, 約 120 Ma) アンモナイト
Parahoplites colossus 産出地点の地質報告。

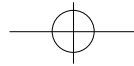
アンモナイト, 白亜紀, アプチアン, *Parahoplites* 属,
中川, 北海道
ammonite, Cretaceous, Aptian, *Parahoplites*,
Nakagawa, Hokkaido

- 145 蟹江康光・大場信義 1984. 化石水でホ
タルを飼う. 広報よこすか, (413): 6.

横須賀市走水・馬堀地区での湧水は、20 年以上前
に降った雨水が地下に蓄えられた地下水である。こ
の水でホタルを飼育する試み。

横須賀 (累) 層, 第四紀, ホタル, 飼育, 横須賀市,
神奈川県





Yokosuka Formation, Quaternary, firefly, keeping,
Yokosuka City, Kanagawa

- 146 MATSUMOTO T., MIYAUCHI T. and
KANIE Y. 1984. Cretaceous Nautiloid from
Hokkaido-V. *Trans. Palaent. Soc. Japan., N.*
S., (134): 335-346, pls. 62-66.

北海道産白亜紀オウムガイ類の研究。 *Cymatoceras sakaravum* は、マダガスカルのアルビアンから報告がある。

YCM-GPur1092001

オウムガイ類, *Cymatoceras*, 白亜紀, 三石, 北海道
Nautiloid, *Cymatoceras*, Cretaceous, Mitsuishi,
Hokkaido

- 147 蟹江康光 1984. 生きている化石オキナ
エビスガイ. 広報よこすか, (420): 3.

生きている化石として有名なオキナエビスガイの
共同研究の紹介。

巻貝, オキナエビス, 生きている化石, 現生, 相模湾
Gastropoda, *Mikadotrochus beyrichii*, living fossil,
Sagami Bay

- 148 蟹江康光・池田 等・渡辺富夫 1984.
オキナエビスガイ殻の南関東海域におけ
る形態変異. 横須賀市博研報 (自然),
(32): 51-56.

オキナエビスガイ殻の相模湾・東京湾・房総沖に
おける形態変異を論じた。

YCM-H8001, 8096

オキナエビス, *Mikadotrochus* 属, 南関東, 相模湾,
東京湾, 形態変異
slit shell, *Mikadotrochus*, South Kanto, Tokyo Bay,
variation

- 149 蟹江康光・林 公義 1985. 相模灘なら
びにその周辺のオキナエビスガイ. みた
まき, (17): 4-5. 相模貝類同好会.

相模湾・東京湾産オキナエビスガイの概報。

巻貝, オキナエビス, 生きている化石, 現生, 相模湾
Gastropoda, *Mikadotrochus*, living fossil, Sagami
Bay

- 150 蟹江康光 1985. 化石は生きている・オ
キナエビスガイ類. みたまき, (17): 8-10.
化石種オキナエビスガイ類の概要。

巻貝, オキナエビス, 生きている化石, 新生代, 中
生代, 古生代

Gastropoda, *Mikadotrochus beyrichii*, living fossil,
Cenozoic, Mesozoic, Paleozoic

- 151 川口通世・蟹江康光 1985. 北海道中央
部, 占冠地域の上部白亜系. 地質雑, 91(2):
73-86.

占冠地域の上部白亜紀層の層序・層相・産出化石,
対比. 記述標本は横須賀市博物館に収納されている。
アンモナイト, イノセラムス属, 白亜紀, 占冠, 北海
道

ammonite, *Inoceramus*, Cretaceous, Shimukappu,
Hokkaido

- 152 STANLEY, G. D. and KANIE, Y. 1985. The
first Mesozoic Chondrophorine (Medusoid
Hydrozoan), from the Lower Cretaceous
of Japan. *Palaentology*, 28(1): 101-109,
pl. 10.

白亜紀のクラゲの化石。現在, 異論もある。

YCM-GP0548, 0549, 0552

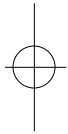
クラゲ, 巻貝, 白亜紀, 山中地溝帯, 群馬県
Medusoid, Gastropoda, Cretaceous, Sanchu
Graben, Gunma

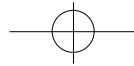
- 153 蟹江康光・山本健一郎 1985. 南関東地
域の地殻歪量(8). 横須賀市博館報, (32): 20.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と
静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori
Biological Garden, Kanagawa

- 154 蟹江康光 1985. 横須賀の地質. 横須賀
文化財シリーズ第2集: 100 ページ. 横須
賀市教育委員会.





横須賀の地質の解説書。文化財に指定された三浦枕状溶岩について詳しい。蟹江記載の新種と模式標本をも紹介。

地質, 枕状溶岩, 文化財, 横須賀市, 神奈川県
geology, pillow lava, culture and natural treasure, Yokosuka City, Kanagawa

- 155 蟹江康光・藤岡換太郎・木村政昭・古家英・谷口英嗣・登内正治 1985. 三浦半島の枕状溶岩の発掘と産状に関する新知見. 地質学会第 92 年学術大会演旨: 120.

三浦枕状溶岩の発掘調査報告。
地質, 枕状溶岩, 文化財, 横須賀市, 神奈川県
geology, pillow lava, culture and natural treasure, Yokosuka City, Kanagawa

- 156 蟹江康光 1985. 横須賀の 1 万年史. 広報よこすか, (425): 3.

過去 1 万年の時代は完新世と呼ばれる。横須賀の 1 万年史をその時代に堆積した沖積層の研究を解説。沖積層, 完新世, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県
Alluvium, Holocene, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 157 KANIE Y., HASEGAWA Y., OKAZAKI Y. and TATEMATSU M. 1985. Vampyromorpha, past and present. 2nd Internatl. Cephalopod Symp.: 11. T. Tuebingen.

「コウモリダコ-過去と現在」。ドイツのチュービンゲン大学を会場として開催された第 2 回国際頭足類シンポジウムの講演要旨。
コウモリダコ目, 頭足類, 軟体動物, 白亜紀, 現生 Vampyromorpha, Cephalopoda, mollusca, Cretaceous, modern

- 158 蟹江康光 1985. ナウマン象とオオツノジカ. 広報よこすか, (431): 3.

第四紀の横須賀市生息していたナウマンゾウとオオツノジカの概要。オオツノジカの詳細については論文 161 を参照。
ナウマンゾウ, オオツノシカ, 第四紀, 横須賀市,

神奈川県

Palaeoloxodon naumanni, *Shinomegaceros yabei*, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 159 MATSUMOTO T., MIYAUCHI T. and KANIE Y. 1985. Some gaudryceratid ammonites from the Campanian and Maastrichtian of Hokkaido. Part II. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (33): 19-36. pls. 1-5.

北海道の白亜紀後期の地層から採集されたゴードリセラス科アンモナイトの記載。その中で松本・蟹江は *Anagaudryceras tetragonum* を新種として記載。
YCM-GPUr076001

白亜紀, アンモナイト, *Anagaudryceras tetragonum*, 浦河, 北海道
Cretaceous, ammonite, *Anagaudryceras tetragonum*, Urakawa, Hokkaido

- 160 蟹江康光・松島義章・鹿島 薫・大森雄治・小島久美子 1985. 横須賀市役所地下における完新統の古生物と年代. 横須賀市博研報 (自然), (33): 37-44.

横須賀市役所地下において 1 万年以降に堆積した地層と化石および年代。
YCM-GP0592^0681

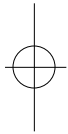
古生物, ¹⁴C 年代, 完新世, 横須賀市, 神奈川県
fossil, ¹⁴C age, Holocene, Yokosuka City, Kanagawa

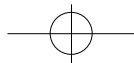
- 161 長谷川善和・蟹江康光 1985. 横須賀累層産オオツノジカ角化石. 横須賀市博研報[自然], (33): 45-48, 図版 6.

横須賀市池田町で発見されたオオツノジカの角化石の記載。*Shinomegaceros yabei* に同定された。
YCM-GP0683

オオツノシカ, 第四紀, 横須賀 (累) 層, 大津層, 横須賀市, 神奈川県
Shinomegaceros yabei, Quaternary, Yokosuka Formation, Otsu Member, Yokosuka City, Kanagawa

- 162 酒井 彰・蟹江康光 1986. 西舎地域の地質. 地域地質研究報告, 5 万分の 1 地質図幅, 釧路 (2) 第 66 号: 92 ページ.





地質調査所, 筑波.

北海道, 浦河地方における 5 万分の 1 地質図幅とその説明書「西舎地域の地質」. 「三石」図幅, さらに「浦河」図幅のセット.

地質, 地質図, 白亜紀, 西舎, 浦河, 北海道
geology, geological map, Cretaceous, Nishicha, Urakawa, Hokkaido

- 163 川口通世・蟹江康光・後藤道治 1986. 枝幸山地より *Inoceramus* 化石の発見. HSG〔総研 (A) 北海道中軸帯に分布する日高累層群の再検討〕研究連絡誌, (1): 25 - 27. 札幌.

北海道北部の枝幸山地から *Inoceramus uwajimensis* と *Mytiloides incertus* が発見され, 分布層は後期白亜紀のコニアシアンであることが判明した. イノセラムス属, 二枚貝, 白亜紀, 枝幸, 北海道
Inoceramus, Pelecypoda, Cretaceous, Esashi, Hokkaido

- 164 蟹江康光・木越邦彦 1986. 横須賀市久里浜湾口産イノシシ化石の ^{14}C 年代. 横須賀市博館報, (33): 3.

シュウコウテンイノシシとニホンイノシシの中間的特徴をもつ化石の年代測定を行った。結果は約 7000 年前の完新世のものであった。
YCM-GP0083, 0092

イノシシ属, ^{14}C 年代, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県
Sus, ^{14}C age, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 165 蟹江康光・山本建一郎 1986. 南関東地域の地殻歪量 (9). 横須賀市博館報, (33): 10.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。
地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 166 蟹江康光 1986. 蝦夷地向斜東側白亜系の特徴. 地質学会第 33 年学術大会演旨 202.

北海道中軸帯には, “蝦夷地向斜” 東側白亜系が南北に延長している。堆積物は細粒物質が多く, 微化石を多産する特徴がある。

石を多産する特徴がある。

蝦夷地向斜, 白亜紀, 蝦夷累層群, 浦河, 北海道
Yezo Geosyncline, Cretaceous, Yezo Supergroup, Urakawa, Hokkaido

- 167 小島郁生・蟹江康光・平野弘道・二上政夫 1986. 第 2 回国際頭足類シンポジウム—頭足類その現在と過去—。化石, (40): 35-40.

1985 年 7 月にドイツのチュービンゲン大学で開催された「第 2 回国際頭足類シンポジウム—頭足類その現在と過去—」の出席報告。

頭足類, シンポジウム, アンモナイト, オウムガイ類, 現生
Cephalopoda, symposium, ammonite, Nautiloid, modern

- 168 紀藤典夫・君波和雄・新井田清信・蟹江康光・渡辺暉夫・川口通世 1986. 空知層群と蝦夷累層群—北海道中軸帯の後期中生代オフィオライトと前孤海盆堆積物。地団研専報, (31): 81-96.

空知層群と蝦夷累層群—北海道中軸帯の後期中生代オフィオライトと前孤海盆堆積物のレビュー。

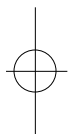
白亜紀, 空知層群, 蝦夷累層群, オフィオライト, 北海道
Cretaceous, Sorachi Group, Yezo Supergroup, ophiolite, Hokkaido

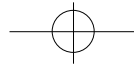
- 169 蟹江康光 1986. 大形化石層序からみた白亜紀の北海道。地団研第 40 回札幌総会演旨: 87-88.

北海道の白亜系は, 西から樺戸帯, 蝦夷帯西側, 蝦夷帯東側が分布する。そこから産したアンモナイトとイノセラムス, そして微化石についてレビューした。

白亜紀, アンモナイト, イノセラムス属, 微化石, 蝦夷累層群, 北海道
Cretaceous, ammonite, *Inoceramus*, microfossil, Yezo Supergroup, Hokkaido

- 170 蟹江康光・杉浦暁裕・江川公明 1986. 相





模難産オキナエビスガイの海中における生態. 貝類学雑誌, 45(3): 203-209.

相模湾(難)の海底で潜水調査船によるオキナエビスガイの最初の生態観察の報告。

オキナエビス, 巻貝, 生態, 潜水調査船, 相模湾
Mikadotrochus beyrichii, Gastropoda, mode of life, submarine vessel, Sagami Bay

171 蟹江康光・服部陸男 1986. オウムガイの生息深度限界. 海洋科学, 18(10): 666-668.

オウムガイ類生態観察の業績。論文 97 を国内向けに紹介。

オウムガイ, 生態, 生息深度, 水圧, 呼吸
Nautilus pompilius, mode of life, water depth, pressure, respiration

172 笹原由紀・蟹江康光 1986. 新第三系三浦層群に挟在する凝灰岩鍵層の鉱物組成. 横須賀市博研報(自然), (34): 29-37.

三浦層群の三崎層に挟まれる So と逗子層に挟まれる Ok, Hk 凝灰岩鍵層の鉱物組成を予察的に調査, 報告した。

凝灰岩, 鍵層, 三浦層群, 三浦半島, 神奈川県
tuff, key bed, Miura Group, Miura Peninsula, Kanagawa

173 蟹江康光 1986. 伊豆諸島鳥島西方海域のリュウグウオキナエビス. 横須賀市博研報(自然), (34): 67-70, 図版 2.

伊豆諸島鳥島西方海域の水深 150 m におけるキンメダイの生息域からリュウグウオキナエビスの生体がつり上げられた。本生息域はもっとも東部にある。
YCM-H8296

リュウグウオキナエビス, オキナエビスガイ科, 巻貝, 伊豆諸島
Entemnotrochus rumphii, Pleurotomariidae, Gastropoda, Izu Islands

174 蟹江康光 1986. 伊豆諸島鳥島沖産リュウグウオキナエビス. ちりぼたん, 17(3-4): 76-77.

伊豆諸島鳥島西方海域の水深 150 m におけるキンメダイの生息域からリュウグウオキナエビスガイの生体がつり上げられた。本生息域はもっとも東部に位置する。

YCM-H8296

リュウグウオキナエビス, オキナエビスガイ科, 巻貝, 現生, 伊豆諸島

Entemnotrochus rumphii, Pleurotomariidae, Gastropoda, Izu Islands

175 蟹江康光 1987. 白亜紀アンモナイト *Tetragonites* の「蓋」について. 古生物学会 1987 年年会講演予稿集: 50.

オウムガイ類生態観察の業績。白亜紀アンモナイト *Tetragonites* のアプチクスは顎器であるとされた。ところが「蓋」の機能をもっていたアンモナイトが発見された。

アンモナイト, *Tetragonites*, 白亜紀, 蓋, 北海道 ammonite, *Tetragonites*, Cretaceous, aptychus, Hokkaido

176 蟹江康光 1987. 地層中に挟まれている火山灰. 広報よこすか, (446): 3.

三浦層群の三崎層に挟まれる So と逗子層に挟まれる Ok, Hk 凝灰岩鍵層の鉱物組成を予察的に調査, 報告した。

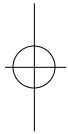
凝灰岩, 鍵層, 三浦層群, 三浦半島, 神奈川県
tuff, key bed, Miura Group, Miura Peninsula, Kanagawa

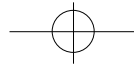
177 蟹江康光 1987. しんかい 2000 で見たオキナエビスガイ. 採集と飼育, 49(2): 65-67.

論文 170 の市民向けに紹介。相模湾(難)の海底で潜水調査船によるオキナエビスガイの最初の生態観察の報告。

オキナエビス, 巻貝, 生態, 潜水調査船, 相模湾
Mikadotrochus beyrichii, Gastropoda, mode of life, submarine vessel, Sagami Bay

178 蟹江康光 1987. 生きている化石—オキナエビスガイ類—. 理科の研究, (306): 4-5. 大日本図書.





論文 170 の教育者向けに紹介。相模湾（難）の海底で潜水調査船によるオキナエビスガイの最初の生態観察の報告。

オキナエビス, 巻貝, 生態, 潜水調査船, 相模湾
Mikadotrochus beyrichii, Gastropoda, mode of life, submarine vessel, Sagami Bay

179 蟹江康光・竹谷陽二郎 1987. 下部蝦夷層群の時代. HSG 研究連絡誌, (2): 24.

下部蝦夷層群の地質年代は不詳であった。放散虫化石とアンモナイトの産出から、オーテリビアン後期～アルビアン前期に対比された。

放散虫, アンモナイト, 白亜紀, 蝦夷層群, 北海道
radiolaria, ammonite, Cretaceous, Yezo Supergroup, Hokkaido

180 蟹江康光・山本健一郎 1987. 南関東地域の地殻歪量 (10). 横須賀市博館報, (34): 8.

気象庁が、海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

181 蟹江康光 1987. 三浦半島のおいたち. 横須賀市博教育シリーズ, (7): 1-10. 改訂 3 版.

展示「三浦半島のおいたち」の展示解説書。同書は 3 版まで改訂され、現在は「深海から生まれた三浦半島」に改題されている。

新第三紀, 三浦層群, 葉山層群, 三浦半島, 神奈川県
Neogene, Miura Group, Hayama Formation Group, Miura Peninsula, Kanagawa

182 長浜春夫・横山能史・金谷義之・蟹江康光 1987. 三浦半島城ヶ島完新世段丘. 地質学会第 94 年学術大会演旨: 118.

三浦半島最南端の城ヶ島で 2 段の段丘を識別し、それぞれを沼 I 面・沼 II 面に対比した。海成段丘, 沼面, 完新世, 城ヶ島, 三浦半島, 神奈川県

marine terrace, Numa Surface, Holocene, Jogashima, Miura Peninsula, Kanagawa

183 蟹江康光 1987. 活断層. 広報よこすか, (455): 3.

活断層についての紹介記事。衣笠断層, 北武断層, 武山断層について解説。

活断層, 衣笠断層, 北武断層, 武山断層, 横須賀市, 神奈川県
active fault, Kinugasa Fault, Kitatake Fault, Takeyama Fault, Yokosuka City, Kanagawa

184 蟹江康光・藤岡換太郎・古家英・谷口英嗣 1987. 三浦枕状溶岩およびその産状. 横須賀市博研報 (自然), (35): 23-28, 図版 5-6.

横須賀市平作から発見された枕状溶岩についての報告。枕状溶岩は岩塊で、カンラン石玄武岩からなる。Ar-Ar 年代は約 50 Ma である。溶岩塊は葉山層の粘土岩, 蛇紋岩塊と断層で接していた。

枕状溶岩, 玄武岩, 放射測定, 横須賀市, 神奈川県
pillow lava, basalt, radio isotope age, Yokosuka City, Kanagawa

185 蟹江康光 1988. 三浦半島のサンゴ礁. 広報よこすか 2 月号, (458): 3. 横須賀市. 現在の三浦半島周辺の海域にはサンゴ礁は分布していないが, 1600 万年前の葉山層の堆積時には, サンゴ礁が存在していた。

新第三紀, 中新世, 葉山層群, サンゴ礁, 横須賀市, 神奈川県

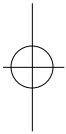
Neogene, Miocene, Hayama Formation Group, coral reef, Yokosuka City, Kanagawa

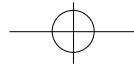
186 蟹江康光 1988. 横須賀市米が浜通完新統の ^{14}C 年代. 横須賀市博館報, (35): 1-2.

横須賀市米が浜通にある横須賀共済病院の地下 12 m (標高 -7.75 m) 完新統の ^{14}C 年代は 8850 ± 150 であった。

YCM-GP0694

完新世, ^{14}C 年代, 沖積層, 横須賀市, 神奈川県
Holocene, ^{14}C age, Alluvium, Yokosuka City,





Kanagawa

- 187 蟹江康光・服部睦男・林 公義・高橋賢一・青木太郎 1988. 相模湾東部海域の生物・底質調査. 横須賀市博館報, (35): 12-16.

相模湾東部海域でドレッジを使用して生物・底質調査を行った。水深は 20～368 m であった。亜深海, ドレッジ, 底生生物, 底質調査, 相模湾, 神奈川県
littoral, dredging, benthos, bottom, Sagami Bay, Kanagawa

- 188 蟹江康光・山本健一郎 1988. 南関東地域の地殻歪量 (11). 横須賀市博館報, (35): 17.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 189 蟹江康光 1988. 四川省自貢恐竜博物館. 横須賀市博館報, (35): 31-32.

四川省自貢市に恐竜博物館が開館した。ジュラ紀～白亜紀の四川盆地から発掘された恐竜や水中爬虫類が展示されている。恐竜, 爬虫類, 博物館, ジュラ紀, 白亜紀, 中国, dinosaur, Reptile, museum, Jurassic, Cretaceous, China

- 190 蟹江康光・竹谷陽二郎 1988. 下部蝦夷層群および空知層群中・上部の地質時代. HSG 研究連絡誌, 北大総研 (A) 北海道中軸部に分布する日高累層群の再検討 (3): 385-390.

下部蝦夷層群および空知層群中・上部の地質年代を放散虫化石で検討した。空知層群中・上部バランギニアン～オーテリビアン, 下部蝦夷層群はパレミアン～前期アルビアンに対比される。

蝦夷累層群, 日高累層群, 空知層群, 放散虫, 白亜

紀, 北海道

Yezo Supergroup, Hidaka Supergroup, Sorachi Group, radiolaria, Cretaceous, Hokkaido

- 191a 蟹江康光 1988. 三浦市の地形・地質. みうら 1988 年版: 2-4, 24-27, 42-44. 三浦市役所.

三浦市民向けに三浦市の地質を解説した。地質, 新第三紀, 三浦層群, 三浦市, 神奈川県 geology, Neogene, Miura Group, Miura City, Kanagawa

- 191b 蟹江康光 1988. 伝福寺裏遺跡の地質と堆積物の ^{14}C 年代. 横須賀市文化財調査報告書, (16): 111-113.

横須賀市久里浜にあった伝福寺裏遺跡の発掘調査報告書。そのうち地質と堆積物の ^{14}C 年代は約 5000 前に集中していた。

遺跡, 完新世, 久里浜, 横須賀市, 神奈川県 site, Holocene, Kurihama, Yokosuka City, Kanagawa

- 191c 蟹江康光 1988. 横須賀市久里浜, 入自然貝層の地質と堆積物の ^{14}C 年代. 横須賀市文化財調査報告書, (16): 185-186.

横須賀市久里浜にあった伝福寺裏遺跡の発掘調査報告書。そのうち, 入 (いり) 自然貝層の地質と堆積物の ^{14}C 年代は 7100～2200 年前であった。

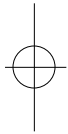
遺跡, 完新世, 久里浜, 横須賀市, 神奈川県 site, Holocene, Kurihama, Yokosuka City, Kanagawa

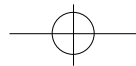
- 192 蟹江康光・笹原由紀 1988. 凝灰岩鍵層による三浦層群の対比—三浦・房総半島地域—。地質学会第 95 年学術大会講演要旨:146.

三浦・房総半島地域で凝灰岩鍵層による三浦層群の対比を再検討した。南帯の Ok 鍵層は北帯のそれとは異なることを報告した。

凝灰岩, 鍵層, 新第三紀, 三浦層群, 三浦半島, 房総半島

tuff, key bed, Neogene, Miura Group, Miura Peninsula, Boso Peninsula





- 193 三浦半島の中新世礁性サンゴ化石について。地質学会第95年学術大会演要旨: 149.

中新世の葉山層の分布地域にサンゴ礁化石を含む石灰岩が発見された。この石灰岩は、南部フォッサマグナ地域で発見されているものに類似している。

新第三紀, 中新世, 葉山層, サンゴ礁, 横須賀市, 神奈川県

Neogene, Miocene, Hayama Formation, reef coral, Yokosuka City, Kanagawa

- 194 蟹江康光・是枝匡輔 1988. 三浦半島の地質シリーズ (I) - 三浦半島の地層 - . 理科の研究, (318): 16-17.

三浦半島の地質を教職員向けに解説した。全3回。地質, 新第三紀, 三浦層群, 三浦市, 横須賀市, 神奈川県

geology, Neogene, Miura Group, Miura City, Kanagawa

- 195 蟹江康光・是枝匡輔 1988. 三浦半島の地質シリーズ (II) - 地殻変動と応用地質 - . 理科の研究, (319): 16-17.

三浦半島の地質を教職員向けに3回にわけて解説した。そのIIは地殻変動と応用地質。

地質, 新第三紀, 三浦層群, 三浦市, 横須賀市, 神奈川県

geology, Neogene, Miura Group, Miura City, Kanagawa

- 196 竹谷陽二郎・蟹江康光 1988. 下部蝦夷層群および空知層群中・上部の放散虫年代。日本古生物学会 1988年第137回例会講演予稿集: 11.

下部蝦夷層群および空知層群中・上部の地質年代を放散虫化石で検討した。空知層群上部はオーテリビアン, 空知層群中部はベリアシアン~前期オーテリビアン, 下部蝦夷層群はベリアシアン~前期アルビアンに対比される。

蝦夷累層群, 日高累層群, 空知層群, 放散虫, 白亜紀, 北海道

Yezo Supergroup, Hidaka Supergroup, Sorachi

Group, radioralia, Cretaceous, Hokkaido

- 197 蟹江康光・是枝匡輔 1988. 三浦半島の地質シリーズ (III) - 三浦半島の化石 - . 理科の研究, (320): 16-17.

三浦半島の地質を教育職員向けに3回にわけて解説した。そのIIIは化石。

地質, 新第三紀, 三浦層群, 三浦市, 横須賀市, 神奈川県

geology, Neogene, Miura Group, Miura City, Yokosuka City, Kanagawa

- 198 蟹江康光・笹原由紀 1988. 三浦半島南部金田地域の噴砂現象 - 千葉県東方沖地震にともなう地盤液状化 - . 地質雑, 94(7): 535-536.

三浦半島南部の金田地域で噴砂現象が観察された。これは千葉県東方沖地震にともなうもので、地盤が部分的に液状化したものである。

噴砂, 地震, 地盤液状化, 三浦市, 神奈川県

ejected sand, earthquake, liquefaction, Miura City, Kanagawa

- 199 蟹江康光 1988. 三浦半島にあった火山。広報よこすか 12月号, (468): 3.

地質時代の火山活動については、一つは火山豆石の存在から推定することができる。三浦層群から火山豆石が各所で発見されている。

火山豆石, 噴火, 火山, 三浦層群, 三浦半島, 神奈川県

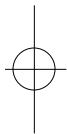
accretionary lapilli, eruption, volcano, Miura Group, Miura Peninsula, Kanagawa

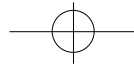
- 200 門田真人・末包鉄郎・蟹江康光 1988. 三浦半島の中新世礁性サンゴ化石。横須賀市博研報 (自然), (36): 11-18, 図版 1-2.

葉山層の分布地域に蛇紋岩礫とともにサンゴ礁化石を含む石灰岩が発見された。化石は 16-15 Ma (中新世前期~中新世後期) のもので、亜熱帯で形成され、付加したと推定された。

YCM-GP0724^0730, GR0385

新第三紀, 中新世, 葉山層 (群), サンゴ礁, 横須賀





市, 神奈川県

Neogene, Miocene, Hayama Formation (Group), reef coral, Yokosuka City, Kanagawa

- 201 蟹江康光 1988. 地質のあらし, 三浦半島の生い立ち, 応用地質と災害, 三浦半島をとりまく海底地形. 横須賀市域の自然, 第1編 自然環境 横須賀市史(上巻): 2-3, 4-8, 9-15, 25-26.

「横須賀市史」の一部として, 地質のあらし, 三浦半島の生い立ち, 応用地質, 防災, 周辺の海底地形が記述されている。

地質, 地史, 応用地質, 相模湾, 東京湾, 三浦半島 geology, geohistory, applied geology, Sagami Bay, Tokyo Bay, Miura Peninsula

- 202 蟹江康光・山本健一郎 1989. 南関東地域の地殻歪量(12). 横須賀市博館報, (36): 36.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県

forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 203 太田陽子・蟹江康光 1989. 横須賀市野比の地形. 横須賀市野比の地形. 文化財調査報告書, (19): 38-41. 横須賀市教育委員会.

横須賀市野比で地形の特徴を示すものに北武断層がある。また, その土地利用についても触れた。

地形, 北武断層, 土地利用, 野比, 横須賀市, 神奈川県

topography, Kitatake Fault, land utilization, Nobi, Yokosuka City, Kanagawa

- 204 蟹江康光・松田時彦・松島義章・平田大二・鹿島 薫・松原彰子 1989. 「諸磯の隆起海岸」調査報告. 三浦の自然: 51-61. 三浦市教育委員会.

「諸磯の隆起海岸」は国の天然記念物である。

1923年地震と隆起との関係を解明するため, トレンチ発掘調査を行った。三浦市への報告書。

諸磯の隆起海岸, 天然記念物, 地震, トレンチ調査, 三浦市, 神奈川県

uplifted beach line, natural monument, earthquake, trenching survey, Miura City, Kanagawa

- 205 服部陸男・蟹江康光 1989. 三浦半島周辺海域の生物・底質調査—共同研究実施概要—。JAMSTEC, 1(2): 11-15.

三浦半島周辺海域, 相模湾におけるドレッジ採集, 生物・底質調査。海洋科学技術センターとの共同研究。

ドレッジ, 底生生物, 底質, 海洋科学技術センター, 相模湾

dredging, benthos, bottom material, JAMSTEC, Sagami Bay

- 206 蟹江康光・岡田尚武・笹原由紀 1989. 三浦・房総半島三浦層群の石灰質ナノ化石層序年代. 地質学会第96年学術大会講演要旨: 219.

三浦・房総両半島に分布する三浦層群の石灰質ナノ化石分析による層序と年代の報告。

ナノ化石, 三浦層群, 層序, 三浦半島, 房総半島 nannofossil, Miura Group, stratigraphy, Miura Peninsula, Boso Peninsula

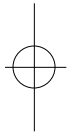
- 207 蟹江康光 1989. アンモナイトの海に重大な変化がおこりはじめていた. ニュートン, 9(6): 77.

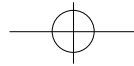
白亜紀後期の海における動物の巨大化した進化の解説。

アンモナイト, 白亜紀, 海生動物, 巨大化, 進化 ammonite, Cretaceous, marine animal, giant, evolution

- 208 蟹江康光 1989. 三浦半島の地殻変動. 理科の研究, (337): 12-13. 大日本図書.

内容は「貝がほった穴」, 「不整合に重なっている地層」, 「直立した地層」で, 三浦半島の地学教材で





ある。

諸磯の隆起海岸, 不整合, 地層, 地殻変動, 三浦半島, 神奈川県
uplifted beach line, unconformity, layer, tectonics, Miura Peninsula, Kanagawa

- 209 蟹江康光・松田時彦・松島義章・平田大二・鹿島 薫・松原彰子 1989. 三浦市天然記念物「諸磯の隆起海岸」および周辺の完新統. 横須賀市博研報 (自然), (37): 45-53.

諸磯の隆起海岸は三浦市西部にあり, 地震で地盤が隆起した証拠として, 国の天然記念物に指定されている。

YCM-GP0740^0811

隆起海岸, 完新世, 天然記念物, 三浦市, 三浦半島, 神奈川県
uplifted beach line, Holocene, natural monument, Miura City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 210 蟹江康光・長浜春夫・横浜能史・金谷義之 1989. 三浦半島城ヶ島の完新世段丘. 横須賀市博研報 (自然), (37): 97-98.

報告 182 の論文。三浦半島最南端の城ヶ島で 2 段の段丘を識別し, それぞれを沼 I 面・沼 II 面に対比した。沼 II 面の年代は 3750 年前である。

海成段丘, 沼面, 完新世, 城ヶ島, 三浦半島, 神奈川県
marine terrace, Numa Surface, Holocene, Jogashima, Miura Peninsula, Kanagawa

- 211 蟹江康光 1990. 鉄道創業時の工事と横須賀. 横須賀線百年: 129-131. 横須賀線百年出版委員会. 神奈川新聞社・かなしん出版, 横浜.

新橋～横浜鉄道線の工事は, 整備中の横須賀製鉄所の工事と密接に進められ, 明治 5 年に線路敷設のため高輪海岸 (品川付近) 埋め立てに土砂が運ばれた。ナウマンゾウの化石はこの時に発掘された。

ナウマンゾウ, 鉄道, 横須賀製鉄所, 横須賀市, 神奈川県

Palaeoloxodon naumanni, railway, Yokosuka Shipyard (Irons), Yokosuka City, Kanagawa

- 212 蟹江康光 1990. 逗子駅跨線橋は明治生まれ. 横須賀線百年: 166-167. 横須賀線百年出版委員会. 神奈川新聞社・かなしん出版, 横浜.

逗子駅の本屋側の跨線橋は明治 30 年代に鉄道作業局によってつくられたことが, 銘板から読みとれ, 近代化遺産として貴重なものである。

鉄道, 横須賀線, 逗子市, 神奈川県
railway, Yokosuka Line, Zushi City, Kanagawa

- 213 蟹江康光 1990. 横須賀線の貨物引込線. 横須賀線百年: 180-182. 横須賀線百年出版委員会. 神奈川新聞社・かなしん出版, 横浜.

横須賀線の貨物引込線は, 逗子・田浦・横須賀・久里浜の各駅にに広大なものがあったが, 貨物輸送が中止された現在では逗子, 田浦, 横須賀, 久里浜で業務用に使用されている。

鉄道, 横須賀線, 貨物駅, 横須賀市, 神奈川県
railway, Yokosuka Line, freight depot, Yokosuka City, Kanagawa

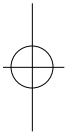
- 214 蟹江康光 1990. 三浦半島交通網の変遷. 横須賀線百年: 183-186. 横須賀線百年出版委員会. 神奈川新聞社・かなしん出版, 横浜.

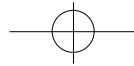
三浦半島陸上交通網の整備は, 初期は横須賀鉄道線から開始され, 1918 年に旧海軍水道逗子～田浦道路, 1928 年に現 16 号国道が開通した。横須賀線は 1924 年に複線電化され, 湘南電鉄も開通した。両線は第二次大戦中に久里浜まで延長された。

鉄道, 横須賀線, 湘南電鉄, 三浦半島, 神奈川県
railway, Yokosuka Line, Shonan Electric Railway, Miura Peninsula, Kanagawa

- 215 蟹江康光 1990. 幻の鉄道・衣笠～林線. 横須賀線百年: 186-188. 横須賀線百年出版委員会. 神奈川新聞社・かなしん出版, 横浜.

衣笠～林の鉄道線は, 東急電鉄武山線として 1994





～1945年に着工されたが、終戦によって工事は中止された。

鉄道, 横須賀線, 東急電鉄, 横須賀市, 神奈川県
railway, Yokosuka Line, Tokyu Corporation,
Yokosuka City, Kanagawa

216 蟹江康光 1990. 三浦半島の鉄道, 昨日・今日・明日. 横須賀線百年: 188-190. 横須賀線百年出版委員会 神奈川新聞社・かなしん出版, 横浜.

三浦半島で鉄道を含めた交通網の現状分析と未来が提案されている。

鉄道, 横須賀線, 道路, 三浦半島, 神奈川県
railway, Yokosuka Line, road, Miura Peninsula,
Kanagawa

217 蟹江康光・山本健一郎 1990. 南関東地域の地殻歪量 (13). 横須賀市博館報, (37): 30.

気象庁が、海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori
Biological Garden, Kanagawa

218 蟹江康光・服部陸男 1990. 「三浦層群のクロノロジイと諸問題」シンポジウムの意義. 日本地質学会第97年討論会講演要旨: 16. 横浜.

日本地質学会の横浜総会におけるシンポジウムとして蟹江・服部世話人による「三浦層群のクロノロジイと諸問題」が討論された。

クロノロジイ, 三浦層群, 地質学, シンポジウム,
三浦半島, 南関東

chronology, Miura Group, geology, symposium,
Miura Peninsula, South Kanto

219 蟹江康光・笹原由紀 1990. 三浦半島と房総半島中部の三浦層群の層序. 日本地質学会第97年討論会講演要旨: 19. 横浜.

218 シンポジウムの話題提供として「三浦半島と

房総半島中部の三浦層群の層序」が提案された。

層序, ナノ化石, 三浦層群, 三浦半島, 房総半島,
南関東

chronology, Miura Group, symposium, Miura
Peninsula, Boso Peninsula, South Kanto

220a 服部陸男・蟹江康光 1990. 「三浦層群のクロノロジイと諸問題」今後の研究課題. 日本地質学会第97年討論会講演要旨: 39. 横浜.

三浦層群の年代学は凝灰岩鍵層の対比とナノ化石年代で提案された。

年代学, 三浦層群, シンポジウム, 三浦半島, 房総半島, 南関東,

chronology, Miura Group, symposium, Miura
Peninsula, Boso Peninsula, South Kanto

220b 蟹江康光・服部陸男 1990. 「三浦層群のクロノロジイ -10～2 Maの南関東(相模湾～房総半島)に何がおきたか-」. 地質雑, 96(7): 587.

シンポジウム「三浦層群のクロノロジイと諸問題」の討論内容を地質学雑誌へレビューした。

年代学, 三浦層群, 三浦半島, 房総半島, 南関東

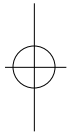
chronology, Miura Group, Miura Peninsula, Boso
Peninsula, South Kanto

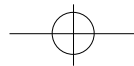
221 蟹江康光 1990. 逗子市池子産シロウリガイ類と現生シロウリガイ・アケビガイの生息環境. 日本貝類学会1990年度総会研究発表: 16. 横浜.

化石種 *Calypptogena nipponica* と現生種 *C. soyoe* および *Akebiconcha kawamurai* は形態・共産種の類似から、貧酸素環境に生息できる動物群である。

オトヒメハマグリ科, シロウリガイ属, アケビガイ属, 池子, 逗子市, 神奈川県

Vesicomysidae, *Calypptogena*, *Akebiconcha*, Ikego,





Zushi City, Kanagawa

- 222 蟹江康光 1990. 空知層群・蝦夷累層群.
日本の地質 1, 北海道地方: 15-17. 日本の
地質「北海道地方」編集委員会編, 共立
出版.

白亜紀の空知層群と蝦夷累層群の総説を～浦河地
域と金山～占冠～日高町地域に分けて記述。

空知層群, 蝦夷累層群, 白亜紀, 地質学, 北海道
Sorachi Group, Yezo Supergroup, Cretaceous,
geology, Hokkaido

- 223 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武・田中武
男 1990. 相模灘, 沖ノ山堆列の新生界.
第7回「しんかい 2000」研究シンポジ
ウム: 17-24.

沖ノ山堆列のうち, 沖ノ山堆をつくる地層は,
CN4 (16.2 Ma) ~ CN12d (1.9 Ma) 石灰質ナノプラ
ンクトン帯に属する。

沖ノ山堆列, 沖ノ山堆, 新第三紀, ナノ化石, 相模
湾

Okinoyama Bank Chain, Okinoyama Bank,
Neogene, nannofossil, Sagami Bay

- 224 蟹江康光・太田陽子 1990. 横須賀市野
比の北武断層と新第三系. 横須賀市博研
報 (自然), (38): 25-27.

野比地域の国立療養所久里浜病院付近と海岸地域
の地質調査結果から, 北武断層帯には 2 列の分布が
あることを地形図上に図示した。

北武断層, 新第三紀, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川
県

Kitatake Fault, Neogene, Yokosuka City, Miura
Peninsula, Kanagawa

- 225 蟹江康光 1990. 南関東の現生シロウリ
ガイ・アケビガイと新第三紀シロウリガ
イ類の殻形態. 横須賀市博研報 (自然),
(38): 19-23.

オトヒメハマグリ科の化石種と現生種の殻形態の
比較から, 現生種は *Calyptogena nipponica* と近縁。

YCM-GP0821^0827, 0830

殻形態, オトヒメハマグリ科, シロウリガイ属, ア
ケビガイ属, 新第三紀, 南関東

shell form, Vesicomidae, *Calyptogena*,
Akebiconcha, Neogene, South Kanto

- 226 蟹江康光・服部陸男・田中武男 1990.
相模灘, 沖ノ山堆の新生界. 第7回「し
んかい 2000」研究シンポジウム予稿集:
29-31. 海洋科学技術センター.

沖ノ山堆列のうち, 沖ノ山堆をつくる地層は,
CN4 (16.2 Ma) ~ CN12d (1.9 Ma) 石灰質ナノプラ
ンクトン帯に属する。

沖ノ山堆列, 沖ノ山堆, 新第三紀, ナノ化石, 相模
湾

Okinoyama Bank Chain, Okinoyama Bank,
Neogene, nannofossil, Sagami Bay

- 227 蟹江康光・服部陸男 1991. 三浦層群の
年代学と諸問題— 10 ~ 2 Ma の相模湾～
房総半島に何がおきたか. 月刊地球,
13(1): 3-5.

シンポジウム「三浦層群のクロノロジイと諸問題」
の討論内容の詳細を「月刊地球」の特集号にした。

年代学, 三浦層群, 三浦半島, 房総半島, 南関東
chronology, Miura Group, Miura Peninsula, Boso
Peninsula, South Kanto

- 228 蟹江康光・笹原由紀 1991. 三浦半島と房
総半島中部の三浦層群の層序. 月刊地球,
13(1): 11-14.

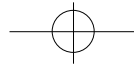
シンポジウム「三浦層群のクロノロジイと諸問題」
の討論内容の詳細を「月刊地球」の特集号にした。

層序, 年代学, 三浦層群, ナノ化石, 三浦半島, 房
総半島

stratigraphy, chronology, Miura Group, nannofossil,
Miura Peninsula, Boso Peninsula

- 229 蟹江康光・小泉 齊 1991. オキナエビ
スガイ科 *Entemnotrochus* 属 3 化石種の分
類学的再検討. 貝類学会 1991 年度総会・





研究発表: 15-16. 鳥羽.

中新世の鋸山産 *Entemnotrochus shikamai*, 台湾産 *E. panchangwui*, 伊豆半島産 *E. ozakii* は, 現生のリュウグウオキナエビスの祖先と考えられる。

オキナエビスガイ科, *Entemnotrochus* 属, 千畑層, 新第三紀, 房総半島, 千葉県

Pleurotomariidae, *Entemnotrochus*, Senbata Formation, Neogene, Boso Peninsula, Chiba

- 230 蟹江康光・岡田尚武・笹原由紀・田中浩紀 1991. 三浦・房総半島新第三紀三浦層群の石灰質ナノ化石年代および対比. 地質雑, 97(2): 135-155.

三浦層群の年代学は凝灰岩鍵層の対比とナノ化石年代で提案された。220a シンポジウム講演の論文。

ナノ化石, 凝灰岩, 三浦層群, 新第三紀, 三浦半島, 房総半島

nannofossil, tuff, Miura Group, Neogene, Miura Peninsula, Boso Peninsula

- 231 蟹江康光・山本健一郎 1991. 南関東地域の地殻歪量 (14). 横須賀市博館報, (38): 21.

気象庁が海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県 forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 232 蟹江康光 1991. 三浦半島の地形, 三浦半島の地質, 三浦半島の環境地質, 三浦半島の土壌, 引用文献. 横須賀市自然博物館 (編) 三浦半島の自然環境—5 万分の1 自然環境図説明書: 9-10, 11, 12-17, 17, 17-19.

5 万分の1 「三浦半島地質図」と「三浦半島環境地質図」の説明書。

地形, 地質, 自然環境図, 地質図, 三浦半島 topography, geology, nature environment map, geological map, Miura Peninsula

- 233 蟹江康光・有馬 眞・秋元和實・岡田尚武 1991. 三浦層群の三崎層から発見されたシロウリガイ類コロニー. 地質学会第 98 年学術大会講演要旨: 187.

Calypptogena sp. の稚貝が三崎層のコンクリーションから密集して発見された。後の研究でキヌタレガイ類の稚貝もふくまれていることが判明した。

シロウリガイ属, コンクリーション, 三崎層, 三浦層群, 三浦半島, 神奈川県

Calypptogena, colony, Misaki Formation, concretion, Miura Group, Miura Peninsula, Kanagawa

- 234 蟹江康光・小泉 斉 1991. 千葉県鋸山から産出した新第三紀オキナエビスガイ類の再検討. 古生物学会第 140 回例会予稿集: 56.

鋸山からはオキナエビスガイ類が多産する。*Entemnotrochus shikamai* 以外のオキナエビスガイ類は, *Perotrochus yoshiwarai* に再同定された。

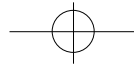
オキナエビスガイ科, *Entemnotrochus* 属, *Perotrochus* 属, 千畑層, 新第三紀, 千葉県 Pleurotomariidae, *Entemnotrochus*, *Perotrochus*, Senbata Formation, Neogene, Chiba

- 235 蟹江康光・小泉 斉 1991. オキナエビスガイ科 *Entemnotrochus* 属 3 化石種の分類学的再検討. 貝類学雑誌, 50(2): 160.

中新世の鋸山産 *Entemnotrochus shikamai*, 台湾産 *E. panchangwui*, 伊豆半島産 *E. ozakii* は, 現生のリュウグウオキナエビスの祖先と考えられる。229 講演の貝類学雑誌への要旨報告。

オキナエビスガイ科, *Entemnotrochus* 属, 千畑層, 新第三紀, 房総半島, 千葉県 Pleurotomariidae, *Entemnotrochus*, Senbata Formation, Neogene, Boso Peninsula, Chiba

- 236 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武・田中武男 1991. 相模湾沖ノ山堆列の新生界. 第 7 回「しんかい 2000」研究シンポジウム報告書: 17-24. 海洋科学技術センター. 沖ノ山堆列のうち, 沖ノ山堆をつくる地層は,



CN4 (16.2 Ma) ~ CN12d (1.9 Ma) 石灰質ナノプランクトン帯に属する。226 講演の論文。

沖ノ山堆列, 沖ノ山堆, 新第三紀, ナノ化石, 相模湾

Okinoyama Bank Chain, Okinoyama Bank, Neogene, nannofossil, Sagami Bay

- 237 太田陽子・藤森孝俊・鹿島 薫・蟹江康光 1991. 三浦半島北武断層の完新世における活動期と変位様式に関する考察. 横浜国大教育学部理科紀要, 2 類, (38): 83-95.

ボーリング調査コアから 8000 年間に 4 回の断層活動が推定され, 各横ずれ量は 3 ~ 4 m, 平均再来間隔は 1000-1500 ~ 2500 年と推定される活断層である。活断層, 北武断層, 完新世, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県

active fault, Kitatake Fault, Holocene, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 238 蟹江康光・服部陸男 1991. 三浦層群のクロノロジーと古環境に関する諸問題. ー日本地質学会第 97 年討論会の紹介と最近の研究の動向ー. 地質雑, 97(10): 849-864.

三浦層群の年代学は凝灰岩鍵層の対比とナノ化石年代で提案された。220a シンポジウムの論文。

年代学, 三浦層群, シンポジウム, 三浦半島, 房総半島, 南関東,

chronology, Miura Group, symposium, Miura Peninsula, Boso Peninsula, South Kanto

- 239 蟹江康光・服部陸男 1991. 相模湾, 相模海丘の地質. 第 8 回しんかいシンポジウム予稿集: 11-13. 海洋科学技術センター.

沖ノ山堆列, 沖ノ山堆の北方, 相模海丘の潜航地質・生物の調査報告

地質, シロウリガイ属, 相模海丘, 沖ノ山堆列, 相模湾

geology, *Calypptogena*, Sagami Knoll, Okinoyama Bank Chain, Sagami Bay

- 240 蟹江康光・松田時彦・鹿島 薫・松原彰

子・松島義章・平田大二 1991. 三浦半島南部, 諸磯の完新統の古生物と ^{14}C 年代. 横須賀市博研報 (自然), (39): 61-75.

谷埋め堆積物の海水性から淡水性への変化は, 下流部で 1100 年前, 上流部で 6100 ~ 1870 年前であった。この変化は, 湾底の堆積と地震による地盤隆起が考えられる。

YCM-GP0831^0842

完新世, 軟体動物, 有孔虫, 珪藻, 三浦市, 神奈川県

Holocene, mollusca, foraminifera, diatom, Miura City, Kanagawa

- 241 野内秀明・蟹江康光 1991. 横須賀市北東部の完新統と縄文時代の貝塚群. 横須賀市博研報 (自然), (39): 77-83.

横須賀市北東部の完新世の地層は, 9000 ~ 5500 年前のもので, 海進に伴い水深数 m の泥底から浅海の砂礫底に環境変化した。

YCM-GP0843^0848

完新統, 貝塚, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県

Holocene, shell mound, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

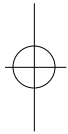
- 242 蟹江康光・有馬 眞・秋元和實・岡田尚武 1991. 三浦層群の三崎層から発見されたシロウリガイ属コロニィ. 横須賀市博研報 (自然), (39): 93-94.

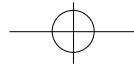
233 講演の論文。化石産地のナノ化石年代は CN5b で, 中部漸深海帯の下部 ~ 深海帯の底生有孔虫を伴っている。

シロウリガイ属, 三崎層, 三浦層群, 三浦市, 三浦半島 *Calypptogena*, Misaki Formation, Miura Group, Miura City. Miura Peninsula

- 243 蟹江康光・浅見茂雄・渡辺政美 1992. 三浦半島葉山層群の石灰質岩から発見されたシロウリガイ属コロニィ. 古生物学会 1992 年年会講演予稿集: 99.

葉山層群は葉山層とも呼ばれ, 従来大型化石の産出はまれであった。横須賀市池上地区における葉山





層の石灰化した堆積物から化学合成動物群集の化石が発見された。

シロウリガイ属, コンクリーション, 葉山層 (群), 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県

Calypptogena, concretion, Hayama Formation (Group), Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 244 松本達郎・野田雅之・蟹江康光 1992. 北海道穂別地域の白亜紀におけるセノマニアン・チュロアン推移部の層序. 地質学会西日本支部例会講演要旨: 6-7.

北海道勇払郡穂別町地域には上部蝦夷層群が分布する。ここで白亜紀後期のセノマニアン・チュロアン推移部の層序を観察した。

アンモナイト, イノセラムス属, セノマニアン, チュロニアン, 白亜紀, 穂別, 北海道
ammonite, *Inoceramus*, Cenomanian, Turonian, Cretaceous, Hobetsu, Hokkaido

- 245 太田陽子・松田時彦・蟹江康光 1992. 横須賀市域の活断層. 13ページ. 横須賀市.

内容は活断層とは, 三浦半島の地質と活断層・横須賀市域を通る活断層・活断層が動いた時の影響・横須賀市内の沖積低地, 沖積層と地震被害との関係・断層活動に伴う災害で, 1996年まで増刷を重ね, 市民に配布された。

活断層, 地震, 震災, 沖積層, 横須賀市, 神奈川県
active fault, earthquake, earthquake disaster, Alluvium, Yokosuka City, Kanagawa

- 246 蟹江康光・山本健一郎 1992. 南関東地域の地殻歪量 (15). 横須賀市博館報, (39): 35.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県

forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 247 蟹江康光 1992. 三浦半島と相模湾のシロウリガイ類について. 横須賀市博館報,

(39): 35.

三浦半島と周辺海域の現生種の生息海域と化石シロウリガイ類の産地を紹介。講演要旨。

オトヒメハマグリ科, シロウリガイ属, 相模湾, 三浦半島, 神奈川県

Vesicomyidae, *Calypptogena*, Sagami Bay, Miura Peninsula, Kanagawa

- 248 浅見茂雄・蟹江康光・武井 宏・斉藤恵津子 1992. 横須賀市野比海岸の地質構造. 横須賀市博館報, (39): 36.

野比海岸における北武断層付近の地質調査の結果。講演要旨。

北武断層, 地質構造, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県
Kitatake Fault, tectonics, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 249 蟹江康光 1992. 南関東第三系シロウリガイ属コロニの産状: 相模湾の異なった湧水環境に生息するコロニ. 地質学会第99年学術大会講演要旨: 383.

シロウリガイ属を含む新第三紀層は, 現生種と同様にメタンを含む冷湧水が供給され, 石灰化されやすい底質をもつ地質構造にあった。

シロウリガイ属, メタン, 新第三紀, 相模湾, 三浦半島, 房総半島

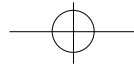
Calypptogena, methane, Neogene, Sagami Bay, Miura Peninsula, Boso Peninsula

- 250 TAKETANI Y. and KANIE Y. 1992. Radiolarian age of the Lower Yezo Group and the upper part of the Sorachi Group in Hokkaido. *Centenary Japanese Micropaleontology*: 365-373. Sendai.

北海道における下部蝦夷層群と空知層群上部の放散虫化石年代。

放散虫, 白亜紀, 下部蝦夷層群, 空知層群, 北海道
radiolaria, Cretaceous, Lower Yezo Group, Sorachi Group, Hokkaido

- 251 KANIE Y. 1992. Two types of white clam communities in Sagami Bay, central Japan:



Geological setting and the Tertiary records in the Miura and Boso Peninsulas. *Abstract for Programs 29th IGC*, 2 of 3: 364. Kyoto.

第31回国際地質学大会（北京，1992年）で発表した講演要旨。「相模湾の異なった湧水環境に生息するシロウリガイのコミュニティ：その地質学的条件と三浦半島・房総半島の第三紀における化石記録」。オトヒメハマグリ科，相模湾，新第三紀，三浦半島，房総半島

Vesicomyidae, Sagami Bay, Neogene, Miura Peninsula, Boso Peninsula

252 服部陸男・橋本 惇・藤倉克則・蟹江康光 1992. 相模湾，駿河湾産シロウリガイ (*Calyptogena soyoae*) の産出状況と殻の形態計測。第9回しんかいシンポジウム予稿集: 85-88.

計測結果は，他海域におけるシロウリガイ類生態との比較や他種との判別に使用できる。講演要旨。*Calyptogena soyoae*，オトヒメハマグリ科，生態，相模湾，駿河湾
Calyptogena soyoae, Vesicomyidae, mode of life, Sagami Bay, Suruga Bay

253 蟹江康光・大場忠道 1992. 相模湾産オキナエビスガイ殻の酸素・炭素同位対比の測定。第9回しんかいシンポジウム: 89-90.

酸素同位対比は生息海域の季節水温変化（17～12℃）に調和する。炭素同位対比は成長するにつれて薄くなっていた。講演要旨。
オキナエビス，オキナエビスガイ科，酸素同位体比，炭素同位体比，相模湾
Mikadotr ochus beyrichii, Pleurotomariidae, oxygen isotope, carbon isotope, Sagami Bay

254 和田信彦・高橋功二・渡辺 順・蟹江康光 1992. 5万分の1地質図幅「三石」および説明書。北海道立地下資源調査所: 73ページ.

北海道，浦河地方における5万分の1地質図幅と

その説明書「西舎地域の地質」（論文162）の西隣の「三石」図幅である。さらに「浦河」図幅のセット。地質，地質図，白亜紀，三石，浦河，北海道 geology, geological map, Cretaceous, Mitsuishi, Urakawa, Hokkaido

255 蟹江康光 1992. 三浦半島東部，久里浜海岸地域の完新統の層序と¹⁴C年代。横須賀市博研報（自然），(40): 25-29.

横須賀市久里浜海岸地域の伝福寺裏遺跡と入自然貝層のそれぞれの年代は約5000年前と7130～2190年前である。

完新世，¹⁴C年代，遺跡，横須賀市，三浦半島，神奈川県

Holocene, ¹⁴C age, site, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

256 蟹江康光・浅見茂雄・岡田尚武・渡辺政美 1992. 三浦半島の中新世葉山層群の断層破碎帯から発見されたシロウリガイ属コミュニティ。横須賀市博研報（自然），(40): 31-35.

葉山層群は葉山層とも呼ばれる。シロウリガイ属コミュニティはキヌタレガイ科のものが多く，角礫質石灰岩を伴って産出した。

シロウリガイ属，キヌタレガイ科，三浦半島，葉山層（群），中新世

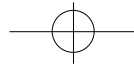
Calyptogena, Solemyidae, Miura Peninsula, Hayama Group (Formation), Miocene

257 浅見茂雄・蟹江康光・有馬 眞 1992. 三浦半島東部，野比海岸で発見されたかんらん岩ブロック。横須賀市博研報（自然），(40): 21-23.

葉山層群は葉山層とも呼ばれる。北武断層の調査中に新鮮なカンラン岩ブロックが発見された。カンラン岩はハルツバージャイトである。

カンラン岩，北武断層，活断層，横須賀市，三浦半島，神奈川県

peridotite, Kitatake Fault, active fault, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa



- 258 KANIE Y., HATTORI M. and SASAHARA Y. 1992. Two types of white clam communities in Sagami Bay, central Japan: geologic settings and the Tertiary records in the Miura and Boso Peninsulas. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (40): 37-43.

講演 251 「相模湾の異なった湧水環境に生息するシロウリガイのコミュニティ：その地質学的条件と三浦半島・房総半島の第三紀における化石記録」の論文。

シロウリガイ属, 相模湾, 新第三紀, 三浦半島, 房総半島

Calypptogena, Sagami Bay, Neogene, Miura Peninsula, Boso Peninsula,

- 259 服部陸男・蟹江康光・岡田尚武・有馬眞 1992. 相模湾, 相模海丘の地質. 第8回しんかいシンポジウム報告書, (1992): 185-192.

相模海丘はシルト岩からなり CN14 石灰質ナノプランクトン化石を含み, 0.92 ~ 0.46 Ma に対比される。沖ノ山堆とは形成年代が異なる, ナノ化石, 上総層群, 相模海丘, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 相模湾

nannofossil, Kazusa Group, Sagami Knoll, Okinoyama Bank Chain, Sagami Trough, Sagami Bay

- 260 蟹江康光・坂井民江・吉川幸叙・高橋武美 1993. 北海道三笠市の中中部蝦夷層群から発見されたスエモノガイ科二枚貝のコロニー. 古生物学会 1993 年年会講演予稿集: 105.

白亜紀層から発見された大型のスエモノガイ科の化石種は, 新第三紀の葉山層(群)のものに似ている。

二枚貝, スエモノガイ科, 白亜紀, 中部蝦夷層群, 三笠市, 北海道

Bivalvia, *Thraciidae*, Cretaceous, Middle Yezo Group, Mikasa City, Hokkaido

- 261 蟹江康光 1993. プレートテクトニクスと三浦半島. 有隣, (304): 4. 有隣堂, 横浜. 一般読者向けの記事。テーマは「三浦枕状溶岩の発見」, 「活断層としての北武断層」, 「諸磯の隆起海岸」, 「化石シロウリガイ」である。

プレートテクトニクス, 活断層, 枕状溶岩, 地震, シロウリガイ属, 三浦半島, *Calypptogena*, Miura Peninsula,

- 262 蟹江康光・秋元和實・岡田尚武・笹原由紀 1993. 三浦半島北部における三浦層群上部の層相とシロウリガイ属化石層. 地質学会第 100 年学術大会講演要旨: 277.

逗子市池子におけるシロウリガイ属化石層の調査結果である。化石を含む池子層は, 逗子層の最上部と池子層最下部のシルト岩層を削って堆積したスランプ性の堆積物である。

化石層, シロウリガイ属, 三浦層群, 逗子市, 三浦半島, 神奈川県

fossil layer, *Calypptogena*, Miura Group, Zushi city, Miura Peninsula, Kanagawa

- 263 梅沢俊一・田中竹延・蟹江康光・柳田誠 1993. 三浦半島北部で発見された更新世中期に滑動した地すべり性堆積物. 地質学会第 100 年学術大会講演要旨: 314.

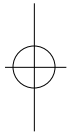
三浦層群逗子層の泥岩の層理面に地すべり面が見いだされ, 地すべり粘土の ESR 年代は 0.24 Ma であった。

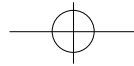
地すべり, 崩壊性堆積物, 三浦層群, 新第三紀, 横須賀市, 神奈川県

landslide, collapse deposit, Miura Group, Neogene, Yokosuka City, Kanagawa

- 264 服部陸男・田中武男・蟹江康光・岡田尚武・有馬眞 1993. 相模湾, 沖ノ山堆列の地質年代. 地質学会第 100 年学術大会講演要旨: 518.

沖ノ山堆と相模海丘を構成する地層の石灰質ナノプランクトン年代は, 後者が新しいので, 1000 m 以





上の落差をもつ断層が推定できる。

ナノ化石, 地質年代, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 相模湾

nannofossil, geological age, Okinoyama Bank Chain, Sagami Trough, Sagami Bay

- 265 蟹江康光・山本健一郎 1993. 南関東地域の地殻歪量 (16). 横須賀市博館報, (40): 27.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県

forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

- 266a 蟹江康光 1993. 逗子市池子地域の三浦層群上部の層相とシロウリガイ属化石層. 池子シロウリガイ類化石調査最終報告書: 49-64. 横浜防衛施設局.

逗子市池子地域におけるシロウリガイ属化石層の調査報告書。逗子層と池子層の分布, 同層の微化石分析, 同層の凝灰岩, 化石を含む池子層の形成過程が論じられている。

化石層, シロウリガイ属, 三浦層群, 逗子市, 神奈川県

fossil layer, *Calyptogena*, Miura Group, Zushi City, Kanagawa

- 266b 平 朝彦・江藤哲人・蟹江康光 1993. シロウリガイ類化石層の堆積環境と深海底湧水現象. 池子シロウリガイ類化石調査最終報告書: 65-96. 横浜防衛施設局.

逗子層と池子層の層序関係, 池子層の堆積環境, 深海湧水現象の証拠について論じられている。

化石層, シロウリガイ属, 冷湧水, 三浦層群, 逗子市, 神奈川県

fossil layer, *Calyptogena*, cold-seep water, Miura Group, Zushi City, Kanagawa

- 267 蟹江康光 1993. 逗子市池子地域の地すべり崩壊性堆積物. 池子シロウリガイ類

化石調査最終報告書: 245-251. 横浜防衛施設局.

逗子市池子地域に地すべり性の崩壊性堆積物が見いだされた。この地すべりは, 池子層の堆積後に陸地となって崩壊～地すべり活動があったと考えられる。263 報告に関連がある。

地すべり, 崩壊性堆積物, 三浦層群, 第四紀, 逗子市, 神奈川県

landslide, collapse deposit, Miura Group, Quaternary, Zushi City, Kanagawa

- 268 蟹江康光・大場忠道 1993. 相模湾産オキナエビスガイ殻の酸素・炭素同位対比分析. 第9回しんかいシンポジウム報告書 (1993): 233-236.

報告 253 の論文。酸素同位体比は生息海域の季節水温変化 (17～12℃) に調和する。炭素同位体比は成長するにつれて薄くなっていた。

オキナエビス属, オキナエビスガイ科, 酸素同位体比, 炭素同位体比, 相模湾

Pleurotomaria, *Pleurotomariidae*, oxygen isotope, carbon isotope, Sagami Bay

- 269 服部陸男・蟹江康光・橋本 惇・藤倉克則 1993. 相模湾・駿河トラフの沈み込み帯に生息するシロウリガイ類の地質学的背景, 生態と殻の形態. 第9回シンポジウム報告書: 237-251.

2トラフ内に生息するシロウリガイ類 4群集の地質学的背景・生態・殻形態についての論文。

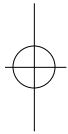
シロウリガイ属, オトヒメハマグリ科, 駿河トラフ, 相模湾, 沈み込み帯

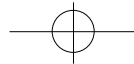
Calyptogena, *Vesicomyidae*, Suruga Trough, Sagami Bay, subduction zone

- 270 蟹江康光・服部陸男 1993. オキナエビスの系統分類. 第10回しんかいシンポジウム予稿集: 130-131.

オキナエビス・コシダカオキナエビス・ベニオキナエビス・テラマチオキナエビスの殻形態・殻の内部構造から系統分類を論じた。

系統分類, オキナエビス, オキナエビス科, 巻貝,





進化

classification, *Mikadotrochus beyrichii*, Pleurotomariidae, Gastropoda, evolution

- 271 蟹江康光 1993. フィールドにおける地学教育—博物館と中学・高校・大学の地学教育—. 地学研究, 42(4): 181-183.

地学教育は低迷している。蟹江が東海高等学校在籍中のクラブ活動で、野村松光教諭はフィールドで身をもって地学教育のおもしろさを体験させた。

地学教育, フィールド学習, 化石採集, 学校, 博物館
geological education, field study, fossil hunting, school, museum

- 272 COLLINS J. S., KANIE Y. and KARA-SAWA H. 1993. Late Cretaceous crabs from Japan. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N.S., (172): 305-323.

北海道の蝦夷累層群, 近畿の和泉層群産カニ化石の記載。そのうち, *Metahomola brevis*, *Dialux yokoi*, *Eodorippe binodosa* は新種である。

YCM-GP0849-001^0858-001

十脚目, カニ類, 白亜紀, 蝦夷累層群, 北海道
Decapoda, crab, Cretaceous, Yezo Supergroup, Hokkaido

- 273 蟹江康光・吉川幸叙・坂井民江・高橋武美 1993. 北海道三笠市の白亜系から発見された冷湧水依存の化学合成軟体動物コミュニティ. 横須賀市博研報(自然), (41): 31-36.

三笠市の白亜系(上部アルビアン, 約 104 Ma) から発見された冷湧水依存の化学合成軟体動物コミュニティは, 巨大なスエモノガイ科, シロウリガイ属, フネソデガイ亜属とスエヒロキヌタレガイ亜属の二枚貝で, 冷湧水依存の最古の化石である。

軟体動物, メタン, 冷湧水, 化学合成, 白亜紀, 北海道
mollusca, methane, cold-seep water, chemosynthesis, Cretaceous, Hokkaido

- 274 蟹江康光 1993. 横須賀市久里浜の低地で観察された 15 世紀以降の地震噴砂. 横

須賀市博研報(自然), (41): 45-46.

久里浜の低地で発見された地震噴砂は 420 年前と 430 年前のものである。

地震, 噴砂, 液状化, 第四紀, 横須賀市, 神奈川県
earthquake, ejected sand, liquefaction, Quaternary, Yokosuka City, Kanagawa

- 275 蟹江康光・蜂矢喜一郎・水野吉昭 1994. 中新世の師崎層群産鯨骨に付着した二枚貝—化学合成細菌依存のシロウリガイ類化石と深海底の大型脊椎動物遺骸—. 古生物学会 1994 年年会講演予稿集: 60.

鯨骨に付着した二枚貝はシロウリガイ類化石である。このシロウリガイ類は, 深海底の鯨骨など大型脊椎動物遺骸から発生するメタンに依存する化学合成細菌依存群集と考えられる。

師崎層群, 新第三紀, クジラ, シロウリガイ属, 化学合成, 愛知県

Morozaki Group, Neogene, whale, *Calyptogena*, chemosynthesis, Aichi

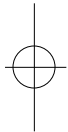
- 276 蟹江康光・服部陸男・小泉 齊・井上浩吉・坂井民江 1994. 新生代オキナエビス科巻貝の系統進化. 古生物学会 1994 年年会講演予稿集: 61.

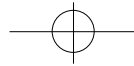
千葉県鋸山の千畑層からオキナエビス科の化石が見つかる。そのなかで *Mikadotrochus* 属として報告された化石の多くは, 再検討の結果, *Perotrochus* 属のものと判明した。また, *Mikadotrochus* 属は第四紀に *Perotrochus* 属から分岐したと推定した。

オキナエビスガイ科, *Mikadotrochus* 属, *Perotrochus* 属, 巻貝, 新生代, 進化
Pleurotomariidae, *Mikadotrochus*, *Perotrochus*, Gastropoda, mollusca, evolution

- 277 平山 廉・甲能直樹・矢部英生・後藤仁敏・上野輝也・蟹江康光 1994. 千葉県南西部の新第三紀千畑礫岩層(上部中新世)産出の海生脊椎動物. 古生物学会 1994 年年会講演予稿集: 114.

千畑層(7 Ma)産のサメ類, クジラ類, ウミガメ





の産出報告。

軟骨魚類, 鯨類, ウミガメ, 三浦層群, 房総半島, 千葉県
cartilage pisces, cetacean, marine turtle, Miura Group, Boso Peninsula, Chiba

278 太田陽子・藤森孝俊・鹿島 薫・蟹江康光・松島義章 1994. 三浦半島, 北武断層東端付近の完新世海成段丘. 第四紀研究, 33(1): 37-43.

3 段の段丘面が識別され, Hm1 面は 6800 年以降, Hm2 面は 5400 年以降, Hm 3 面は 3100 年以降に離水した。

海成段丘, 珪藻, ^{14}C 年代, 北武断層, 完新世, 三浦半島,
marine terrace, diatom, ^{14}C age, Kitatake Fault, Holocene, Miura Peninsula

279 服部陸男・田中武男・蟹江康光・岡田尚武 1994. 相模湾, 沖ノ山堆列の地質年代と相模トラフの起源. 1994 年地球惑星科学関係合同大会講演予稿集: 212.

沖ノ山堆と相模海丘を着く地層のナノ化石年代から, 50 万年以降に相模トラフが形成された。

ナノ化石, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 新第三紀, 相模湾
nannofossil, Okinoyama Bank, Sagami Trough, Neogene, Sagami Bay

280 佐藤比呂志・蟹江康光・東郷正美・渡辺満久・小松原琢・隅元 崇・八木浩司・馬 勝利・太田陽子 1994. 三浦半島中部北武断層のトレンチ調査. 1994 年地球惑星科学関係合同大会講演要旨: D41-0.3.

1993 年のトレンチ調査の結果, 北武断層の最終活動年代は 1200 ~ 1050 年前と判断された。論文は 350 に。

北武断層, トレンチ調査, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県
Kitatake Fault, trenching survey, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

281 松本達郎・野田雅之・蟹江康光・吉川幸叙・利光誠一・米谷盛寿郎・花方聡 1994. 北海道穂別地域におけるセノマニアン-チュロニアン推移部の層序. 穂別町立博物館研究報告, (10): 1-25.

穂別川本流, ペンケワッカタンネナイ沢, 「穂別ダム部層」, ペンケワッカタンネナイ沢の異常堆積物, 2 種アンモナイトの異常堆積, 東部帯の浅海相, 有孔虫化石について論じた。

層序, セノマニアン, チューロニアン, 白亜紀, 穂別, 北海道
stratigraphy, Cenomanian, Turonian, Cretaceous, Hobetsu, Hokkaido

282 蟹江康光 1994. 深海から生まれた三浦半島. 横須賀市自然博物館特別展示解説書 3: 32 ページ.

特別展示「深海から生まれた三浦半島」の展示解説書。これまでの常設展示「三浦半島のおたち」の内容を全面的に更新した。

解説書, 地質学, 新第三紀, 博物館, 三浦半島, 神奈川県
guidebook, geology, Neogene, museum, Miura Peninsula, Kanagawa

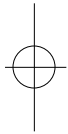
283 蟹江康光・山本健一郎 1994. 南関東地域の地殻歪量 (17). 横須賀市博館報, (41): 10.

気象庁が, 海溝型地震予知のために南関東地区と静岡地区に設置した地殻歪計の計測値データ。

地震予知, 地殻歪, 南関東, 馬堀自然教育園, 神奈川県
forecasting earthquakes, strain, South Kanto, Mabori Biological Garden, Kanagawa

284 蟹江康光・小泉 齊・坂井民江・服部陸男・井上浩吉 1994. 新生代オキナエビス科の類縁関係. 横須賀市博館報, (41): 13.

千葉県鋸山の千畑層からオキナエビス科の化石が見つかる。そのなかで *Mikadotrochus* 属として報告さ



れた化石の多くは、再検討の結果、*Perotrochus* 属のものと判明した。また、*Mikadotrochus* 属は第四紀に *Perotrochus* 属から分岐したと推定した。

オキナエビスガイ科, *Mikadotrochus* 属, *Perotrochus* 属, 巻貝, 新生代, 進化
Pleurotomariidae, *Mikadotrochus*, *Perotrochus*,
Gastropoda, mollusca, evolution

- 285 服部陸男・大場忠道・蟹江康光・秋元和實 1994. 相模湾初島沖で発見された自生の炭酸塩類. JAMSTEC 深海研究, (10): 405-416.

シロウリガイ群生地の下で発見されたコンクリーションは、炭素同位体比から冷水水起源のメタンに由来する。

化学合成, 炭酸塩, コンクリーション, 相模湾, 初島, 静岡県
chemosynthesis, carbonate, concretion, Sagami Bay, Hatsushima Island, Shizuoka

- 286 蟹江康光・浅見茂雄 1994. 横須賀市野比地区における北武断層の性格. 横須賀市自然博物館自然科学研究発表会演旨:.

北武断層は幅 50 m の断層帯からなり、トレンチ調査で断層部に蛇紋岩が発見されたことから、地質構造帯と考えられる。

活断層, 北武断層, 蛇紋岩, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県
active fault, Kitatake Fault, serpentine, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 287 服部陸男・蟹江康光・大場忠道・秋元和實 1994. 相模湾, 初島沖のシロウリガイ群生地付近で発見された自生の炭酸塩類. 第 11 回しんかいシンポジウム予稿集 63-66.

論文 285 のシンポジウム報告。シロウリガイ群生地の下で発見されたコンクリーションは、炭素同位体比から冷水水起源のメタンに由来する。

シロウリガイ属, コンクリーション, 化学合成, 相模湾, 初島, 静岡県
Calyptogena, concretion, chemosynthesis, Hatsushima Island, Sagami Bay, Shizuoka

- 288 蟹江康光・服部陸男・倉持卓司・池田等 1994. オキナエビス科の分布と系統. 第 11 回しんかいシンポジウム予稿集: 37-40.

殻形態・地理的分布・系統進化を論じた。

オキナエビスガイ科, 巻貝, 新生代, 分類, 進化
Pleurotomariidae, Gastropoda, Cenozoic, classification, evolution

- 289 蟹江康光・横山芳春・渡辺政美・浅見茂雄 1994. 横須賀市馬堀町の更新世横須賀累層大津層産軟体動物化石リスト. 横須賀市博研報 (自然), (42): 83-84.

化石内容から、外洋に面する陸棚斜面の環境が推定される。

YCM-GP0891^0993

軟体動物, 化石, 大津層, 横須賀 (累) 層, 横須賀市, 神奈川県
mollusca, fossil, Otsu Member, Yokosuka Formation, Yokosuka City, Kanagawa

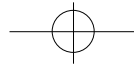
- 290 蟹江康光 1994. 亜深海の生きている化石の研究—オウムガイ類, オキナエビス類, シロウリガイ類の生態と進化—. 浜田隆士解剖・解析図譜: 338-340. 浜田隆士教授退官記念事業会.

生きている化石の研究の一つとして、オウムガイ類・オキナエビスガイ類・シロウリガイ類の研究を例とした。

オウムガイ類, オキナエビスガイ科, シロウリガイ属, オトヒメハマグリ科, 生きている化石
Nautiloidea, Pleurotomariidae, *Calyptogena*, Vesicomidae, living fossil

- 291 倉持卓司・蟹江康光・服部陸男 1994. 房総半島鴨川沖におけるオキナエビス生息地周辺の底生動物目録. 横須賀市博研報 (自然), (42): 85-86.

ドレッジ採集で得られた鴨川沖の底生動物目録を示した。水中テレビ観察を併用した。



YCM-GP8710^8739

軟体動物, オキナエビス, オキナエビス属, ドレ
ジ, 房総半島, 太平洋
mollusca, slit shell, *Mikadotrochus beyrichii*,
dredging, Boso Peninsula, Pacific

292 倉持卓司・蟹江康光・小泉 斉 1994.
オキナエビス科 *Pleurotomariidae* 分類に
ついての再検討. みたまき, (29): 3-9.

化石種を含むオキナエビスガイ科の種群を再検討
した。

オキナエビスガイ科, アダンソンオキナエビス属,
ヒメオキナエビス属, オキナエビス属, 巻貝, 分類
Pleurotomariidae, *Entemnotrochus*, *Perotrochus*,
Mikadotrochus, Gastropoda, classification

293 小泉明裕・平田大二・松島義章・長谷川
善和・蟹江康光 1994. 逗子市桜山「鑑
摺の不整合」露頭の再記載. 神奈川自然
誌資料, (16): 45-50.

鑑摺(あぶずる)の不整合は, 三浦半島の地質見
学には欠かせない露頭のひとつである。1988-1989
年に天然記念物の再調査を行った結果の報告。

不整合, 三浦層群, 葉山層(群), 逗子市, 神奈川県
unconformity, Miura Group, Hayama Formation
(Group), Zushi City, Kanagawa

294 小泉 斉・蟹江康光 1995. 仙台市西部
地域の茂庭層(15~16 Ma)産オキナエ
ビス科化石. 貝類学会平成7年度大会講
演要旨集: 27. 仙台市.

茂庭層産オキナエビス科化石は, *Perotrochus* 属に
同定され, *P. yosiwarai* あるいは *P. yabei* また, 宮崎
県高岡町の鮮新統の *P. sp.* にも共通する。本化石は,
最北部からの “*Pleurotomaria*” *eocenica* より新しい
グループである。

Perotrochus 属, オキナエビス科, 中新世, 茂庭層,
仙台市, 宮城県

Perotrochus, *Pleurotomariidae*, Miocene, Moniwa
Formation, Sendai City, Miyagi

295 蟹江康光・浅見茂雄 1995. 三浦半島の

中新統葉山層群の層序と年代. 横須賀市
文化財調査報告書, (29): 13-17. 横須賀市
教育委員会.

葉山層群をつくる地層を再検討して, 立石層と矢
部層を分離した。横須賀市池上地区に露出して化学
合成動物群集を含む地層は約 15 Ma のもので, この
地層を葉山層と再定義した。

化石層序, 葉山層(群), 新第三紀, 三浦半島, 横須
賀市, 神奈川県

biostratigraphy, Hayama Formation (Group),
Neogene, Miura Peninsula, Yokosuka City,
Kanagawa

296 浅見茂雄・蟹江康光・武井 宏 1995.
化学合成動物群集が発見された中新統葉
山層群の断層破碎帯. 横須賀市文化財調
査報告書, (29): 19-22.

葉山層の断層破碎帯の石灰岩からチューブワーム,
キヌタレガイ類の化石が発見され, 化学合成動物群
集と見なされた。

断層, 葉山層(群), 新第三紀, 三浦半島, 横須賀市,
神奈川県

fault, Hayama Formation (Group), Neogene, Miura
Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

297 菅野三郎・蟹江康光 1995. 三浦半島の
葉山層群産シロウリガイ類. 横須賀市文
化財調査報告書, (29): 51-55.

YCM-GPIg044^046

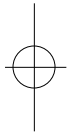
葉山層からみつかった二枚貝はシロウリガイ属の
Calyptogena sp. である。

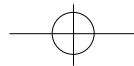
シロウリガイ属, 葉山層(群), 新第三紀, 三浦半島,
横須賀市, 神奈川県

Calyptogena, Hayama Formation (Group), Neogene,
Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

298 蟹江康光・倉持卓司・浅見茂雄・菅野三
郎 1995. 三浦半島の中新統葉山層群産
キヌタレガイ類. 横須賀市文化財調査報
告書, (29): 57-61.

葉山層から多産したキヌタレガイ科二枚貝はスエ





ヒロキヌタレガイ属の *Acharax* n. sp. で, *Solemya* sp 産した。ともに化学合成動物群集をつくっている。

YCM-GPIg029, Ig032, Ig033-002, Ig036

キヌタレガイ科, 葉山層 (群), 新第三紀, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県

Solemyidae, Hayama Formation (Group), Neogene, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

- 299 蟹江康光・波部忠重・坂井民江 1995.
三浦半島の中新統葉山層群産スエモノガイ科二枚貝化石. 横須賀市文化財調査報告書, (29): 63-70.

産地はいくらか離れているが, SHIKAMA (1968) の *Thracidora gigantea* は白亜紀のものとあわせてスエモノガイ科の新属であろう。また, *Thracia kakumana* が衣笠地区の葉山層から見つかった。ともに化学合成動物群集をつくっている。

YCM-GPIg001~002, YCM-H3616a, 3616b, 8740

スエモノガイ科, 葉山層 (群), 新第三紀, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県

Thraciidae, Hayama Formation (Group), Neogene, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

- 300 長沼 毅・服部 陸男・蟹江康光 1995.
三浦半島の中新統葉山層群産チューブワーム化石. 横須賀市文化財調査報告書, (29): 77-87.

チューブワームと考えられる化石が葉山層から見つかった。生管内部にはイオウが局在しイオウ代謝が行われていたと推定される。

チューブワーム, 冷湧水, イオウ代謝, 炭酸塩, 沈み込み帯, 横須賀市

tubeworm, cold-seep water, sulfur metabolism, carbonate, subduction zone, Yokosuka City

- 301 服部陸男・蟹江康光・大場忠道 1995.
三浦半島の葉山層群産炭酸塩岩と化学合成動物群集の化石. 横須賀市文化財調査報告書, (29): 89-96. 横須賀市教育委員会.

297~300の化石は, 炭酸塩岩あるいは周囲から産した。この炭酸塩岩は-21~-23‰の炭素同位体比を示し, メタンを含む冷湧水起源の岩石である。

化学合成, 炭酸塩, コンクリーション, 冷湧水, 沈

み込み帯, 横須賀市

chemosynthesis, carbonate, concretion, cold-seep water, subduction zone, Yokosuka City

- 302 蟹江康光・長沼 毅・服部陸男 1995.
三浦半島, 葉山層群 (15Ma) の断層破碎帯から発見されたチューブワーム. 地質学会第102年学術大会講演要旨: 205.

チューブワームと考えられる化石が葉山層から見つかった。生管内部にはイオウが局在し, イオウ代謝が行われていたと推定される。論文 300の学会への報告。

チューブワーム, 冷湧水, イオウ代謝, 炭酸塩, 沈み込み帯, 横須賀市

tubeworm, cold-seep water, sulfur metabolism, carbonate, subduction zone, Yokosuka City

- 303 服部陸男・大場忠道・蟹江康光・秋元和實 1995. 相模湾, 初島沖で採集された自生の炭酸塩類. 地質学会第102年学術大会講演要旨: 206.

301論文の学会への報告。297~300化学合成動物群集はの化石は, 炭酸塩岩あるいは周囲から産した。この炭酸塩岩は, 初島沖で採集された自生の炭酸塩類に似ている。

化学合成, 炭酸塩類, コンクリーション, 冷湧水, 沈み込み帯, 横須賀市

chemosynthesis, carbonate, concretion, cold-seep water, subduction zone, Yokosuka City

- 304 服部陸男・蟹江康光・大場忠道・秋元和實 1995: 相模湾の底生生物群集の環境. 古生物学会第144回例会予稿集: 2-3.

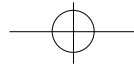
相模湾の化学合成底生生物群集の生息環境を論じるには, 3タイプの炭酸塩類岩が採集されている。シンポジウム報告。

底生生物, 群集, シロウリガイ属, 冷湧水, 炭酸塩, 相模湾

benthos, community, *Calyptogena*, cold-seep water, carbonate, Sagami Bay

- 305 長沼 毅・服部陸男・蟹江康光 1995.





- 冷湧水性チューブワームにおけるイオウ代謝. 古生物学会第144回例会予稿集: 5-6.
- チューブワームと考えられる化石が葉山層から見つかった。生管内部にはイオウが局在しイオウ代謝が行われていたと推定される。シンポジウム報告。チューブワーム, 化学合成, 冷湧水, イオウ代謝, 葉山層 (群), 相模湾
tubeworm, chemosynthesis, cold-seep water, sulfur metabolism, Hayama formation (Group), Sagami Bay
- 306 蟹江康光 1995. 葉山層群の化学合成動物群集と三浦・房総地域新生界の群集. 古生物学会第 144 回例会予稿集: 12-13.
- 葉山層の化学合成動物群集の研究結果と三浦・房総地域の各新生界の群集を報告。シンポジウム報告。化学合成, 動物群集, 葉山層 (群), 新第三紀, 三浦半島, 房総半島
chemosynthesis, fauna, Hayama Formation (Group), Neogene, Miura Peninsula, Boso Peninsula
- 307 小泉 斉・蟹江康光・青島睦治・提橋昇 1995. 栃木県那須町産中新世オキナエビス類の再検討. 古生物学会第 144 回例会予稿集: 25.
- 荒川層群小竈層産オキナエビス類 *Perotrochus otoensis* には, *Perotrochus* 属と *Entemnotrochus* 属の 2 種が含まれていることが判明した。
オキナエビスガイ科, 中新世, 新第三紀, 那須町, 栃木県
Pleurotomariidae, Miocene, Neogene, Nasu, Tochigi
- 308 菅野三郎・蟹江康光 1995. 三浦半島の葉山層群産シロウリガイ類について. 古生物学会第 144 回例会予稿集: 26.
- YCM-GPIg044^046
- 葉山層からみつかった二枚貝はシロウリガイ属の *Calyptogena* sp.である。論文 297 の学会報告。
オトヒメハマグリ科, シロウリガイ属, 葉山層 (群), 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県
Vesicomyidae, *Calyptogena*, Hayama Formation (Group), Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa
- 309 蟹江康光・倉持卓司・浅見茂雄・菅野三

- 郎 1995. 三浦半島の中新統葉山層群産キヌタレガイ類. 古生物学会第 144 回例会予稿集: 73.

YCM-GPIg044^046

葉山層からみつかった二枚貝はキヌタレガイ科の *Acharax* sp.である。論文 297 の学会報告。
シロウリガイ属, 葉山層 (群), 新第三紀, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県
Calyptogena, Hayama Formation (Group), Neogene, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

- 310 蟹江康光・坂井民江・波部忠重 1995. 三浦半島の中新統葉山層群産スエモノガイ科二枚貝. 古生物学会第 144 回例会予稿集: 74.

SHIKAMA (1968) の *Thracidora giganntea* は白亜紀のものとあわせてスエモノガイ科の新属である。また, *Thracia kakumana* が衣笠地区の葉山層から見つかった。ともに化学合成動物群集をつくっている。論文 299 の学会への報告。

YCM-GPIg001^002, YCM-H3616a, 3616b, 8740

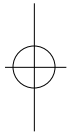
スエモノガイ科, 葉山層 (群), 新第三紀, 三浦半島, 横須賀市, 神奈川県
Thraciidae, Hayama Formation (Group), Neogene, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

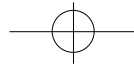
- 311 蟹江康光 1995. 灼熱のアンモナイトの国・マダガスカルが無脊椎動物化石調査ー20年目のマダガスカル古生物調査ー. 横須賀市博館報, (42): 1-4.

マダガスカル南西部, メナベ・トリアラ・ベティオキ地方の白亜系調査。隊長は進化生物学研究所の西田 誠氏。

アンモナイト, 化石, 古生物, 白亜紀, メナベ, マダガスカル
ammonite, fossil, Paleontology, Cretaceous, geology, Madagascar

- 312 NAGANUMA T., OKAYAMA Y., HATTORI M. and KANIE Y. 1995. Fossil worm tubes from the presumed cold-seep carbon





ates of the Miocene Hayama Group, central Miura Peninsula, Japan. *The Island Arc*, 4(3): 199-208.

チューブワームと考えられる化石が葉山層から見つかった。生管内部には現生種と同様、イオウが局在し、イオウ代謝が行われていたと推定された。

チューブワーム, 化学合成, 冷湧水, イオウ代謝, 葉山層 (群), 相模湾

tubeworm, chemosynthesis, cold-seep water, sulfur metabolism, Hayama formation (Group), Sagami Bay

313 小泉 斉・蟹江康光 1995. 仙台市西部の中新統茂庭層産オキナエビス類巻貝. 地質雑, 101(10), 813-816.

SSME133221, 13325, 13326

茂庭層産オキナエビスガイ科化石は, *Perotrochus* 属に同定され, *P. yosiwarai* あるいは *P. yabei* また, 宮崎県高岡町の鮮新統の *P. sp.*にも共通する。*Pleurotomaria eocenica* より新しいグループである。本化石の分布は最北部にある。報告 294 の論文。

Perotrochus 属, オキナエビス科, 中新世, 茂庭層, 仙台市, 宮城県

Perotrochus, *Pleurotomariidae*, Miocene, Moniwa Formation, Sendai City, Miyagi

314 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武 1995. 沖ノ山堆列の微化石年代にもとづく相模トラフの沈みこみ帯とその形成年代. 横須賀市自然博物館自然科学研究発表会演旨 3.

沖ノ山堆と相模海丘をつくる地層のナノ化石年代から, 相模トラフは 50 万年以降に形成された。

ナノ化石, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 新第三紀, 相模湾

nannofossil, Okinoyama Bank, Sagami Trough, Neogene, Sagami Bay

315 服部陸男・岩城千恵子・岡田尚武・蟹江康光・秋元和實 1995: 相模湾と沖ノ山堆列の新第三紀・第四紀石灰質ナノ化石年代と群集解析. JAMSTEC 深海研究, (11): 269-278.

沖ノ山堆列の試料に, 真鶴海丘・三崎沖・手石海丘の新試料から陸上の地層, 葉山層の一部, 三浦層群の中上部, 上総層群の上部, 相模・下総層群に対比される。

ナノ化石, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 新第三紀, 相模湾

nannofossil, Okinoyama Bank, Sagami Trough, Neogene, Sagami Bay

316 蟹江康光・服部陸男・倉持卓司・池田等 1995: オキナエビスガイ科の生態と殻の系統分類. JAMSTEC 深海研究, (11): 279-284.

Entemnotrochus 属は, *Mikadotrochus* 属と *Perotrochus* 属とへそ孔の形態が異なる。*Mikadotrochus* 属は中新世～第四紀に *Perotrochus* 属から岩石底の生活に適応したグループである。

オキナエビスガイ科, *Entemnotrochus* 属, *Mikadotrochus* 属, *Perotrochus* 属, 系統分類 *Pleurotomariidae*, *Entemnotrochus*, *Mikadotrochus*, *Perotrochus*, clasification

317 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武・岩城千恵子・秋元和實 1995. 相模湾トラフの沈みこみ帯とその形成年代—沖ノ山堆列の微化石年代にもとづく—。第 12 回しんかいシンポジウム予稿集: 36-37.

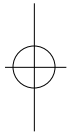
沖ノ山堆列の試料に, 真鶴海丘・三崎沖・手石海丘の新試料から陸上の地層, 葉山層の一部, 三浦層群の中上部, 上総層群の上部, 相模・下総層群に対比される。論文 315 のシンポジウム要旨。

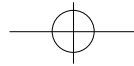
ナノ化石, 相模トラフ, 沖ノ山堆, 沖ノ山堆列, 相模湾,

nannofossil, Sagami Trough, Okinoyama Bank, Okinoyama Bank Chain, Sagami Bay

318 服部陸男・大場忠道・蟹江康光・秋元和實 1995. 相模湾の冷湧水環境. 第 12 回しんかいシンポジウム予稿集: 104-106.

炭酸塩類と化学合成動物群集の環境として, 分布と産状・炭酸塩類の炭素同位体比・炭酸塩類に含まれる貝殻の放射性炭素年代測定。堆積物の温度を報





告した。

シロウリガイ属, 群集, 炭酸塩, コンクリーション,
冷湧水, 相模湾

Calypptogena, community, carbonate, concretion,
cold-seep water, Sagami Bay

- 319 倉持卓司・蟹江康光・服部陸男 1995.
相模湾および房総半島沖におけるオキナ
エビスガイ科の分布と生息環境. 第12回
しんかいシンポジウム予稿集: 107-110.

海洋科学技術センターとの共同研究である。相模
湾と房総半島沖における種分布と属位の形態・生息
環境と生態を報告した。

オキナエビスガイ科, 分布, 生態, 相模湾, 房総半
島沖

Pleurotomariidae, distribution, ecology, Sagami Bay,
Off Boso Peninsula,

- 320 KANIE Y. and KURAMOCHI T. 1995.
Acharax yokosukensis, n. sp. (Bivalvia) from
the Miocene Hayama Formation of the Miura
Peninsula, south-central Japan. *Sci. Rept.*
Yokosuka City Mus., (43): 51-57.

横須賀市池上産スエヒロキヌタレガイ属の化石を
新種 *Acharax yokosukensis* と命名・記載した。

YCM-GPIg032, Ig033-2, Ig036, Ig037, Ig0047, Ig048
スエヒロキヌタレガイ属, キヌタレガイ科, 中新世,
葉山層 (群), 横須賀市, 三浦半島

Acharax, Miocene Hayama Formation (Group),
Yokosuka City, Miura Peninsula

- 321 蟹江康光・吉川幸叙・松本達郎 1995.
北海道浦河町タンネベツ地区の白亜系地
質. 横須賀市博研報 (自然), (43): 59-62.
YCM-GP1005^1011

浦河町北部, タンネベツ地区の白亜系で, 「西舎」
図幅における中部蝦夷層群と上部蝦夷層群分布の一
部を改訂した。

白亜紀, 軟体動物, 地質図, 浦河, 西舎, 北海道
Cretaceous, mollusca, geological map, Urakawa,
Nishicha, Hokkaido

- 322 蟹江康光・坂井民江 1996. 下部白亜紀
(104 Ma) と中期中新世 (15 Ma) 産スエモ
ノガイ科の化石を新属. 貝類学会平成
8年度大会研究発表要旨集: 5.

下部白亜紀と中期中新世産スエモノガイ科の新属
Nipponothracia を提唱。

スエモノガイ科, 白亜紀, 新第三紀, 神奈川県, 北
海道

Thraciidae, Cretaceous, Neogene, Kanagawa,
Hokkaido

- 323 NISHIDA M., OHSAWA T., NISHIDA H.,
YOSHIDA A. and KANIE Y. 1966. A per
mineralized Magnolialean fructification from
the Upper Cretaceous of Hokkaido, Japan.
Res. Inst. Evolut. Biol. Sci. Rept., 8: 19-30.

北海道門別町の上部白亜系からモクレン目の新種
Hidakanthus shinae (モンベツハナカセキ) を記載。
蟹江は産出地の地質と軟体動物化石を報告。

YCM-GP1029^1044

モクレン類, 花, 軟体動物, 白亜紀, 門別, 北海道
Magnolialean, mollusca Cretaceous, Monbetsu,
Hokkaido

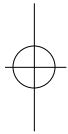
- 324 蟹江康光 1996. 深海から生まれた三浦
半島—三浦半島のおいたち—. 横須賀市
博物館教育資料シリーズ 7: 18 ページ.

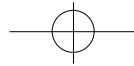
常設展示「三浦半島のおいたち」を全面的に更新
しタイトルを「深海から生まれた三浦半島」に改題
した展示解説書。

展示, 博物館, 解説書, 新第三紀, 三浦半島, 神奈川県
exhibition, museum, guidebook, Neogene, Miura
Peninsula, Kanagawa

- 325 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武・秋元和
實 1996. 相模湾沖ノ山堆列の微化石年
代と相模トラフの沈みこみ帯. 地質学会
第103年学術大会講演要旨: 394.

沖ノ山堆列をつくる地層とナノ化石年代か
ら, 両海山の間にある断層の位置と相模トラフ
の形成年代を報告。





ナノ化石, 沈み込み帯, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 相模湾

nannofossil, subduction zone, Okinoyama Bank Chain, Sagami Trough, Sagami Bay

- 326 蟹江康光 1996. 生きている化石オキナエビスガイ類の 2 億年—深海に生きる “いきもの” たちの進化— 第 23 回化石を語る文化講演会. 東海化石研究会.

現生種を含むオキナエビスガイ類の 2 億年における進化を, 一般向けに講演した要旨。

オキナエビスガイ類, 巻貝, 軟体動物, 歯舌, 生きている化石

Pleurotomarioidea, Gastropoda, mollusca, radula, living fossil, evolution

- 327 蟹江康光 1996. プレート境界に生息する貝—相模湾のシロウリガイ群集の現在・過去— 遺伝, 50(6): 48-53.

相模湾のシロウリガイ群集の現在と新第三紀における生息環境とそこでの地質構造の変遷を一般向けに解説。

シロウリガイ属, 群集, コンクリーション, プレート境界, 新第三紀, 相模湾

Calyptogena, community, plate boundary, concretion, Neogene, Sagami Bay

- 328 蟹江康光 1996. 中新統葉山層の化学合成動物群集の生息環境と三浦・房総地域新生界の群集. 化石, (60): 53-58.

化学合成動物群集の生息環境を, 葉山層・三浦層群・上総層群および現生コミュニティで討論した。1995 年の日本古生物学会シンポジウムの論文。

葉山層 (群), 中新世, 化学合成, 動物群集, 三浦半島, 神奈川県

Hayama Formation (Group), Miocene, chemosynthesis, fauna, Miura Peninsula, Kanagawa

- 329 長沼 毅・服部陸男・橋本 惇・蟹江康光 1996. 現生チューブワーム生管における元素分布とその生息環境における炭

酸塩基類生成. 化石, (60): 26-31.

現生チューブワーム生管におけるイオウなどの元素分布とその生息環境における炭酸塩基類生成機構を論じた。1995 年の日本古生物学会シンポジウムの論文。

チューブワーム, 現生, 冷湧水, 炭酸塩, 硫黄, 横須賀市, 神奈川県

tubeworm, modern, cold-seep water, carbonate, sulfur, Yokosuka City, Kanagawa

- 330 KANIE Y., HATRTORI M. and OKADA H. 1996. Subduction zone of Sagami Trough and the formed age based on microfossil age of Okinoyama Bank Chain in south-central Japan. *Abstract 29th IGC*: 228. Beijing.

相模トラフの沈み込み帯と形成年代を沖ノ山堆列のナノ化石など微化石年代から論じた。

沈み込み帯, プレートテクトニクス, 相模トラフ, 沖ノ山堆列, 相模湾

Subduction zone, plate tectonics, Sagami Trough, Okinoyama Bank Chain, Sagami Bay

- 331 蟹江康光・坂井民江 1996. 下部白亜紀 (104 Ma) と中期中新世 (15 Ma) 産スエモノガイ科の新属. 貝類雑, 55(1): 80-81.

下部白亜紀と中期中新世産スエモノガイ科の新属 *Nipponothracia* を提唱。講演 322 の学会記事。

白亜紀, 化学合成, スエモノガイ科, 軟体動物, 新第三紀

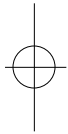
Cretaceous, chemosynthesis, Thraciidae, mollusca, Neogene

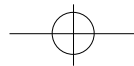
- 332 服部陸男・蟹江康光・大場忠道・秋元和實 1996. 相模湾の沈み込み帯の冷湧水域に伴う炭酸塩類と化学合成独立栄養動物群集の環境. 化石, (60): 13-22.

1995 年の日本古生物学会シンポジウムにおける講演 303 と 304 の集成論文。

炭酸塩, 炭素同位体比, 酸素同位体比, 冷湧水, 沈み込み帯, 相模湾

carbonate, carbon isotope, oxygen isotope, cold seep water, subduction zone, Sagami Bay





- 333 蟹江康光・三浦半島地盤研究会・柳田誠・田中竹延 1996. 三浦層群逗子層の泥岩分布地で滑動した層面すべり. 地質雑, 102(8): 762-764.

1993年に逗子層泥岩の層理面に地すべり面が見いだされたが、横須賀市東南部で、宅地造成工事中に新鮮なブロックが滑動して層面すべり地すべりを生じた。

地すべり, 崩壊性堆積物, 三浦層群, 新第三紀, 横須賀市, 神奈川県

landslide, collapse deposit, Miura Group, Neogene, Yokosuka City, Kanagawa

- 334 蟹江康光・山本健一郎 1996. 横須賀市博物館付属馬堀自然教育園における 250 m 地質ボーリング. 横須賀市博館報, (43): 1.

オールコアボーリングで、深度 7.2 m までが横須賀累層でそれ以深が逗子層のシルト岩であった。途中 51-53 m 付近に Hk 凝灰岩層が挟まれていた。

地質ボーリング, 逗子層, 三浦層群, 馬堀自然教育園, 横須賀市, 神奈川県

borehole, Zushi Formation, Miura Group, Mabori Biological Garden, Yokosuka City, Kanagawa

- 335 蟹江康光・服部陸男 1996. 共同研究「生きている化石オキナエビスガイの生態学的研究」. 横須賀市博館報, (43): 4-5.

平成 5～7 年度における海洋科学技術センターとの共同研究の成果報告概要。

オキナエビス, オキナエビスガイ科, 巻貝, 生きている化石, 生態, 相模湾

Mikadotrochus beyrichii, Pleurotomariidae, Gastropoda, living fossil, ecology, Sagami Bay

- 336 蟹江康光・上島 励 1996. オキナエビスガイ科巻貝の DNA と殻形態の比較進化的研究. 横須賀市博館報, (43): 5.

平成 6～7 年度における文部省科学研究費補助金(基盤研究 C)の成果報告概要。

オキナエビス属, オキナエビスガイ科, 巻貝, 生きている化石, DNA, 相模湾

Mikadotrochus beyrichii, Pleurotomariidae, Gastropoda, living fossil, DNA, Sagami Bay

- 337 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武・秋元和實 1996. 相模湾沖ノ山堆列の微化石年代と相模トラフの沈みこみ帯の構造発達史. JAMSTEC 深海研究, (12): 101-106.

沖ノ山堆列と真鶴海丘をつくる地層のナノ化石年代にもとづいて、大磯丘陵をつくる地層とを対比した。沈み込み帯, ナノ化石, 大磯丘陵, 沖ノ山堆列, 相模トラフ, 相模湾

subduction zone, nannofossil, Oiso Hill, Okinoyama Bank Chain, Sagami Trough, Sagami Bay

- 338 倉持卓司・蟹江康光・服部陸男・植松勝之 1996. 日本産オキナエビス科の歯舌形態. JAMSTEC 深海研究, (12): 107-115.

アダンソンオキナエビス属の歯舌は、ヒメオキナエビス属, オキナエビス属のそれらより、縁歯数が少なく、後者は似ている。

オキナエビス科, アダンソンオキナエビス属, ヒメオキナエビス属, オキナエビス属, 歯舌, SEM *Pleurotomariidae*, *Mikadotrochus beyrichii*, *Mikadotrochus, salmianus*, *Perotrochus teramachii*, radula, SEM

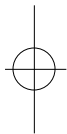
- 339 服部陸男・蟹江康光・大場忠道・秋元和實・菅野三郎 1996. 相模湾および陸上の沈み込み帯の冷湧水域に伴う炭酸塩類と化学合成独立栄養動物群集の生成環境. JAMSTEC 深海研究, (12): 117-132.

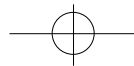
論文 332 の詳細報告。

炭酸塩, 炭素同位体比, 酸素同位体比, 冷湧水, 沈み込み帯, 相模湾

carbonate, carbon isotope, oxygen isotope, cold-seep water, subduction zone, Sagami Bay

- 340 KANIE Y. and KURAMOCHI T. 1996. Description on possibly chemosynthetic bivalves from the Cretaceous deposits of the





Obira-cho, north-western Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (44): 61-66.

白亜紀セノマニアン (約 97 Ma) の地層から,
Thracia yezoensis の新種記載と *Miltha* sp. を記載。
YCM-GP1051[^]1054, YCM-H8740

化学合成, スエモノガイ属, 白亜紀, 中部蝦夷層群,
小平, 北海道

chemosynthesis, *Thracia*, Cretaceous, Middle Yezo
Group, Obira, Hokkaido

- 341 蟹江康光・吉川幸叙・坂井民江・倉持卓
司 1996. 北海道白亜紀の化学合成群集
の復元. 横須賀市博研報 (自然), (44):
69-74.

論文 340 の化石から, 白亜紀後期の化学合成動物
群集を含む生態系を復元した。

化学合成, 軟体動物, コンクリーション, 白亜紀,
小平, 北海道

chemosynthesis, mollusca, concretion, Cretaceous,
Obira, Hokkaido

- 342 木村昭一・蟹江康光 1997. 日本産オキナ
エビスガイ科全種の歯舌の形態比較. 貝
類雑, 56(1): 70.

貝類学会での講演要旨。

アダンソンオキナエビス属, ヒメオキナエビス属,
オキナエビス属, オキナエビスガイ科, 巻貝, 歯舌
Entemnotrochus, *Perotrochus* Pleurotomariidae,
Gastropoda, radula

- 343 蟹江康光 1997. 博物館における研究の
重要性, 亜深海の貝類を研究材料にーグ
ローバルからローカルへー. 古生物学会
第 147 回例会講演要旨集: 6-7.

シンポジウム「博物館における古生物学」の講演
要旨。

博物館, 研究, 軟体動物, 生きている化石, 新第三
紀, 三浦半島

museum, research, mollusca, living fossil, Neogene,
Miura Peninsula

- 344 蟹江康光・上島 励・服部陸男・倉持卓

司・小泉 斉 1997. 遺伝学的, 形態的,
生態学的研究によるオキナエビスガイ類
の進化. 古生物学会第 147 回例会講演要
旨集: 28.

オキナエビスガイ類の進化を, DNA 分析・分子系
統解析・歯舌・出現年代・殻形態と内部構造・生態
と地理的分布から報告。

オキナエビスガイ科, 歯舌, 進化, DNA, 新生代,
生きている化石

Pleurotomariidae, radula, evolution, DNA, Cenozoic,
living fossil

- 345 蟹江康光 1997. 相模湾をしらべる-深海
から生まれた三浦半島. 相模湾をしらべ
る, その 1. *JAMSTEC*, 9(3): 5-9.

オキナエビスガイ類の進化を, DNA 分析・分子系
統解析・歯舌・出現年代・殻形態と内部構造・生態
と地理的分布から海洋研究者へ報告。

オキナエビス, オキナエビスガイ科, 巻貝, 生きて
いる化石, 相模湾,

Mikadotrochus beyrichii, Pleurotomariidae,
Gastropoda, living fossil, Sagami Bay

- 346 蟹江康光・服部陸男・倉持卓司・岡田尚
武・本間千舟 1997. 房総半島南端の千
倉層群産シロウリガイ類 2 種. 地質雑,
103(8): 794-797.

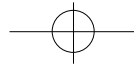
千倉層群産シロウリガイ類 2 種は, オトヒメハマ
グリ科の 2 新種である。新種としての記載文は論文
410 に示した。

シロウリガイ類, 千倉層群, ナノ化石, 化学合成,
房総半島, 千葉

Calyptogena, Chikura Group, nannofossil,
chemosynthesis, Boso Peninsula, Chiba

- 347 KANIE Y. and SAKAI T. 1997
Chemosynthetic Thraciid Bivalve
Nipponothracia gen. nov. from the Lower
Cretaceous and the Middle Miocene
mudstones in Japan. *Venus, Japan. Jour.
Malacol.*, 56(3): 208-220.





白亜紀と新第三紀のスエモノガイ科新属を *Nipponothracia* と命名し、新第三紀種の再記載と白亜紀種の新種記載を行った。また、共産化石をも記載した。

YCM-GP1012^1014,1018^1020,1022, 1045^1050, Ig001a

Nipponothracia 属, 二枚貝, 新第三紀, 白亜紀, 神奈川県, 北海道

Nipponothracia, Bivalvia, Neogene, Cretaceous, Kanagawa, Hokkaido

348 蟹江康光 1997. 仮称「東京湾口断層」について. 地質学会第 104 年学術大会講演要旨:

仮称「東京湾口断層」の存在を、嶺岡地質構造帯の東京湾での右横ずれ、三浦半島の地質構造帯の特徴、房総半島の地質構造帯の特徴、大磯丘陵の地層と地質構造、周辺海域の、陸域の時計回り回転、陸域地下の震源域から、提案した。

東京湾口断層, 活断層, 嶺岡構造帯, 東京湾, 三浦半島, 房総半島

Tokyo Bay's Entrance Fault, active fault, Mineoka Tectonic Belt, Tokyo Bay, Miura Peninsula, Boso Peninsula

349 蟹江康光 1997. 相模湾をしらべる-深海から生まれた三浦半島. 相模湾をしらべる, その 2. JAMSTEC, 9(4): 26-33.

相模湾の海底地形, 相模湾・東京湾口 of 海底地質, 相模湾・相模灘の火山を市民向けに記述。

ナノ化石, 沖ノ山堆列, 相模湾, 東京湾, 三浦半島
nanofossil, Okinoyama Bank Chain, Sagami Bay, Tokyo Bay, Miura Peninsula

350 佐藤比呂志・蟹江康光・東郷正美・渡辺満久・小松原琢・隅元 崇・八木浩司・馬 勝利・太田陽子・中村俊夫・梅沢俊一 1997. 横須賀市野比地区における北武断層のトレンチ調査. 活断層研究, (16): 13-18.

最新活動年代は 1540 ~ 1020 年前で、460 年前にも液状化を伴う地震動があった。報告 280 の論文。
北武断層, トレンチ調査, 地震, 三浦半島, 横須賀

市, 神奈川県

Kitadake Fault, active fault, trenching survey, earthquake, Miura Peninsula, Yokosuka City, Kanagawa

351 蟹江康光 1997. 三浦半島と周辺海域の地球科学. 地学団体研究会神奈川班第 1 回例会講演予稿集: 1-6.

地学団体研究会神奈川班第 1 回例会における記念講演。

地質学, 地質構造, 活断層, 沖ノ山堆列, 相模湾, 三浦半島

nanofossil, tectonics, active fault, Okinoyama Bank Chain, Sagami Bay, Miura Peninsula

352 蟹江康光・服部陸男・岡田尚武 1997. 相模湾沖ノ山堆列のナノ化石年代と地質構造. 第 14 回しんかいシンポジウム予稿集: 12-13.

相模海丘の年代・三浦海丘の年代から、三崎海丘と沖ノ山堆とのあいだに正断層が推定される。

ナノ化石, 地質構造, 新第三紀, 沖ノ山堆列, 相模湾

nanofossil, tectonics, Neogene, Okinoyama Bank Chain, Sagami Bay

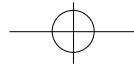
353 倉持卓司・池田 等・服部陸男・蟹江康光 1997. 飼育下におけるオキナエビスの生態. JAMSTEC 深海研究, (13): 687-690.

三崎沖の水深 98 ~ 110 m から採集したオキナエビス 5 個体を葉山しおさい博物館で飼育した報告。平成 5 ~ 7 年度における海洋科学技術センターとの共同研究の成果。

オキナエビス科, オキナエビス, 飼育, 水温, 生態
Pleurotomariidae, *Mikadotrochus beyrichii*, keeping, water temperature, habitat

354 蟹江康光 1997. 博物館紹介⑥横須賀市自然博物館. 地質雑, 104(11): 1104-1105.
日本地質学会の博物館紹介シリーズ。





博物館, 地質学, 展示, 横須賀市, 神奈川県
museum, geology, exhibition, Yokosuka City,
Kanagawa

- 355 蟹江康光・野内秀明 1997. 横須賀市光の丘, YRP 造成地の北武活断層トレンチ調査で発見された縄文土器の ^{14}C 年代と谷地形の形成. 横須賀市博研報 (自然), (45): 1-4.

YRP 造成地の北武活断層トレンチ調査で発見された縄文土器の ^{14}C 年代は 7340 年前と 7380 年前で, 1 万年以上前に谷地形の形成が開始された。

縄文土器, 三浦半島, ^{14}C 年代, 完新世, 活断層
Jomon pottery, Miura Peninsula, ^{14}C age, Holocene,
active fault

- 356 野内秀明・蟹江康光 1997. 三浦市松輪, 間口東洞穴遺跡で発見された完新統の年代と洞穴の形成. 横須賀市博研報 (自然), (45): 5-10.

間口東洞穴の貫通は 4000 年前で, 人間の利用は 2000 年以前である。

海食洞, 洞穴遺跡, 完新世, ^{14}C 年代, 三浦半島
sea cave, cave site, Holocene, ^{14}C age, Miura
Peninsula

- 357 蟹江康光・倉持卓司・服部陸男 1997. 伊豆諸島鳥島海域産コシダカオキナエビスガイ. 横須賀市博研報 (自然), (45): 65-66.

このコシダカオキナエビスは, 水深 200 ~ 300 m の海山斜面か頂部付近で潜水船調査により採集。

YCM-H8745^8748

コシダカオキナエビス, キナエビスガイ科, 軟体動物, 鳥島, 伊豆諸島

Mikadotrochus salmianus, Pleurotomariidae,
mollusca, Torishima Island, Izu Islands

- 358 SAITO K., INOUE C. and KANIE Y. 1997. A review of geological, biostratigraphical, and geochronological studies of the Miura Peninsula (central Japan). In MONTANARI

A., ODIN, G.S. and COCCIONI R. (eds.):
Miocene Stratigraphy: An Integrated
Approach: 553-573. Elsevier.

Hk 凝灰岩鍵層の K-Ar 年代は 4.1 ± 0.5 Ma, So 層は 4.9 ± 1.2 Ma で, 前者のナノ化石年代は CN10c, 後者は CN10b 帯にある。

地質学, 新第三紀, K-Ar 年代, 三浦層群, 三浦半島,
神奈川県

geology, Neogene, K-Ar age, Miura Group, Miura
Peninsula, Kanagawa

- 359 断層に生きる貝・シロウリガイ類-相模湾の相模トラフで断層を調べる-. 三浦半島活断層調査会年報, (1): 8-12.

三浦半島活断層調査会総会における普及講演の要旨。

オトヒメハマグリ科, 断層, 化学合成, 相模トラフ,
相模湾,

Vesicomyidae, fault, chemosynthesis, Sagami
Trough, Sagami Bay,

- 360 蟹江康光・原 真澄 1998. 始新世のオキナエビスガイ類 “*Perotrochus*” *eocenicus* の系統分類学的再検討. 古生物学会 1998 年度総会講演予稿集: 97.

Perotrochus eocenicus は再検討の結果, ジュラ紀・白亜紀に生存していた *Pleurotomaria* 属に改めるべきである。

オキナエビスガイ科, *Perotrochus* 属, *Pleurotomaria*
属, 始新世, 古第三紀, 福岡県

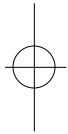
Pleurotomariidae, *Perotrochus*, *Pleurotomaria*,
Eocene, Paleogene, Fukuoka

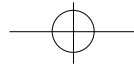
- 361 蟹江康光 1997. 国際学術調査報告展「マダガスカル島の古生物」見学者感想ノートの考察. 横須賀市博物館報, (45): 7-8.

展示「マダガスカル島の古生物」を見学した方から感想ノートに寄せられた内容を整理・考察した。

展示, アンモナイト, 化石, 古生物学, ミネラル,
マダガスカル

exhibition, ammonite, fossil, paleontology, mineral,
Madagascar





- 362 蟹江康光 1997. インド洋に浮かぶゴンドワナ大陸の自然を調べる—国際学術調査報告展示「マダガスカル島の古生物」—. 横須賀市博物館報 (45): 9-16.

三浦半島以外の地域で学芸員が調査研究した成果を市民に行った, 初めて展示である。またボランティアの協力でパソコンを使用したパネルが多数安価につくられ, 初めての試みとして展示パネルを縮小印刷した。

展示, アンモナイト, 化石, 古生物学, ゴンドワナ, マダガスカル
exhibition, ammonite, fossil, Paleontology, Gondwana, Madagascar

- 363 蟹江康光 1997. 第30回国際地質大会(北京, 1996年)の参加と唐山地震跡. 横須賀市博物館報, (45): 5-6.

蟹江は講演330をポスター展示した。地質大会の印象と, 北京から半日の距離にある唐山地震遺跡の見学記録。

国際地質大会, 地震, 活断層, 北京, 唐山, 中国
International Geological Congress (IGC), earthquake, active fault, Beijing, Tanghai, China

- 363a 蟹江康光 1997. 相模湾をしらべる-深海から生まれた三浦半島. 相模湾をしらべる, その1. JAMSTEC, 10(1): 15-21.

テーマは「相模湾のシロウリガイをしらべる」である。

シロウリガイ属, オトヒメハマグリ科, アケビガイ属, スエヒロキヌタレガイ属, コンクリーション, 相模湾

Calypptogena, *Vesicomidae*, *Akebiconcha*, *Acharax*, concretion, Sagami Bay

- 364 蟹江康光・服部睦男・倉持卓司・大場忠道・岡田尚武・本間千舟 1998. 房総半島南端の千倉層群産シロウリガイ類2種. 横須賀市博物館報, (46): 25.

論文346の市民向けの発表。千倉層群産シロウリガイ類2種は, オトヒメハマグリ科の2新種である。

新種としての記載文は論文410である。

シロウリガイ属, 千倉層群, ナノ化石, 化学合成, 房総半島, 千葉

Calypptogena, Chikura Group, nannofossil, chemosynthesis, Boso Peninsula, Chiba

- 365 蟹江康光 1998. 相模湾をしらべる-深海から生まれた三浦半島. 相模湾をしらべる, その1. JAMSTEC, 10(1): 14-19.

テーマは相模湾のシロウリガイをしらべるである。

シロウリガイ属, アケビガイ属, キヌタレガイ科, チューブワーム, コンクリーション, 相模湾

Calypptogena, *Akebiconcha*, *Solemyidae*, tubeworm, concretion, Sagami Bay

- 366 蟹江康光 1998. 相模湾をしらべる-深海から生まれた三浦半島. 相模湾をしらべる, その2. JAMSTEC, 10(2): 16-21.

テーマはシロウリガイ類の化石をしらべる。

シロウリガイ属, 葉山層(群), 三浦層群, プレートテクトニクス, 三浦半島, 神奈川県

Calypptogena, Hayama Formation (Group), Miura Group, plate tectonics, Sagami Bay, Miura Peninsula, Kanagawa

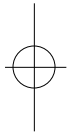
- 367 KANIE Y., HASEGAWA Y., OKAZAKI Y., and TATEMATSU M. 1998. Vampyromorph: past and present-Cretaceous Vampyromorph (Coleoidea: Cephalopoda) as the diet of plesiosaur-. *Bull. Gunma Mus. Nat. Hist.*, (2): 11-22.

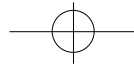
コウモリダコ目の過去と現在-長頸龍の餌としての白亜紀コウモリダコ目(頭足類: 鞘形綱)

プロバンピロテウチス属, コウモリダコ属, コウモリダコ目, 頭足類, 長頸竜, 白亜紀

Provampyroteuthis, *Vampyroteuthis*, Vampyromorph, Cephalopoda, Plesiosaur, Cretaceous

- 368 KANIE, Y. 1998. New Vampyromorph (Coleoidea: Cephalopoda) jaw apparatuses from the Late Cretaceous of Japan. *Bull. Gunma Mus. Nat. Hist.*, (2): 23-34.





後期白亜紀コウモリダコ目（頭足類：鞘形綱）の顎器。

YCM-GP0692, 0693, 1170

プロバンピロテウチス属, コウモリダコ属, コウモリダコ目, 頭足類, 長頸竜, 白亜紀

Provampyroteuthis, *Vampyroteuthis*, Cephalopoda, Plesiosaur, Cretaceous

- 369 蟹江康光・長谷川善和・岡崎美彦・立松正衛 1998.コウモリダコ目の過去と現在-エラスモサウルス科長頸竜の餌としての白亜紀コウモリダコ目（頭足類：鞘形綱）の顎器-. 古生物学会第 147 回例会講演予稿集: 40.

論文 367 の学会へ報告。

プロバンピロテウチス, コウモリダコ属, コウモリダコ目, 頭足類, 長頸竜, 白亜紀

Provampyroteuthis, *Vampyroteuthis*, Cephalopoda, Plesiosaur, Cretaceous

- 370 蟹江康光 1998. 相模湾をしらべる-深海から生まれた三浦半島 II.三浦半島のプレートテクトニクス-. *JAMSTEC*, 10(3): 22-28.

テーマは三浦半島のプレートテクトニクス。

葉山層（群）, 三浦層群, プレートテクトニクス, 枕状溶岩, 三浦半島, 神奈川県

Hayama Formation (Group), Miura Group, plate tectonics, pillow lava, Sagami Bay, Miura Peninsula, Kanagawa

- 371 蟹江康光・倉持卓司・間嶋隆一 1998.奄美群島, 喜界島の更新世琉球石灰岩産ベニオキナエビス（オキナエビス科）。ちりぼたん, 28(4): 79-81.

琉球石灰岩から見つかったオキナエビスガイ類はベニオキナエビスであった。化石としては初めての報告で、これより古い地層からの報告はまだない。

YCM-GP1165

ベニオキナエビス, オキナエビスガイ科, 更新世, 新第三紀, 喜界島, 奄美群島

Mikadotrochus hirasei, Pleurotomariidae,

Pleistocene, Neogene, Kikaijima Island, Amami Islands

- 372 蟹江康光・長谷川善和・岡崎美彦・立松正衛 1998.コウモリダコ目の過去と現在-エラスモサウルス科長頸竜の餌としての白亜紀コウモリダコ目の顎器-. 横須賀市自然・人文博物館 1998 年度自然科学研究発表会プログラム: 2.

論文 367 の市民向け発表。

プロバンピロテウチス属, コウモリダコ属, 頭足類, 顎器, 長頸竜, 白亜紀

Provampyroteuthis, *Vampyroteuthis*, jaw apparatus, Cephalopoda, Plesiosaur, Cretaceous

- 373 蟹江康光 1998. 魅力的な生きる化石・オキナエビス. 神奈川新聞, 1998 年 11 月 14 日: 16. (横須賀湘南版).

生きている化石・オキナエビスの新聞読者への記事。オキナエビス, オキナエビスガイ科, 巻貝, 生きている化石

Mikadotrochus beyrichii, Pleurotomariidae, Pleurotomariidae, Gastropoda, living fossil

- 374 蟹江康光 1998. 博物館における研究の重要性, 亜深海の貝類を研究にーグローバルからローカルへー. 地質ニュース, (532): 58-61.

講演要旨 343 の報告文。

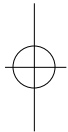
博物館, 新生代, 白亜紀, 軟体動物, 亜深海, 三浦半島, museum, Cenozoic, Cretaceous, mollusca, bathyal sea, Miura Peninsula,

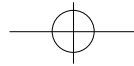
- 375 蟹江康光 1998. 東京湾口断層の提唱. 横須賀市博研報（自然）, (46): 1-8.

講演要旨 348 の論文。

活断層, 地震, 沈み込み帯, 東京湾, 三浦半島, 房総半島

active fault, earthquake, subduction zone, Tokyo Bay, Miura Peninsula, Boso Peninsula





- 376 蟹江康光・倉持卓司 1998. 伊豆諸島鳥島近海産ベニオキナエビスガイ（オキナエビスガイ科）. 横須賀市博研報（自然）, (46): 53-54.

鳥島近海の元禄海山（水深 24～243 m）産 8 個体のベニオキナエビスガイの記載。

YCM-H8753^8760

ベニオキナエビス, オキナエビスガイ科, 軟体動物, 鳥島, 伊豆諸島

Mikadotrochus hirasei, Pleurotomariidae, mollusca, Torishima Island, Izu Islands

- 377 倉持卓司・蟹江康光・秋元和實・本間千舟・本間峰子 1998. 房総半島保田層群より産出したシロウリガイ属二枚貝. 横須賀市博研報（自然）, (46): 55-56.

この化石は *Calypptogena* (*Ectenagena*) sp. である。

シロウリガイ属, 二枚貝, 化学合成, 保田層群, 房総半島, 千葉県

Calypptogena, Bivalvia, chemosynthesis, Hota Group, Boso Peninsula, Chiba

- 378 蟹江康光・西田民雄・倉持卓司・坂井民江・川下由太郎 1999. 北海道幌加内の白亜系から発見された化学合成軟体動物群集. 古生物学会 1999 年会講演予稿集: 159.

下部セノマニアン層から巨大な *Vesicomya* sp. と *Acharax* sp. および *Miltha* ? sp. が見つかった。

オトヒメハマグリ属, 二枚貝, 化学合成, 白亜紀, 北海道

Vesicomya, Bivalvia, chemosynthesis, Cretaceous, Hokkaido

- 379 蟹江康光 1998. 宝石鉱物の国を訪問・マダカスカルミネラル. 神奈川新聞, 1999 年 2 月 6 日: 16. (横須賀湘南版).

マダガスカル島はペグマタイト鉱床に由来する宝石鉱物の産地として有名である。本記事は企画展示の解説でもある。

展示, 宝石, 鉱物, 鉱床, ペグマタイト, マダガス

カル
exhibition, gemstone, mineral, ore, pegmatite, Madagascar

- 380 蟹江康光 1999. 三浦半島と東京湾・房総半島の新生界地質構造. 神奈川県立博調査研究報告, 自然科学, (9): 79-94.

この論文を基礎として展示解説書384が作成された。
地質, 新生代, 地質構造, 三浦半島, 東京湾, 房総半島,
geology, Cenozoic, tectonics, Miura Peninsula, Tokyo Bay, Boso Peninsula,

- 381 蟹江康光・平田大二・今永 勇 1999. 大磯丘陵と相模湾・沖ノ山堆列の地質と微化石年代. 神奈川県立博調査研究報告, 自然科学, (9): 95-110.

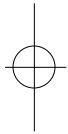
この論文を基礎として展示解説書384が作成された。
ナノ化石, 沖ノ山堆列, 大磯丘陵, 相模トラフ, 相模湾
nannofossil, Okinoyama Bank Chain, Oiso Hill, Sagami Trough, Sagami Bay

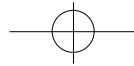
- 382 蟹江康光 1999. 逗子市沼間における 1600 m ボーリングコアの石灰質ナノ化石年代. 神奈川県温泉地学研究所報告, 30(1-2): 53-64.

深度 100～970 m は CN9 帯 (8.5-5.6Ma) の逗子層。深度 970～1100 m は CN5 帯 (13.6-11.3 Ma) の矢部層。深度 1200～1300 m は CN4 帯 (15.6-13.6 Ma) の葉山層。

ボーリングコア, 三浦層群, 葉山層 (群), ナノ化石, 逗子市, 神奈川県
borehole, Miura Group, Hayama Formation (Group), nannofossil, Zushi City, Kanagawa

- 383 蟹江康光・倉持卓司・菅野三郎・溝田智俊・清水 勝・高桑祐司. 1999. 中新世のキヌタレガイ科 *Acharax gigas* の群馬県における新産出と殻形態. 群馬県立自然史博物館研究報告, (3): 17-23.





YCM-GP1166^1169

富岡層群原田篠層 (15.5 Ma) から巨大な *Acharax gigas* が産出した。本種は秩父町層群仁田層から報告されて、1960 年以來見つかっていなかったもの。スエヒロキヌタレガイ属、キヌタレガイ科、二枚貝、中新世、群馬県
Acharax, Solemyidae, Bivalvia, Miocene, Gunma

384 今永 勇・蟹江康光 (編) 1999. 海から生まれた神奈川-伊豆・小笠原弧の形成と活断層 -. 97 ページ. 神奈川県立生命の星・地球博物館・横須賀市自然・人文博物館.

両博物館で共同開催した展示「海から生まれた神奈川-伊豆・小笠原弧の形成と活断層」のフルカラー展示解説書で、両博物館で販売した。
展示, 解説書, 伊豆小笠原弧, 活断層, 三浦半島, 神奈川県
exhibition, guidebook, Izu-Bonin Arc, active fault, Miura Peninsula, Kanagawa

385 蟹江康光 1999. 大地震を予想させる・三浦半島の活断層. 神奈川新聞, 1999 年 7 月 17 日: 16. (横須賀湘南版).

三浦活断層群の調査は進行中である。従来の報告でも、これらの断層群はいつ活動しても、おかしくない活断層とされている。
活断層, 地震, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県
active fault, earthquake, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

386 蟹江康光・今永 勇 1999. 地域博物館の共催展示「伊豆・小笠原弧の形成と活断層」の開催. 地質学会第 106 回年会 (10 月, 名古屋) 講演要旨: 304.

共催展示「伊豆・小笠原弧の形成と活断層」の意義を地質学会の地学教育部門でポスター展示した。
展示, 博物館, 伊豆小笠原弧, 三浦半島, 活断層, 神奈川県
exhibition, museum, Izu-Bonin Arc, active fault, Miura Peninsula, Kanagawa

387 杉村 新・斉藤 勝・東郷正美・池田安隆・蟹江康光・木村一夫・江藤哲人・太田陽子・佐藤比呂志・浅見茂雄・藤井義二 1998. 三浦半島・横須賀市長沢地区における北武断層のトレンチ調査. 地学雑誌, 108(5): 562-588.

大規模なトレンチ調査が行われた調査結果は、3-4 m/1000 年の右横ずれする A 級の活断層で、最終活動は 1490 ~ 1430 年前である。
北武断層, 活断層, トレンチ調査, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県
Kitatake Fault, active fault, trenching survey, Miura Peninsula, Kanagawa

388 蟹江康光・浅見茂雄 1999. 地震エネルギー・蓄積三つの断層帯. 神奈川新聞, 1999 年 11 月 13 日: 18 (横須賀湘南版).

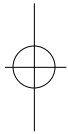
最近 (2001 年), 武山断層・北武断層・衣笠断層が地下でつながる断層として三浦半島北部断層帯が提唱された。新聞記事。
北武断層, 活断層, 地震, 横須賀市, 神奈川県
Northern Fault Zone of the Miura Peninsula, Kitatake Fault, active fault, earthquake, Yokosuka City, Kanagawa

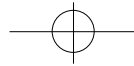
389 蟹江康光 1999. 深い海で生き延びる・コウモリダコ. 神奈川新聞, 1999 年 11 月 27 日: 16. (横須賀湘南版).

深海の生きている化石として有名なコウモリダコは、白亜紀にたくさん生きていた。
コウモリダコ目, 頭足類, 生きている化石, 白亜紀, 北海道, 相模湾
Vampyromorpha, Cephalopoda, living fossil, Cretaceous, Hokkaido, Sagami Bay

390 倉持卓司・西川輝昭・服部陸男・蟹江康光・秋元和實 1999. 日本海溝から採集されたツリガネボヤ属 1 種の生態. JAM-STECS 深海研究, (15): 1-3.

常磐沖 5784 m からツリガネボヤ属の一種が発見さ





れた。

ホヤ目, 脊索動物, ツリガネボヤ属, 生態, 日本海溝
Ascidiacea, Chordata, *Culeolus*, Habitat, Japan
Trench

391 蟹江康光 1999. 深海から生まれた三浦
半島. そくほう, (540): 2.

テーマは, 相模湾をしらべる。深海から生まれた
三浦半島。

プレートテクトニクス, 新第三紀, 相模湾, 三浦半
島, 神奈川県

plate tectonics, Neogene, Sagami Bay, Miura
Peninsula, Kanagawa

392 蟹江康光 2000. 台湾の 921 集集大地震,
台湾レポート前編. はまかぜ.

1999 年 9 月 21 日の大地震は 921 集集大地震と命名
された。

地震, 活断層, 震災, 集集, 台湾

earthquake, active fault, earthquake disaster, Chichi,
Formosa

393 蟹江康光 2000. 台湾の 921 集集大地震,
台湾レポート後編. はまかぜ.

1999 年 9 月 21 日の大地震は 921 集集大地震と命名
された。

地震, 活断層, 震災, 集集, 台湾

earthquake, active fault, earthquake disaster, Chichi,
Formosa

394 KANIE Y., NISHIDA T., KURAMOCHI T.
and KAWASHITA Y. 2000 Chemosynthetic
bivalves community discovered from the
Cretaceous deposits in Horokanai-cho, north
western Hokkaido, *Sic. Rept. Yokosuka City
Mus.*, (47): 73-78.

北海道北西部, 幌加内町の白亜系から発見された
化学合成二枚貝群集。下部セノマニアン (約 95 Ma)
のコンクリーションから巨大な *Vesicomya inflata* が
多産し, *Acharax cretacea* も新種である。三笠市から
報告された下部 アルビアン (約 106 Ma) の
Nipponothracia を含む群集, 小平からの下部セノマ

ニアンの *Thracia* や *Miltha* を含む群集と共通してい
る。

YCM-GP1176

オトヒメハマグリ属, オトヒメハマグリ科, 化学合
成, 二枚貝, 白亜紀, 北海道

Vesicomya, *Vesicomyidae*, Chemosynthesis,
Bivalve, Cretaceous, Hokkaido

395 KANIE, Y. and NISHIDA, T., 2000.
Vesicomya and *Acharax* from the Cretaceous
deposits of northwestern Hokkaido. *Sic. Rept.
Yokosuka City Mus.*, (47): 79-84.

論文 395 の地点からの *Vesicomya inflata* と *Acharax
cretacea* を新種として記載した。化学合成動物群集
を構成している。

YCM-GP1173¹¹⁷⁵, 1177¹¹⁸⁰,

化学合成, オトヒメハマグリ属, スエヒロキヌタレ
ガイ属, 二枚貝, 白亜紀, 北海道

Chemosynthesis, *Vesicomya*, *Acharax*, Bivalvia,
Cretaceous, Hokkaido

396 蟹江康光・倉持卓司・岡田尚武 2000.
横須賀市野比海岸にみられる更新統宮田
層の化石群集。横須賀市博研報 (自然),
(47): 85-87.

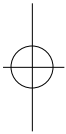
ナノ化石で 1.06 ~ 0.46 Ma とされた泥岩は, 水深
10 ~ 200 m の海底で堆積し, 親潮要素のチシマフジ
ツボも産出した。宮田累層最下部の上宮田部層に対
比できそうである。

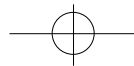
宮田層, 軟体動物, 第四紀, 三浦半島, 横須賀市,
神奈川県

Miyata Formation, mollusca, Miura Peninsula,
Yokosuka City, Kanagawa

397 蟹江康光・浅見茂雄 2000. もう少しで
正体判明・南下浦断層. 神奈川新聞,
2000 年 4 月 8 日: 18. (横須賀湘南版).

神奈川県活断層調査委員会によって神台 (じんだ
い) 地区で南下浦断層のトレンチ発掘が行われた。
その他の見学地として三崎口駅, 菊名の白山神社南
の谷, 高抜海岸, 南下浦学校群が紹介されている。
南下浦断層, 活断層, 三浦市, 三浦半島, 神奈川県





Minamishitaura Fault, active fault, Miura City, Miura Peninsula, Kanagawa

exhibition, Geological Society of Japan, active fault, Izu-Bonin Arc, Miura Peninsula, Kanagawa

- 398 蟹江康光 2000. 三浦半島と周辺域のテクニクス. 地団研第54回総会シンポジウム「東京湾の過去・現在・未来」要旨集: 58-59.

地学団体研究会の神奈川総会（会場は鶴見大学）における特別講演の要旨。

地質構造, 新第三紀, 古第三紀, 三浦半島, 神奈川県 tectonics, Neogene, Paleogene, Miura Peninsula, Kanagawa

- 399 蟹江康光・相田一郎 2000. 三浦半島南部の三崎層の年代と堆積の場, および活断層としての南下浦断層. 地学団体研究会第54回総会巡検解説書: 63-71.

地学団体研究会の神奈川総会における地質巡検案内書。6コース。

解説書, 南下浦断層, 活断層, 三崎層, 三浦半島, 神奈川県 guidebook, Minamishitaura Fault, active fault, Misaki Formation, Miura Peninsula, Kanagawa

- 400 蟹江康光 2000. コウモリダコの形態と化石種の復元. 古生物学会第148例会講演予稿集: 159.

生きている化石として有名なコウモリダコは, 白亜紀にたくさん生きており, 長頸竜の餌であった。コウモリダコ目, 頭足類, 生きている化石, 白亜紀, 北海道, 相模湾

Vampyromorpha, Cephalopoda, living fossil, Cretaceous, Hokkaido, Sagami Bay

- 401 蟹江康光 2000. 特別展示「三浦半島の活断層-伊豆・小笠原弧の形成と活断層-」を終了して. 日本地質学会 News, 3(5): 4.

特別展示「三浦半島の活断層-伊豆・小笠原弧の形成と活断層-」は2000年3月に9000人の入場者を迎えて終了した。本報告は日本地質学会向けのもの。展示, 日本地質学会, 活断層, 伊豆小笠原弧, 三浦半島, 神奈川県

- 402 蟹江康光 2000. マダガスカル ミネラル-宝石鉱物の国を訪問-. 三浦半島自然と人文の世界: 40-42. かなしん出版.

マダガスカル島はペグマタイト鉱床に由来する宝石鉱物の産地として有名である。本記事は企画展示の解説でもある。

宝石, 鉱物, 鉱床, ペグマタイト, マダガスカル gemstone, mineral, ore, pegmatite, Madagascar

- 403 蟹江康光 2000. 三浦半島の活断層-大地震を予想させる-. 三浦半島自然と人文の世界: 43-45. かなしん出版.

三浦活断層群の調査は進行中である。従来の報告でも, これらの断層群はいつ活動しても, おかしくない活断層とされている。

活断層, 地震, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県 active fault, earthquake, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 404 蟹江康光・浅見茂雄 2000. 三つの断層帯-地震エネルギー蓄積-. 三浦半島自然と人文の世界: 46-48. かなしん出版.

衣笠断層・北武断層・武山断層は, 調査の結果, いつ活動しても, おかしくない活断層とされた。

衣笠断層, 北武断層, 武山断層, 活断層, 横須賀市, 神奈川県

Kinugasa Fault, Kitatake Fault, Takeyama Fault, active fault, Yokosuka City, Kanagawa

- 405 蟹江康光 2000. コウモリダコ-深い海で生き延びる-. 三浦半島自然と人文の世界: 49-51. かなしん出版.

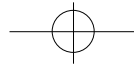
深海の生きている化石として有名なコウモリダコは, 白亜紀にたくさん生きていた。

コウモリダコ目, 頭足類, 生きている化石, 白亜紀, 北海道, 相模湾

Vampyromorpha, Cephalopoda, living fossil, Cretaceous, Hokkaido, Sagami Bay

- 406 蟹江康光 2000. オキナエビス-魅力的





な生きる化石-. 三浦半島自然と人文の世界: 52-54. かなしん出版.

相模湾の生きている化石として有名なオキナエビスガイを, 調査報告から解説。

オキナエビス, オキナエビスガイ科, 巻貝, 生きている化石, 相模湾,

Mikadotrochus beyrichii, Pleurotomariidae, Gastropoda, living fossil, Sagami Bay

- 407 蟹江康光・浅見茂雄 2000. 南下浦断層-もう少しで正体判明-. 三浦半島自然と人文の世界: 55-57. かなしん出版.

神奈川県活断層調査委員会により南下浦断層のトレンチ発掘が行われた。

南下浦断層, 活断層, 三浦市, 三浦半島, 神奈川県
Minamishitaura Fault, active fault, Miura City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 408 蟹江康光・倉持卓司 2001. 房総半島より産出したオトヒメハマグリ科二枚貝化石の2新種. 第17回しんかいシンポジウム予稿集: 93.

房総半島の千倉層群白間津層より産出した巨大なオトヒメハマグリ科二枚貝の2新種は, *Vesicomya ellipsoidea* と *Calyptogena bosoensis* である。

YCM-P1143[^]1155

オトヒメハマグリ科, 二枚貝, 新第三紀, 千倉層群, 房総半島, 千葉県

Vesicomyidae, Bivalvia, Neogene, Chikura Group, Boso Peninsula, Chiba

- 409 蟹江康光・菅野康彦 2001. 地質学会ニュース表紙紹介. 日本地質学会 News, 4(1): 5.

北海道中川町産白亜紀後期アンモナイト *Eupachydiscus haradai* の巻殻と縫合線を解説。

アンモナイト, *Eupachydiscus haradai*, 縫合線, 白亜紀, 中川, 北海道
ammonite, *Eupachydiscus haradai*, suture line, Cretaceous,

- 410 蟹江康光・倉持卓司 2001. 房総半島の鮮

新統千倉層群白間津層より産出した巨大なシロウリガイ科二枚貝の2新種. 横須賀市博研報 (自然), (48): 1-9.

房総半島の千倉層群白間津層より産出した巨大なオトヒメハマグリ科二枚貝の2新種は, *Vesicomya ellipsoidea* と *Calyptogena bosoensis* である。

YCM-P1143[^]1155

オトヒメハマグリ科, 二枚貝, 新第三紀, 千倉層群, 房総半島, 千葉県

Vesicomyidae, Bivalvia, Neogene, Chikura Group, Boso Peninsula, Chiba

- 411 渡辺政美・倉持卓司・池田 等・朝田正・蟹江康光 2001. 完新統沼層産メダカラガイの ¹⁴C 年代. 横須賀市博研報 (自然), (48): 11-15.

沼層は館山市周辺に露出する海成層である。メダカラガイ貝殻の ¹⁴C 年代は 5810 (補正值 6260) 年前である。

YCM-GP1143

完新世, 沼層, ¹⁴C 年代, タカラガイ, 千葉県
Holocene, Numa Formation, ¹⁴C age, cowry shell, Chiba

- 412 蟹江康光・三浦半島地盤研究会 2001. 横須賀市太田和地区における北武断層の活動年代. 横須賀市博研報 (自然), (48): 113-144.

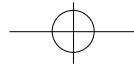
横須賀市太田和で北武断層の露頭が出現し, 地すべり性堆積物の生成年代を測定した。

北武断層, 地すべり, ¹⁴C 年代, 横須賀市, 神奈川県
Kitatake Fault, landslide, ¹⁴C age, Yokosuka City, Kanagawa

- 413 蟹江康光・蟹江由紀 2001. “三浦層群の堆積場とテクトニクス”. 日本地質学会第108年学術大会講演要旨: 221.

三浦層群の堆積海域が南部の三崎層-初声層堆積域と北部の逗子層-池子層と異なるので, 新しい層群名を提案。

三浦層群, 三崎層, 初声層, 逗子層, 池子層, 三浦



半島

Miura Group, Misaki Formation, Hasse Formation, Zushi Formation, Ikego Formation, Miura Peninsulas

- 414 蟹江康光 2001. マダガスカル島の地質. 横須賀市自然・人文博物館自然科学研究発表会講演要旨.

マダガスカル島の白亜紀の概要を調査成果として紹介した。

白亜紀, アンモナイト, 恐竜, 地質, 鉱物, マダガスカル
Cretaceous, ammonite, dinosaur, geology, mineral, Madagascar

- 415 蟹江康光 2001. マダガスカル島の白亜紀-一億年前の陸と海. マダガスカル研究懇話会講演要旨. 京都.

マダガスカル島の白亜紀古地理を調査成果として紹介した。

白亜紀, アンモナイト, 恐竜, 地質, 鉱物, マダガスカル
Cretaceous, ammonite, dinosaur, geology, mineral, Madagascar

補 遺

- 661 蟹江康光 1966. 横須賀市博物館所蔵北海道浦河郡浦河町井寒台海岸産化石リスト (1). 横須賀市博雑報, (11): 7.

白亜紀後期サントニアン of 軟体動物化石のリスト. 井寒台海岸は浦河統の模式地である.

二枚貝, アンモナイト, 白亜紀, 上部蝦夷層群, 浦河, 北海道
Bivalve, ammonite, Cretaceous, Upper Yezo Group, Urakawa, Hokkaido

- 671 蟹江康光 1967. 三浦半島の生い立ち. 神奈川の自然, (4): 2-3.

1966 年までの資料で, 三浦半島の地質概要を紹介した。

地質, 地史, 新生代, 三浦半島, 神奈川県
geology, geohistory, Cenozoic, Miura Peninsula, Kanagawa

- 881 伝福寺裏遺跡調査団 1988. 伝福寺裏遺跡と古環境の復元. 横須賀市文化財調査報告書, (16): 235-240.

横須賀市久里浜にあった伝福寺裏遺跡の発掘調査報告書。そのうちで, 古環境を復元した。

遺跡, 完新世, 久里浜, 横須賀市, 神奈川県
site, Holocene, Kurihama, Yokosuka City, Kanagawa

- 941 横須賀市自然・人文博物館 1994. 特別展示「深海から生まれた三浦半島」. 横須賀市博館報, (41): 6-8.

蟹江が執筆した。「深海から生まれた三浦半島」の展示報告。

展示, 深海, 博物館, 横須賀市, 三浦半島, 神奈川県
exhibition, deep-sea, museum, Yokosuka City, Miura Peninsula, Kanagawa

- 951 蟹江康光 1995. アンモナイトと相模貝類同好会. 相模貝類同好会会報 (30): 10-11.

初代の横須賀市博物館長であった羽根田弥太氏への追悼文。

アンモナイト, 羽根田 弥太, 追悼文, 横須賀市, 博物館
ammonite, HANEDA, memorial writing, Yokosuka City, museum

- 961 蟹江康光 1996. 大山 桂先生. 相模貝類同好会会報, (32): 16-17.

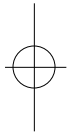
相模貝類同好会会の顧問であった大山 桂氏への追悼文。

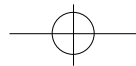
貝類学, 相模貝類同好会, 大山 桂, 追悼文, 相模湾
conchology, Sagami Shell Club, OYAMA, memorial writing, Sagami Bay

- 962 蟹江康光 1996. 深海から生まれた三浦半島. 三浦半島活断層調査会発行情書番号, (24): 1-16.

三浦半島活断層調査会での講演「深海から生まれた三浦半島」の報告。

活断層, 三浦半島活断層調査会, 深海, 三浦半島,

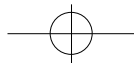




研究委託・研究員等の業績

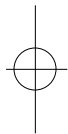
- A1** 秋元和實 1990. 三浦半島北部鮮新世シロウリガイ類コロニー産底生有孔虫群集. * 横須賀市博研報 (自然), (38): 95-99.
- A2** 赤穂敏也 1988. 横須賀で発見された魚の化石. 横須賀市博物館雑報, (11): 7.
- A3** 浅賀正義・金綱久夫・伊妻勝彦 1991. 房総半島黒滝層 (鮮新統) 産シロウリガイ類の殻形態の特徴. * 横須賀市博研報 (自然), (39): 51-59
- E1** 江藤哲人 1971. 宮田層の密集型化石層の有孔虫群集について-予察的研究-. * 横須賀市博研報 (自然), (17):12-20
- H1** 長谷川善和 1968. 横須賀市吉井貝塚から発掘されたカワウソ遺骸. * 横須賀市博研報 (自然), (12): 9-12, 図版 4.
- H2** 長谷川善和 1968. 三浦半島の象化石. 横須賀市博雑報, (13): 12-14.
- H3** 長谷川善和 1968. 横須賀市久里浜湾内の埋積谷とナガス鯨類脊椎骨化石. * 横須賀市博研報 (自然), (14): 12-19, 図版 6.
- H4** HORIKOSHI M. 1960. A topographical approach to a study of the benthic communities on the submarine ridge, Se-no-umi, in Sagami. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (5): 6-8.
- H5** 堀越増興 1960. 台風によって東京湾口誓願上宮田海岸に打上げられた貝類. * 横須賀市博物館研報 (自然), (5): 9-13.
- H6** 堀越増興・野村洋太郎・斉藤 孝 1963. 横須賀市博物館所蔵細谷角次郎氏蒐集貝類標本目録 (その1). * 横須賀市博物館研報 (自然), (6): 51-56.
- H7** 堀越増興・野村洋太郎・斉藤 孝・小菅貞男 1963. 細谷角次郎氏蒐集貝類標本目録. * 横須賀市博物館研報 (自然), (9): 1-143.
- H8** 堀越増興・小菅貞男 1971. 横須賀市教育委員会特別保護区, 津久井化石層の大型化石群集について (第1報). * 横須賀市博研報 (自然), (17): 21-27.
- K1** 小菅貞男 1963. 横須賀市立博物館所蔵故細谷角次郎氏蒐集貝類標本中のミックチキリオレ科の各種の目録と解説. * 横須賀市博物館研報 (自然), (9): 144-152.
- K2** 小菅貞男 1964. 横須賀市立博物館所蔵, 細谷コレクションの有殻後鰐類の目録と解説. * 横須賀市博物館研報 (自然), (10): 7-16
- K3** 小菅貞男・林奨一郎 1967. カツラガイ (腹足類) の食性についての考察. * 横須賀市博研報 (自然), (17): 45-54, 図版 1-2.
- K4** 倉持卓司・勝重広美 1999. 更新統宮田層産タテスジホオスジチョウチンの生態と相対性長. 横須賀市博研報 (自然), (46): 57-58.
- M1** 前田和俊・太田 秀・大里明博・鹿野康裕・上島 励 1983. 横須賀市自然博物館所蔵平瀬貝類標本目録 (。) 陸産貝類 (1) オナジマイマイ科 (有肺亜綱). * 横須賀市博物館資料集, (8): 1-60.
- M2** 前田和俊・太田 秀・鹿野康裕・上島 励 1987. 横須賀市自然博物館所蔵平瀬貝類標本目録 (II) 陸産貝類 (2) 前鰐亜綱, 有肺亜綱 (オナジマイマイ科を除く). * 横須賀市博物館資料集, (10): 1-71.
- M3** MATSUMOTO T. and MIYAUCHI T. 1986. Further notes on *Parasolenoceras* (heteromorph ammonoid) from northern Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (34): 7-16, pl. 1.
- M4** MATSUMOTO T. and SUEKANE T. 1987. Some acanthoceratid ammonites from the Yubari Mountains, Hokkaido-Part 1. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (35): 1-14, pls. 1-4.
- M5** MATSUMOTO T., SUEKANE T. and KAWASHITA Y. 1989. Some acanthoceratid ammonites from the Yubari Mountains, Hokkaido-Part 2. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (37): 29-44.
- M6** 松本達郎 1995. 北海道浦河地域白亜系の化石 5 種一特に対比に関連して一. * 横須賀市博研報 (自然), (43): 63-69.
- O1** 大越 章 軟体動物化石による堆積環境の解析 (予報) -津久井化石層を例にして-. 横須賀市博物館報, (19): 11-18.
- S1** 柴田敏隆 1964. ナウマン象の歯の化石. 横須賀市博物館雑報, (10): 表紙.
- S2** SHIKAMA T. 1971. On a new cowry from South China Sea. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (18): 101-103.
- Y1** YAMAGUCHI T. 1971. Fossil barnacles from the Pleistocene Miyata Formation. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (18): 122-130.
- Y2** 野内秀明 1988. 三浦半島東部海岸地域における完新統と埋積地形. * 横須賀市博研報 (自然), (36): 53-67.
- Y3** 横須賀市自然博物館編 1992. 横須賀市自然博物館所蔵細谷角次郎氏収集貝類目録索引. * 横須賀市博資料集, (17): 1-37.





蟹江康光学芸員が記載した新タクサ（1973～2001） New taxa described by KANIE Yatsumitsu in 1973～2001

蟹江康光学芸員は、横須賀市自然・人文博物館（前の横須賀市博物館）在職中（1973-2002年）に23種におよぶ新種を記載し、*Anismyon* 属、*Gigantocapulus* 属、*Nipponothracia* 属、*Ainoceras* 属の4属を創設した。蟹江の研究は主に南関東地方の新第三紀と、北海道・マダガスカルの新第三紀から産する軟体動物化石の古生物学的研究を中心とし、特に「生きている化石」と呼ばれるオキナエビスガイなどの化石種と現生種の比較による生態復元の研究を進めてきたことに特徴づけられる。また、1990年代からは、シロウリガイなどを含む化学合成生物群集の研究をはじめ、本群集は、新生代のみならず中生代にすでに出現することを報告した。記載した新タクサのいくつかは、後の追加研究によって修正・改名あるいは分類群が変更されたものがある。



Class Hyorozoa ヒドロチュウ綱

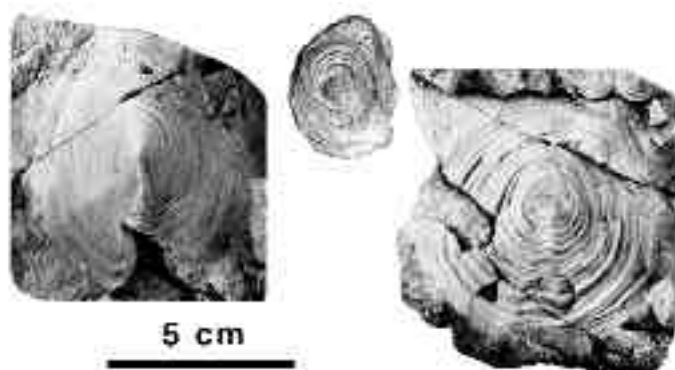
Palaelophacmae annulata (YOKOYAMA), STANLEY et KANIE, 1985

Palaelophacmae 属は、現生のギンカクラゲやカツオノカンムリに近縁と考えられた。本種の化石に関して KASE(1988)は、本種を軟体動物中腹足目の *Brunonia* 属としている。

産地・地層 群馬県多野郡中里村神ヶ原, Sa.203 ほか 山中層群石堂層

産出年代 白亜紀前期バレミアン（132-125 Ma）

標本番号 Paratypes（副模式標本）：YCM-GP548, 549, 552; NSM.PM1246a, b, 1269.

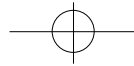


文 献

STANLEY G. D. and KANIE Y. 1985.
The first Mesozoic Chondrophorine
(Mudusoid Hydrozoan), from the
lower Cretaceous of Japan.
Palaeontology, 28(10): 101-109.

KASE T. 1988. Reinterpretation of
Brunonia annulata (YOKOYAMA)
as an early Cretaceous carinariid
Mesogastropoda (Mollusca). *Jour.*
Paleont., 62(5): 766-771.





Class Gastropoda 腹足綱

Entemnotrochus shikamai KANIE, 1973 シカマオキナエビス

生きている化石として知られるオキナエビスガイ類の中でもっとも原始的と考えられる *Entemnotrochus* 属に属し、現生のリュウグウオキナエビス *E. rumphii* (SCHEPMAN)の祖先型と考えられる。*E. ozakii* KASE et KITAYAMA も同種に近縁である。殻頂まで抜けるへそ孔が特徴である。

産地・地層 千葉県安房郡鋸南町鋸山南麓 三浦層群千畑層

産出年代 新第三紀中新世後期 (8-6 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP529-1.



文 献

KANIE Y. 1973. A new species of Miocene *Entemnotrochus* from the south of Nokogiri-yama, Boso Peninsula, Japan. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (20): 41-45.

KASE T. and KATAYAMA T. 1981. A new Miocene *Entemnotrochus* (Mollusca, Gastropoda) from the Izu Peninsula, Japan. *Mem. Natn. Sci. Mus.*, (14): 33-40, pl.4.

Class Gastropoda 腹足綱

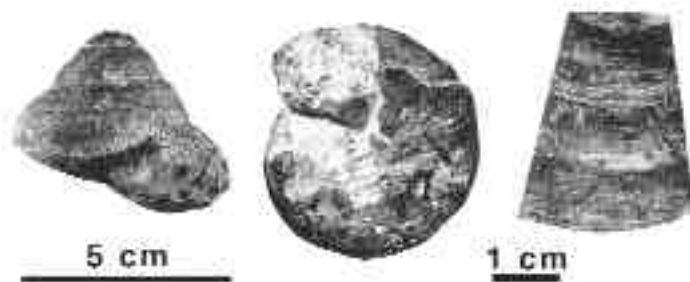
Pleurotomaria fausta KANIE et HABE, 1973

本種は、日本の白亜紀より初めて *Pleurotomaria* 属として新種記載された。*Pleurotomaria yezoensis* より粗い殻彫刻を有する。

産地・地層 北海道稚内市宗谷岬 上部蝦夷層群大岬層

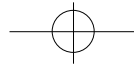
産出年代 白亜紀後期 カンパニアン (83-74 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): NSM.PM100.



文 献

KANIE T. and HABE T. 1973. A new species of the Cretaceous *Pleurotomariid* from Cape Soya, North Hokkaido, Japan. *Jap. Jour. Malacol., Venus*, 32(1), 19-23.



Class Gastropoda 腹足綱

***Pleurotomaria yezoensis* KANIE, 1980 エゾオキナエビス**

本種を含む *Pleurotomaria* 属は、中生代のジュラ紀と白亜紀に栄え、中生代末（～始新世？）に絶滅したオキナエビスガイ科の一属である。大英博物館に保存されている *Pleurotomaria anglica* のへそ孔の形態と比較して、本種を *Pleurotomaria* 属とした。

産地・地層 北海道浦河郡浦河町井寒台. U459p 上部蝦夷層群 U2 層

産出年代 白亜紀後期 カンパニアン (83-74 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP.Ur459015; paratypes (副模式標本): YCM-GP558, MN221a, 221b. GK.H.10316.

**文 献**

KANIE Y. 1980. A new Cretaceous Pleurotomariid (Acrchaegastropoda) from Hokkaido, Japan. *Prof. S. KANNO Mem. Vol.* 155-158.

Class Gastropoda 腹足綱

***Anisomyon transformis* (DUNDO), KANIE, 1975**

Anisomyon 属は、これまで研究者により腹足類の全く異なる各分類群に含まれていたが、わずかに残されていた筋肉痕をもとに、現生種のカツラガイ科に近い種群であることが明らかにされた。

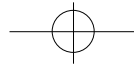
産地・地層 北海道浦河郡浦河町西幌腹. U51 上部蝦夷層群 U2 層ほか

産出年代 白亜紀後期 カンパニアン (83-74 Ma)

標本番号 Paratype (副模式標本): YCM-GP.Ur051009.

**文 献**

KANIE Y. 1975. Some Cretaceous patelliform gastropods from the northern pacific region. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (21): 1-44.



Class Gastropoda 腹足綱

Anisomyon cassidarius (YOKOYAMA), KANIE, 1975

Anisomyon 属は、時代を経るに従って大型化する傾向がみられ、白亜紀後期中期に出現した *A. cassidarius* が 38 mm 以下、中・後期の *A. transformis* が 56 mm 以下、後期の *A. giganteus* は、260 mm にも達する。蟹江の博士論文。

産地・地層 北海道浦河郡浦河町西幌腹. U36 上部蝦夷層群 U1b 層

産出年代 白亜紀後期 コニアシアン(89 Ma)～カンパニアン前期 (84 Ma)

標本番号 Paratype (副模式標本): YCM-GP.Ur026013.



文 献

KANIE Y. 1975. Some Cretaceous patelliform gastropods from the northern pacific region. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (21): 1-44.

Class Gastropoda 腹足綱

Gigantocapulus giganteus (MICHAEL), HAYAMI et KANIE, 1980

HAYAMI and KANIE (1980) は、巨大な二枚貝 *Sphaenoceras schmidt* に付着したカツラガイ科巻貝を発見し新属 *Gigantocapulus* を提唱した。

産地・地層 N469, northwest of Miho, Naibuchi area, South Saghalien. 龍ヶ瀬層群

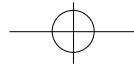
産出年代 白亜紀後期 カンパニアン中期 (89-80Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): UMUT.MM5535.



文 献

HAYAMI I. and KANIE Y. 1980. Mode of life of a giant capulid gastropod from the Upper Cretaceous of Saghalien and Japan. *Palaeontology*, 23(3): 689-699.



Class Bivalvia 二枚貝綱

Acharax yokosukensis KANIE et KURAMOCHI, 1995 **ダイオウキヌタレガイ**

ダイオウキヌタレガイは、オウナガイ、ツキガイモドキ、シロウリガイ、チューブワームなどと共に葉山層より産出した化学合成生物群集の構成種として報告された。本種は鰓に化学合成細菌を共生させることにより大型化したと推測され、300 mm にも達する個体もある。

産地・地層 神奈川県横須賀市池上新沢山トンネル東斜面 葉山層 (15Ma)

産出年代 新第三紀中新世中期 (15 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP.Ig36; paratype (副模式標本): YCM-GP. Ig32, 37, 47, 48.



文 献

KANIE Y. and KURAMOCHI T. 1995. *Acharax yokosukensis*, n. sp. (gigantic Bivalve) from the Miocene Hayama Formation of the Miura Peninsula, south-central Japan. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (43): 51-57.

Class Bivalvia 二枚貝綱

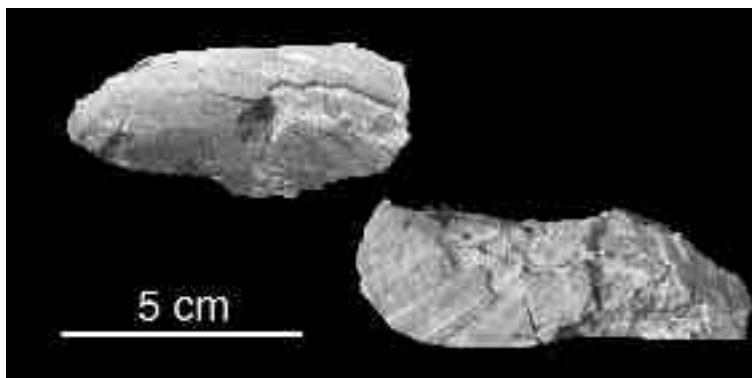
Acharax cretacea KANIE et NISHIDA, 2000

本種は、原始的な二枚貝として知られる *Acharax* 属として最も古い地質年代より報告された。キヌタレガイ、ツキガイモドキ、シロウリガイなどから構成される現生冷湧水化学合成生物群種の起源は、本種などの発見により白亜紀に既に存在していた。

産地・地層 北海道幌加内町三十線沢 上部蝦夷層群 My4 部層

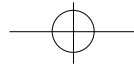
産出年代 白亜紀セノマニアン前期 (95 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP1175; paratype (副模式標本): YCM-GP1180



文 献

KANIE Y. and NISHIDA T. 2000. New species of chemosynthetic bivalves, *Vesicomya* and *Acharax*, from the Cretaceous deposits of northwestern Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (47): 79-84.



Class Bivalvia 二枚貝綱

Vesicomya inflata KANIE et NISHIDA, 2000

現生 *Vesicomya* 属の種類は小型の種が多いが、白亜紀の地層より発見された本種は、130 mm に達する。*Vesicomya inflata* は、*Acharax cretacea*, *Miltha* sp.と共に産出し、現在とは多少異なった、白亜紀の化学合成生物群集を構成する主要種と考えられている。

産地・地層 北海道幌加内町三十線沢 上部蝦夷層群 My4 部層

産出年代 白亜紀セノマニアン前期 (95 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP1173; paratype (副模式標本): YCM-GP1174



文 献

KANIE Y. and NISHIDA T. 2000. New species of chemosynthetic bivalves, *Vesicomya* and *Acharax*, from the Cretaceous deposits of northwestern Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (47): 79-84.

Class Bivalvia 二枚貝綱

Vesicomya ellipsoidea KANIE et KURAMOCHI, 2001

これまで報告されていた *Vesicomya* 属は、小型の種が多かったが、本種は 220 mm にも達する大型の殻の厚い二枚貝である。生息時は水深 2000 m 以深の海にいたと推定される。

産地・地層 千葉県安房郡千倉町川口 千倉層群白間津層

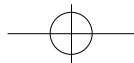
産出年代 新第三紀鮮新世 (3-2 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP1145; paratypes (副模式標本): 1146, 1149-1155.



文 献

KANIE Y. and KURAMOCHI T. 2001. Two new species of the Vesicomidae (Bivalvia: Mollusca) from the Pliocene Siramazu Formation of the Chikura Group in Boso Peninsula, Japan. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (48): 1-9.



Class Bivalvia 二枚貝綱

Calyptogena bosoensis KANIE et KURAMOCHI, 2001

本種は、現生のツバサシロウリガイ *Calyptogena (Archivesica) tsubasa* OKTANI, FUJIKURA et KOJIMA, 2000 に類似することから、これらの種の祖先型と考えられる。235 mm に達する大型種。

産地・地層 千葉県安房郡千倉町忽戸 千倉層群白間津層

産出年代 新第三紀 鮮新世 (3-2 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本) : YCM-GP1143; paratypes (副模式標本) : 1144, 1151.



文 献

KANIE Y. and KURAMOCHI T. 2001.
Two new species of the Vesicomidae
(Bivalvia: Mollusca) from the
Pliocene Siramazu Formation of the
Chikura Group in Boso Peninsula,
Japan. *Sci. Rept. Yokosuka City
Mus.*, (48): 1-9.

Class Bivalvia 二枚貝綱

Nipponothracia ponbetsuensis KANIE et SAKAI, 1997

Nipponothracia 属は、三浦半島の中新世と北海道の白亜紀の地層から発見された新属である。*N. ponbetsuensis* は、白亜紀の化学合成軟体動物群集の主要種と考えられる。現生のスエモノガイ類に比べ、殻は大きく、ふくらみでいる。現生種は未発見。

産地・地層 北海道三笠市奔別 (ぽんべつ) 川 中部蝦夷層群下部

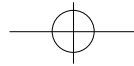
産出年代 白亜紀前期 アルビアン後期 (104 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本) : YCM-GP1012; paratypes (副模式標本) : YCM-GP1014, 1013, 1018, 1019, 1020, 1022, 1045.



文 献

KANIE Y. and SAKAI T. 1997.
Chemosynthetic Thraciid Bivalve
Nipponothracia, gen. nov. from
Lower Cretaceous and Middle
Miocene Mudstones in Japan. *Venus*,
56(3): 205-220.



Class Bivalvia 二枚貝綱

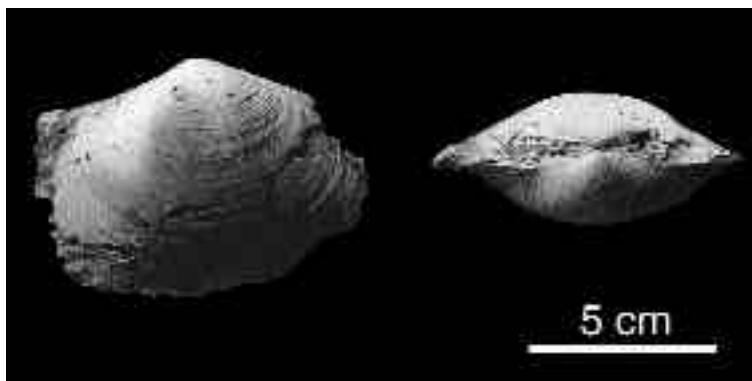
Thracia yezoensis KANIE et KURAMOCHI, 1996

Thracia yezoensis は, *Miltha* sp.などと共産し, 前種 *Nipponothracia ponbetsuensis* 同様に, 白亜紀の化学合成生物群集の1種と考えられる。

産地・地層 北海道三笠市幾春腹金尻沢 中部蝦夷層群 Mh 部層

産出年代 白亜紀後期 セノマニアン後期 (約 96 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP1051.



文 献

KANIE Y. and KURAMOCHI T. 1996. Description on possibly chemosynthetic bivalves from the Cretaceous deposits of Obira-cho, northwestern Hokkaido. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (44): 63-68.

Class Cephalopoda 頭足綱

Pachydiscus (Pachyaiscus) hidakaensis MATSUMOTO et KANIE, 1979

本種は模式標本以外に追加標本はない。白亜紀のアンモナイトを代表する *Pachydiscus* 属末期の種である。

産地・地層 北海道浦河郡浦河町白泉. U133 函渚層群 H1 層

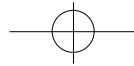
産出年代 白亜紀後期 マーストリヒティアン前期 (74-65 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP.Ur133001.



文 献

MATSUMOTO T., KANIE Y. and YOSHIDA, S. 1979. Notes on *Pachydiscus* from Hokkaido. *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ.*, (D), 24(2): 47-73.



Class Cephalopoda 頭足綱

Anagaudryceras tetragonum MATSUMOTO et KANIE, 1985

Anagaudryceras は生存期間の長い白亜紀アンモナイトを代表するゴードリセラス類であり, *A. tetragonum* は, 末期に出現した種である。本種は模式標本以外に, 追加標本はない。

産地・地層 北海道浦河郡東町 U76A 函渚層群 H1 部層

産出年代 白亜紀後期 マーストリヒティアン前期 (74-65 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM.GP.Ur076001.



文 献

MATSUMOTO T. TAKEUCHI T., and KANIE, Y. 1985. Some gaudryceratid ammonites from the Campanian and Maastrichtian of Hokkaido. Part II. *Sci. Rept. Yokosuka City Mus.*, (33): 19-36.

Class Cephalopoda 頭足綱

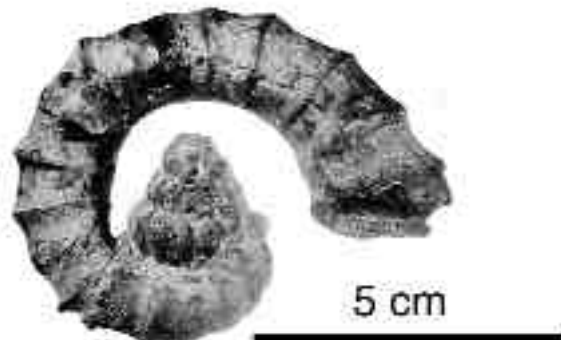
Ainoceras kamuy MATSUMOTO et KANIE, 1967

Ainoceras は, 奇妙な形態をしているアンモナイトである。すなわち, 巻きの始めの部分は巻貝のかたち, 巻きの終わりの部分は通常の平巻きとなっている。研究の結果, 幼生時は巻貝のような底生生活を, 途中から遊泳ができるように生活形を変えたと推定した。

産地・地層 北海道中川郡中川村豊里ニオノ沢

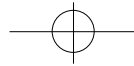
産出年代 白亜紀後期 カンパニアン中期 (89-80 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): GK. H5575; paratypes (副模式標本): GK. H5577, 5579, 5580, GY. 1-1, 1-2, 2-1(=NSM.PM).



文 献

MATSUMOTO T. and KANIE Y. 1967. *Ainoceras*, A new Heteromorph Ammonid Genus from the upper Cretaceous of Hokkaido, (Studies of the Cretaceous Ammonites from Hokkaido and Saghalien-XVI). *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. D*, 18(2): 349-359.



Class Cephalopoda 頭足綱

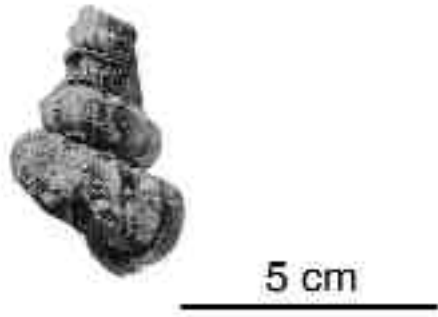
Ainoceras paucicostatum MATSUMOTO et KANIE, 1967

Ainoceras のかたちをしたアンモナイトの報告はどこからもなかった。1962年に発見、巻きの異常に驚き、アンモナイトの権威者である松本教授に報告して、*Ainoceras* 属が創設された。

産地・地層 北海道浦河町西幌別 U118

産出年代 白亜紀後期 カンパニアン中期 (89-80 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本) : GY16; paratypes (副模式標本) : GK. H5582, 5578, 5121, GT. I-3577, 3576, IGPS. 5387.



文 献

MATSUMOTO T. and KANIE Y.
1967. *Ainoceras*, A new heteromorph ammonid genus from the upper Cretaceous of Hokkaido, (Studies of the Cretaceous ammonites from Hokkaido and Saghalien-XVI). *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. D*, 18(2): 349-359.

Class Cephalopoda 頭足綱

Hercoglossa majungaensis OBATA et KANIE, 1978

暁新世の地層からはアンモナイトは見つからない。オウムガイ類は、古生代と中生代の浅海で繁栄したが、今では *Nautilus* 属の数種だけが熱帯と亜熱帯の水深 100 m 以深の海底付近で生きているにすぎない。*Hercoglossa* は絶滅種。

産地・地層 マダカスカル国マハジャンガ (マジュンガ) 市東方 C10 層下部

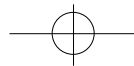
産出年代 古第三紀 暁新世ダニアン (64 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本) : NSM. PM9360.



文 献

OBATA I. and KANIE Y. 1978. A Danian Nautiloid from Majunga, Northwest Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus., Ser. C (Geol.)*, 4(2): 73-83.



Class Cephalopoda 頭足綱

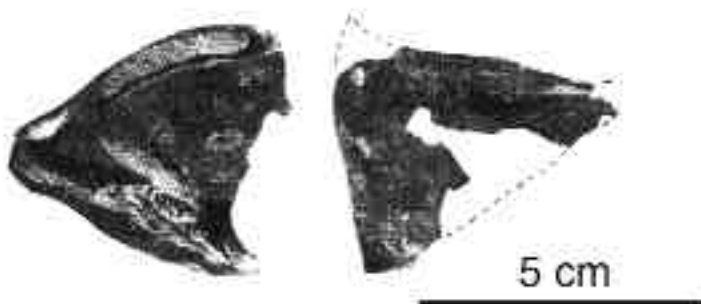
Provampyoteuthis gigas KANIE, 1998

現生コウモリダコに比べ格段に大型の口器をもつ。本種はエラスモサウルスの胃内部より産出していることから、これら海生は虫類の主食として捕食されていたことが明らかにされた(KANIE *et al*, 1998)。

産地・地層 北海道留萌郡小平町小平薬川上流, 滝下十八線 上部蝦夷層群

産出年代 白亜紀後期 サントニアン前期 (87-85 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP693; paratype: YCM-GP692, 1170.; MT1, 13.; Ra1, 2.; GK.H8094.



文 献

KANIE Y. 1998. New Vampyromotoh (Coleoidea: Cephalopoda) jaw apparatuses from the Late Cretaceous of Japan. *Bull. Gunma Mus. Nat. Hist.*, 2:23-34.

KANIE Y., HASEGAWA, Y., OKAZAKI Y., and TATEMATSU, M. 1998. Vampyromorph: post and present-Cretaceous Vampyromorph (Coleoidea: Cephalopoda) as the diet of plesiosaur. *Bull. Gunma Mus. Nat. Hist.*, 2:11-22.

Class Crustacea 甲殻綱

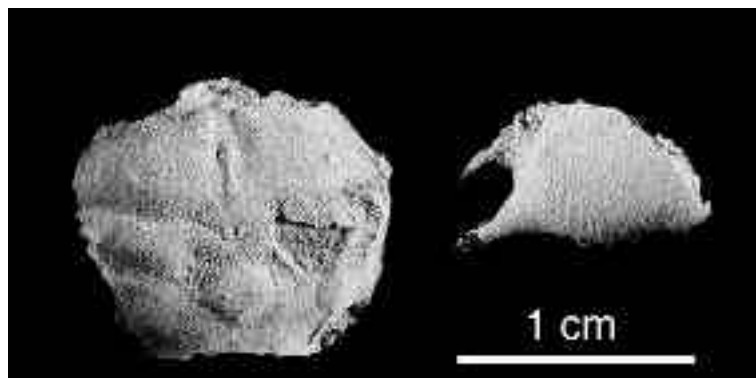
Diaulax yokoi COLLINS, KANIE et KARASAWA, 1993

カニ類の化石は、貝類などに比べ殻が脆いため化石として残りにくいため、白亜紀をはじめ日本国内における十脚甲殻類の化石の記録はわずかである。これまでに北海道の白亜紀からは5属6種のカニ類化石が報告されている (COLLINS, KANIE and KARASAWA, 1993)。

産地・地層 北海道中川郡中川町化石沢 上部蝦夷層群濁沢層

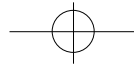
産出年代 白亜紀後期 サントニアン (87-85 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): MFM247,001; paratype (副模式標本): MCM A373



文 献

COLLINS J. S. H., KANIE Y. and KARASAWA, H. 1993. Late Cretaceous Crabs from Japan. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S.*, (172): 292-310.



Class Crustacea 甲殻綱

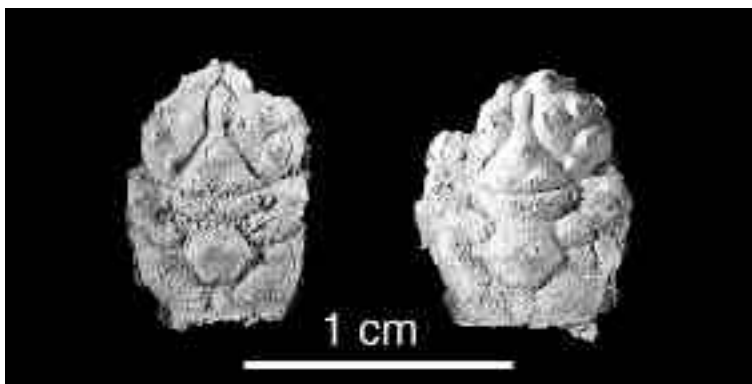
Metahomola brevis COLLINS, KANIE et KARASAWA, 1993

原始的な特徴をもつホモラ科に属するカニ類は、第 5 脚に鉤状の指節が曲がり鉗を形成する。
現生種は、日本周辺海域のやや深い海に棲息する。

産地・地層 北海道留萌郡達布町小平藁（おびらしべ）川 中部蝦夷層群

産出年代 白亜紀後期 チューロニアン（90-89 Ma）

標本番号 Holotype（完模式標本）：YCM-GP854; paratype（副模式標本）：MFM247, 002



文 献

COLLINS J. S. H., KANIE Y. and
KARASAWA H. 1993. Late
Cretaceous Crabs from Japan. *Trans.
Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S.*,
(172): 292-310.

Class Crustacea 甲殻綱

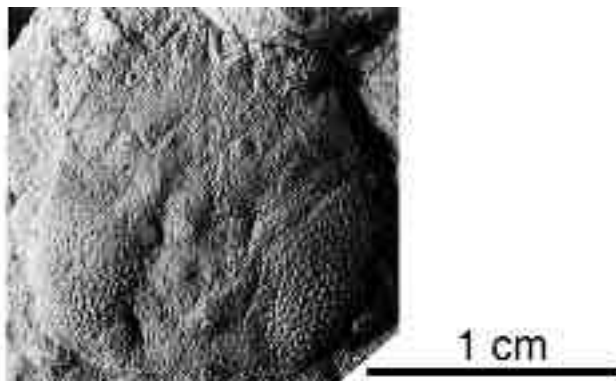
Eodorippe binodosa COLLINS, KANIE et KARASAWA, 1993

マメヘイケガニ科の絶滅属である *Eodorippe* 属は、ニュージーランドから記載された *E. spedeni* を模式種として創設された属である。本属の種が北海道の白亜紀の地層から産出することは古生物の分布を知る上で興味深い。

産地・地層 北海道三笠市幾春腹桂川 中部蝦夷層群

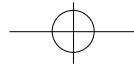
産出年代 白亜紀後期 セノマニアン（97-90 Ma）

標本番号 Holotype（完模式標本）：MFM247, 003.



文 献

COLLINS J. S. H., KANIE Y. and
KARASAWA, H. 1993. Late
Cretaceous Crabs from Japan. *Trans.
Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S.*,
(172):292-310.



Class Echinoids ウニ綱

Hemiaster (Mecaster) majungensis TANAKA, KANIE et OBATA, 1979

マダガスカル中西部では、世界的に珍しい中生代と新生代の境界直上にも海成層が露出している。風化したチョーク層からおびただしいウニ類の化石が産出する。このウニは不正形の現生属コダヌキブンブク属に属する。

産地・地層 マダガスカル国マハジャンガ（マジュンガ）市南東, Ambohhizavavy C10 層

産出年代 古第三紀暁新世ダニアン（65-60 Ma）

標本番号 Holotype（完模式標本）：NSM.PA 1194; paratype（副模式標本）：NSM.PA 1195.



文 献

TANAKA K., KANIE Y. and OBATA I.
1979. Maastrichian and Danian
Echinoids from northwestern
Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus.,
Ser. C (Geol.)*, 5(2): 25-53.

Class Echinoids ウニ綱

Linthia (Linthia) madagascariensis TANAKA, KANIE et OBATA, 1979

Linthia (Linthia) madagascariensis は、暁新世の地層中でも比較的上部から二枚貝のウミタケガイモドキ類と共産した。マダガスカル北部の地層の時代境界付近ではウニ類の化石が大量に産出する。本科のウニ類は砂泥底に埋没して生息する。

産地・地層 マダガスカル国マハジャンガ（マジュンガ）市南東, Ambohhizavavy C10 層

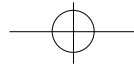
産出年代 古第三紀暁新世（65-60 Ma）

標本番号 Holotype（完模式標本）：NSM.PA 1196; paratype（副模式標本）：NSM.PA 1197, 1198.



文 献

TANAKA K., KANIE Y. and OBATA I.
1979. Maastrichian and Danian
Echinoids from northwestern
Madagascar. *Bull. Natn. Sci. Mus.,
Ser. C (Geol.)*, 5(2): 25-53.



Class Bivalvia 二枚貝綱

Venus (Chione) miurensis SHIKAMA, 1973 ミウラスダレハマグリ

SHIKAMA (1973)は、三浦層群の基底部付近から産出する軟体動物化石に 68 種を報告し、その内 5 種を新種とした。軟体動物化石に「三浦」の名がつけられているのはミウラニシキガイ *Chlamys miurensis* (YOKOYAMA)と本種の 2 種のみである。

産地・地層 神奈川県横須賀市衣笠栄町松栄団地 三浦層群逗子層

産出年代 新第三紀 中新世後期 (8-6 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM.GP525-17.



文 献

SHIKAMA T. 1973. Molluscan assemblages of the basal part of the Zushi Formation in Miura Peninsula. *Tohoku Univ., Sci. Rept., (Geol.), Spec. Vol. 6*: 179-204

Class Bivalvia 二枚貝綱

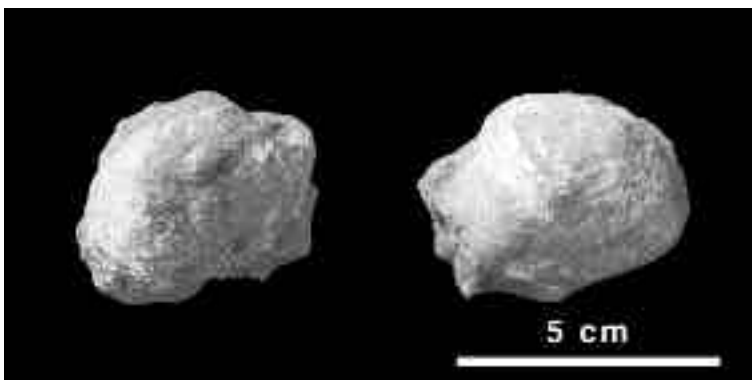
Pitar kaniei SHIKAMA, 1973 カニエハマグリ

三浦層群の基底部付近から産出する軟体動物化石は、大陸棚斜面に棲息していた軟体動物群集と、浅海帯から流されたことにより含まれる混合群集と考えられている。

産地・地層 神奈川県横須賀市衣笠栄町松栄団地 三浦層群逗子層

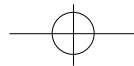
産出年代 新第三紀 中新世後期 (8-6 Ma)

標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GP525-18



文 献

SHIKAMA T. 1973. Molluscan assemblages of the basal part of the Zushi Formation in Miura Peninsula. *Tohoku Univ., Sci. Rept., (Geol.), Spec. Vol. 6*: 179-204.



付編：横須賀市自然・人文博物館に収蔵されている模式標本 Type specimens preserved in the Yokosuka City Museum

国際命名規約について

「国際命名規約」は、2000年1月1日に発効された「国際命名規約」第4版より英・仏語版に加え「効力と意味と権威において同等」の日本語を含む正文が公認された。命名規約では動物のあらゆる種名はLINNAEUS (1758) の著書「自然の体系」第10版を規準とする二命式命名法を用いる。規約は前文およびI～XVIIIの条文と付録で構成されている。条文は、動物の命名法、動物名の語数、出版物の規準、適格生の規準、出版の日付、名称の有効性、名称の形成と修正、科グループのタクサの名称、創設権、異物同名、模式の概念、科グループの模式、属グループの模式、種グループの模式、動物命名法国際審議会、本規約の管理通則からなる。

模式標本 (type specimen) について

完模式標本 (holotype) : ある特定種の基本となる単一標本

副模式標本 (paratype) : ある種の記載に用いられた完模式標本以外の標本

後模式標本 (lectotype) : ある種の記載時に完模式標本を指定しなかった場合、後に総模式標本内から指定された単一標本

総模式標本 (syntypes) : ある種の記載にあたって特に完模式標本を指定しなかった場合、その記載に用いられたすべての標本。

Class Bivalvia 二枚貝綱

Nipponothracia gigantea (SHIKAMA), KANIE et SAKAI, 1997

ハヤマスエモノガイ

SHIKAMA (1968) が *Thracidora gigantea* として記載した大型の二枚貝である。KANIE and SAKAI (1997) は本種を模式標本としてニッポンスエモノガイ *Nipponothracia* 属を創設した。現生種は未発見である。

産地・地層 神奈川県横須賀市池上新沢山トンネル東斜面 葉山層 (群)

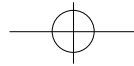
産出年代 新第三紀 中新世中期 (15 Ma)

標本番号 Lectotype (後模式標本) : YCM-GP.Ig01A.



文 献

- KANIE Y. and SAKAI T. 1997. Chemosynthetic Thraciid Bivalve *Nipponothracia*, gen. nov. from Lower Cretaceous and Middle Miocene mudstones in Japan. *Venus*, 56(3): 205-220.
- SHIKAMA T. 1968. On a giant *Thracidora* from Hayama Group, Miura Peninsula. *Sci. Rept. Yokohama Natn. Univ.*, II, (14): 13-16.



Class Echinoids ウニ綱

Pseudanachys (?) tumida TANAKA, 1984

白亜紀に起源をもつホラスター科の不正形ウニに属する。*Pseudanachys* 属は、白亜紀アルビアン～セノマニアンに報告されていた。

産地・地層 北海道浦河郡浦河東町. U611 上部蝦夷層群 U2b 部層

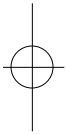
産出年代 白亜紀後期 カンパニアン中期 (83-74 Ma)

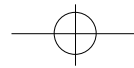
標本番号 Holotype (完模式標本): YCM-GPUr0611-1; paratype (副模式標本): YCM-GPUr0611-2.



文 献

TANAKA K. 1984, Some Cretaceous echinoids from Japan. *Bull. Geol. Surv. Japan*, 35(5): 189-202.

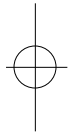


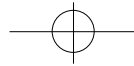


索引

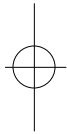
愛知県 275
 秋田県 056
 亜深海 187,374
 圧縮空気 033
 奄美群島 371
 硫黄 329
 生きている化石 147,149,150,290,326,335,33
 6,343,344,345,373,389,400,
 405,406,
 池了 221
 池了層 413
 異常巻 011,102
 伊豆小笠原弧 384,386,401
 伊豆諸島 015,173,174,357,376,
 遺跡 191b,191c,255,881
 色模様 106
 浦河 005,011,042,069,076,078,08
 9,091,101,110,111,115,126,
 130,159,162,166,254,321,
 蛸 061
 液状化 274
 枝幸 163
 蝦夷地向斜 166
 蝦夷岩層群 003,004,005,126,166,168,16
 9,179,190,196,222,272
 応用地質 201
 人磯丘陵 381
 人沖層 031,055,161,289
 大山 杜 961
 男鹿半島 056
 沖ノ山堆 223,226,236,314,317
 沖ノ山堆列 223,226,236,239,259,264,27
 9,315,317,325,330,337,349,
 351,352,381,
 小平 003,004,340,341
 加圧実験 083,097
 海食洞 356
 海成段丘 182,210,278
 海生動物 207,208
 解説書 282,324,384,399,971
 貝塚 241
 海洋科学技術センタ 205
 貝類学 961

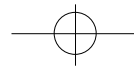
化学合成 273,275,285,287,301,305,30
 6,312,328,331,340,341,346,
 359,277,278,294,395
 隕層 172,176,192
 顕器 069,074,084,085,102,103,10
 7,124,125,128,372
 笠型巻貝 046,058,104,105,118,141
 火山 199
 火山岩 015
 火山豆石 199
 果実 323
 上総層群 002,035,259,315
 化石 044,045,289,294,311,361,36
 2,
 化石採集 271
 化石産地 072
 化石床 018
 化石層 070,075,262,266,266b
 化石層序 005,126,295
 学校 081,271
 活断層 010,183,237,245,257,261,28
 6,348,351,355,363,375,384,
 385,386,387,388,392,393,39
 7,399,401,403,404,407,962,
 971
 神奈川県 002,006,007,008,009,010,01
 2,013,014,016,017,018,019,
 021,022,023,024,028,031,03
 4,035,040,041,048,053,054,
 055,057,066,067,099,109,11
 7,120,121,123,132,133,134,
 139,140,142,145,153,154,15
 5,156,158,160,161,164,165,
 172,176,180,181,182,183,18
 4,185,186,187,188
 191a,191b,191c,193,194,19
 5,197,198,199,200,202,203,
 204,209,210,211,212,213,21
 4,215,216,217,221,224,231,
 233,237,240,241,143,245,24
 6,247,248,255,257,262,263,
 265,266,266b,267,274,280,2
 82,283,286,289,293,295,296
 ,297,298,299,302,303,308,3
 09,310,322,324,328
 329,333,334,347,350,354,35
 8,365,366,370,382,384,385,
 386,387,388,391,396,397,39
 8,399,401,403,404,407,412,
 671,881,941,962,971
 カ一類 272
 ト部揚子岩層群 250
 鎌倉 002,037,105,147,149,150,15
 2,170,173,174,177,178,270,
 276,281,288,292,326,335,33
 6,342,344,345,373,406
 貨物駅 213



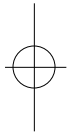


殻形態	225	古生代	150
殻構造	088	古生物	032,039,047,049,050,051,05 2,060,087,160,311
殻成長	086	古生物学	038,044,045,090,100,113,36 1,362
殻破壊	114,135	古第三紀	082,139,360,398
完新世	156,160,182,186,191b,191c, 209,210,237,240,255,278,35 5,356,411,881	古地理	017,051,087
完新統	211	古流向	035
関東地層	010	相模海丘	239,259,315
関東ローム層	138	相模貝類同好会	961
喜界島	371	相模トコフ	259,264,279,314,317,325,33 0,337,359,381
規格化	026	相模湾	147,148,149,170,177,178,18 7,201,205,223,226,236,239, 247,249,251,252,253,258,25 9,264,268,269,279,285,287, 304,305,312,314,317,319,32 5,327,330,332,335,336,337, 345,349,351,352,359,363a,3 65,366,370,381,389,391,400 ,405,406,961
北アメリカ古牛物学会 誌	068,073	酸素同位体比	253,268,332,339
北太平洋	046,058	産地	029
北武断層	183,203,224,237,248,257,27 8,280,286,350,387,388,404, 412	山中地溝帯	152
衣笠断層	183,404	飼育	075,086,093,145,353
岐阜県	001	地震	198,204,245,261,274,350,36 3,375,385,388,392,393,403 053,139,140,360
凝灰岩	172,176,192,230	始新世	010
恐竜	039,047,049,052,060,189,41 4,415	地震断層	010
恐竜博物館	143	地震予知	067,099,109,121,133,134,14 2,153,165,180,188,202,217, 231,246,265,283
巨大化	207,208	静岡県	285,387
魚類	064	沈み込み帯	269,300,301,318,325,330,33 2,337,339,375
鯨類	277	歯舌	326,338,342
長頸竜	367,368,369,372	自然環境図	232
久里浜	191b,191c,881	自然史	100
群集	304,318,327	四川省	143
群馬県	152,383	自然博物館	143
珪灰	240,278	地盤液状化	198
形態変異	148,270,316,360	占冠	151
研究	343	斜層理	035
研究会	090	蛇紋岩	386
現生	061,062,063,080,094,108,11 2,122,131,136,137,147,149, 157,167,174	重慶市	143
玄武岩	184	収納器具	026
鉱床	379,402	十脚目	272
更新世	371	城ヶ島	182,210
神津島	015	湘南電鉄	214
鉱物	379,402,414,415	上部蝦夷層群	125
呼吸	114,135,171		
国際地質人会	363		
国立科学博物館	113		

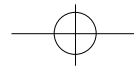




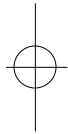
縄文土器	355	第四紀	012,017,018,019,020,021,024,025,028,031,034,035,041,054,057,117,123,145,156,158,161,164,267,274,314,396
進化	046,058,065,070,105,207,208,270,276,284,288,344	台湾	392,393
深海	941,962	武山断層	183,404
震災	392,393,245	炭酸塩	300,301,304,318,329,332,339
新種	036	断層	296,259
新生代	002,150,276,284,288,374,380,671	断層破砕帯	302,303
新第三紀	006,007,008,009,013,014,016,017,022,037,048,056,066,132,140,181,185,191a,192,193,194,195,197,200,223,224,225,226,229,230,234,235,236,249,251,258,263,275,279,282,295,296,297,298,299,306,307,309,310,313,322,324,327,331,343,344,347,352,358,371,391,398,408	炭素同位体比	253,268,332,339
新第三紀	410	集集	392,393
水圧	083,097,114,135,171	地学教育	271
水温	353	地殻走	067,099,109,121,133,134,142,153,165,180,188,202,217,231,246,265,283
水族館	075、093	千倉層群	346,364,408,410
逗子市	212,221,262,266,266b,267,293,382	地形	040,203,232
逗子層	333,334,413	地史	009,068,073,201,671
駿河トッフ	269	地質	002,023,040,154,155,162,191a,194,195,197,201,232,239,254,380,414,415,671
駿河湾	252	地質学	100,120,218,222,282,351,354,358
地形	033,044,045	地質構造	248,351,352,380,398
生態環境	116	地質図	006,007,162,232,254,321
生態深度	083,097,171	地質年代	264
生態	061,062,063,080,108,112,121,127,131,136,137,170,171,177,178,252,319,335,353,390	地質標本	029
脊椎動物	390	地質ボーリング	334
石灰質	013	地すべり	263,267,333,412
潜水調査船	170,177,178	地層剥ぎ取り標本	138
仙台市	294,313	干草炭	037,066,229,234,235,277,346,364,377,408,410,411
千歳層	229,231,235	中国	143,189,363
走査型電子顕微鏡	064,088,095	中新世	185,193,200,256,307,313,320,328,383
層序	141	中部振興層群	260,340
層序	019,042,206,219,228,281	中生代	150
未知層群	126,168,190,196,222,250	沖積層	054,156,186,245
大学	081	超音波スケーラー	044
堆積学	041,043,057	追悼文	951,961
堆積構造	013	泥岩	333
堆積物	020,025	底質	205
対比	076,078,110,111	底質調査	187
太平洋	141,291	底牛群集	056
		底牛牛物	187,205,304
		製造	211,212,213,214,215,216
		手取層群	001

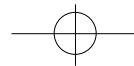


展示	020,025,028,123,138,324,36 1,362,379,384,386,401,941	博物館	023,026,029,032,038,040,08 1,100,138,189,271,282,324, 343,354,374,386,941,951
大神島臨海自然教育園	040	博物館学	025,026,029,032,038,138
天然記念物	053,204,209	初島	285,287
東急電鉄	215	初声層	413
東京都	015	羽根山 弥太	951
東京湾	148,201,348,349,375,380	栗山層 (群)	008,022,048,066,132,181,18 5,193,200,243,256,293,295, 296,297,298,299,302,303,30 5,306,308,309,310,312,320, 328,329,365,366,370,382
東京湾口断層	348	微化石	042,076,078,110,111,169
洞穴遺跡	356	日高栗層群	190,196
鹿山	363	標本番号	029
蹟足類	088,096,125,127,128,157,16 7,367,368,369,372,389,400, 405,	平作川	054
動物群集	306,328,339	福岡県	360
道路	216	不整合	293
橋本県	307	巻	175
土地利用	203	噴火	199
島島	357,376	文化財	154,155
中川	144,409	文献集	094,120
那須町	307	噴砂	198,274
軟体魚類	277	分布	319
軟体動物	006,007,042,056,059,119,15 7,240,273,289,291,321,323, 326,331,341,343,357,374,37 6,396	分類	288,292
西舎	162	北京	363
日本	074,075	崩壊性堆積物	263,267
日本海溝	390	縫合線	409
日本地質学会	401	放射能	115,179,190,196,205
二枚貝	072,163,260,247,377,378,38 3,394,395,408,410	放射年代	184
沼層	411	宝石	379,402
沼面	182,210	房総半島	192,206,219,220a,220b,227, 228,229,230,235,238,249,25 1,258,277,291,306,319,346, 248,364,375,377,380,408,41 0
年代学	220,220b,227,228,238	北米内陸地区	141
年代測定	139	保田層群	066,377
野比	203	北海道	003,004,005,011,036,042,04 6,058,069,076,077,078,089, 091,101,102,106,110,111,11 5,118,125,126,128,129,130, 144,146,151,159,162,163,16 6,168,169,175,179,190,196, 222,244,250,254,260,272,27 3,281,321,322,323,340,341, 347,378,389,394,395,400,40 5,409
白亜紀	003,004,005,011,027,030,03 6,039,042,046,047,049,050, 051,052,058,059,060,065,06 8,069,070,073,074,076,077, 078,082,084,085,087,089,09 1,095,101,102,103,104,105, 106,107,110,111,113,115,11 6,118,119,124,125,126,128, 129,130,141,144,146,151,15 2,157,159,162,163,166	哺乳類	024,028,031,123,125,189
白亜紀	168,169,175,179,189,190,19 6,207,208,222,244,250,254, 260,272,273,281,311,321,32 2,323,331,340,341,347,367, 368,369,372,374,378,389,39 4,395,400,405,409,414,415	種別	244,281

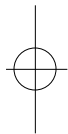


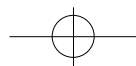
埋積谷	012,054	横須賀市	006,007,008,010,012,013,014,016,018,019,020,021,023,024,025,026,028,029,031,034,040,041,053,054,057,117,123,139,140,145,054,155,156,158,160,161,164,183,184,185,186,191b,191c,193,194,195,197,200,203,211,213,215,224,237,241,243,245,248,255,257,263,274,280
枕状溶岩	053,139,140,154,155,184,261	横須賀製鉄所	211
馬堀自然教育園	067,099,109,121,133,134,142,153,165,180,188,202,217,231,246,265,283,334	横須賀線	212,213,214,215,216,
一浦市	034,117,191a,194,195,197,198,204,209,240,242,379,407	横須賀(栗)層	041,057,145,161,289
二浦層群	002,009,014,016,022,037,048,132,172,176,181,191a,192,194,195,197,199,206,218,219,220a,220b,227,228,230,233,238,242,262,263,266,266b,267,277,293,315,333,334,358,365,366,370,382,413	横須賀市	035
一浦半島	009,012,013,017,022,023,048,117,132,172,176,181,182,192,199,201,206,209,210,214,216,218,219,220a,220b,224,227,228,230,232,233,237,238,241,242,243,247,248,249,251,255,256,257,258,261,262,278,280,282,286,295,296,297,298,299,306,308,309,310,320,334,328,333	隆起海岸	209
	343,348,349,350,351,355,356,358,365,366,370,374,375,380,384,385,386,387,391,396,397,398,399,401,403,407,413,671,911,962,971	流紋岩	015
一浦半島活断層調査会	962	粒度分析	043
一浦半島北部断層帯	388	冷湧水	266b,273,300,301,302,303,304,305,312,318,329,332,339
一笠市	260	和歌山県	027,030
二岐層	233,242,399,413	14C年代	160,164,186,255,278,355,356,411,412
御手洗	001	<i>Asagaukryoceras tetragonum</i>	159
三石	146,254	<i>Ansaonyon</i> 属	104,105
南関東	067,099,109,121,133,134,142,148,153,165,180,188,202,217,218,219,220a,220b,225,227,231,238,246,265,283,	Bivalvia	072
南二浦断層	397,399,407	<i>Calymene</i> 属	252
鎌倉構造帯	348	<i>Cervus praetiquiquicus</i>	055
宮城県	294,313	<i>Cyrtoluceras</i>	146
宮田所	018,019,020,021,034,117,396	DNA	336,344
目録	120	<i>Fritornotrochus</i> 属	037,229,234,235
鹿嶋層	294	<i>Eupachydiscus haradai</i>	409
磯子の隆起海岸	204	<i>Gaudryceras</i>	103
師崎層群	275	<i>Gigantocapulus</i> 属	104,105,118
湯浅	027,030,	<i>Holcion</i> 属	104
浜泳	116	<i>Hercoglossa clanka</i>	071
有孔虫	240	<i>Inoceramus</i> 属	065,070
		K-Ar年代	358
		K-T境界	071,072,082
		<i>Linoparus japonicus</i>	095
		<i>Metaplacentoceras subtilstriatum</i>	129
		<i>Mikadotrochus beymichi</i>	149,406
		<i>Mikadotrochus</i> 属	148,276,284



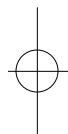


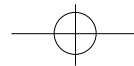
<i>Nautilus macromphalus</i>	093	オキナエビスガイ類	326
<i>Nautilus pompilius</i>	080,108,112,114,122,127,131,135,136,137	オキナエビス属	268, 336
<i>Nautilus</i> 属	061,062,063,083,084,085,086,094,097,116,124	オキナエビス類	037
<i>Nipponothrac</i> 属	347	オトヒメハマグリ科	221,225,247,251,252,269,280,308,259,363a,364,394,408,410
<i>Parahoplites</i> 属	144	オトヒメハマグリ属	378,394,395
<i>Perotrochus</i> 属	234,276,284,313,360	オフィオンイト	168
<i>Plautotomaria</i> 属	036,101,106,306	カンツン岩	257
<i>Promunieroceras</i>	089	キヌタレガイ科	256,298,309,320,383
<i>Scalarites</i>	102	クジツ	275
Si M	064,088,095,338	クラゲ	152
<i>Tetragonites</i> 属	077,085,103,124,175	クリーニング	033
<i>Texariles</i>	089,130	クロノロジイ	218
Western Interior	068,073	コウモリダコ属	367,372,369
アケビガイ属	221,225,363a	コウモリダコ目	157,367,368,369,389,400,405
アダンソンオキナエビス属	292,338,342	コシダカオキナエビス	357
アナブチクス	069	コンクリーション	008,043,066,233,243,285,287,301,318,341,363a
アプチアン	144	ゴンドワナ	039,047,049,050,051,052,080,087,362
アメリカ	032,038,068,073	サハリン	074
アンテナイト	001,003,004,005,011,027,030,039,047,050,059,061,062,063,069,077,084,085,086,086,089,090,091,092,096,098,102,103,107,116,119,124,128,129,130,144,151,159,167,169,175,179,207,208,244,311,361,362,409,414,415,951,	サンゴ礁	185,193,200
イオウ代劇	300,305,312	リンドブラスト機	045
イギリス	092	シーラカンス	064
イノシシ属	161	ジュラ紀	001,107,189
イノセラムス属	027,030,065,070,104,118,119,151,163,169,244	シロウリガイ属	221,225,233,239,242,243,247,249,256,258,261,262,266,266b,269,275,287,290,297,304,308,318,327,363a,364,366,377
ウニ	082	シンボジウム	092,167,218,220a,238
ウミガメ類	277	スエヒロキヌタレガイ属	320,363a,383,395
ヴァースクライノ	033	スエモノガイ科	260,299,310,322,331,340
オウムガイ	080,097,108,112,114,122,127,131,135,136,137,171	スエモノガイ属	340
オウムガイ属	061,062,063,077,084,083,085,086,116,124,290	セノマニアン	059,244,281,
オウムガイ類	071,075,090,092,096,103,146,167,290	タカラガイ	411
オオツノシカ	031,158,167	ダニアン	071,072
オオベソオウムガイ	093	チューブワーム	300,302,303,305,312,329
オキナエビス	147,148,149,150,170,177,178,253,270,291,316,335,336,345,353,357, 373,406	チューロアン	244,281
オキナエビスガイ科	036,101,106,173,174,229,234,235,253,268,270,276,284,284,288,292,294,307,313,316,319,335,338,342,344,345,353,360,371,373,376	ツリガネボヤ属	390
		テラマノオキナエビス	316
		ドイツ	098
		トグロコウイカ	088
		ドレッジ	187,205,291





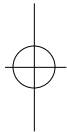
トレンチ調査	204,280,350,387
ナウマンゾウ	021,024,028,123,158,211
ナノ化石	206,219,223,226,228,230,23 6,259,264,279,314,315,317, 325,337,346,349,352,381,38 2
ニタンチ層	115
ニホンムカシジカ	055
ノジュル	043
ハコエビ	095
バウンギニアン	115
ハンブルグ大学	098
ヒメオキノエビス属	292,338,342
フィールド学習	271
フィリピン	080,081,108,112,122,127,13 1,136,137,
フィリピン海プレート	337
ブリ	014,016
プレートテクトニクス	261,330,365,366,370,391
プレート境界	327
ノロバンピロテウチス 属	367,368,372
ベニオキノエビス	371,376
放射年代	140
ボーリングコア	382
ホテル	145
ホヤ目	390
マーストリヒティアン	091,129
マダガスカル	039,047,049,050,051,052,05 9,060,065,070,071,072,082, 087,113,119,311,361,362,37 9,402,414,415
ミネラル	361
メタン	249,273
メナベ	119,311
千クレン類	323
ゴーロッパ	100
リトセラス科	107
リュウグウオキナエド ス	173,174
レーマン	090,098
ロサンゼルス	032,038

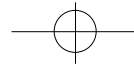




INDEX

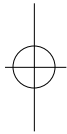
¹⁴ C age	160,164,186,255,278,3 55,256,411,412	<i>Calypptogena</i>	221,225,233,239,242,2 43,247,249,256,258,26 1,262,266a,266b,269,2 75,287,290,297,304,30 8,309,318,327,346,363 a,364,365,366,377
accretionary lapilli	199	<i>Calypptogena</i> <i>sonnae</i>	252
<i>Acharax</i>	320,363a,383,395	carbon isotope	253,268,332,339
active fault	010,183,237,245,257,2 61,286,348,350,351,35 5,363,375,384,385,386, 387,388,392,393,397,3 99,401,403,404,407,96 2,971	carbonate	285,300,301,302,303,3 04,318,329,332,339
Aichi	275	cartilage pisces	277
air scribe	033	catalogue	120
<i>Akchiconcha</i>	221,225,363a,365	cave site	356
Akita	056	Cenomanian	059,244,281
Alluvium	054,156,186,245	Cenozoic	002,150,288,344,374,3 80,671
Amami Islands	371	Cephalopoda	088,096,125,127,128,1 57,167,367,368,369,37 2,389,400,405
ammonite	001,003,004,005,011,0 27,030,039,047,050,05 9,061,062,063,069,074, 075,077,084,085,086,0 89,090,091,092,096,09 8,102,103,107,116,119, 124,128,129,130,144,1 51,159,167,169,175,17 9,207,208,244,311,361, 362,409,414,415,951	<i>Cervus</i> <i>brachyotonicus</i>	055
<i>Anagaudryceras</i>	159	celacean	277
<i>tetraporum</i>		chemosynthesis	273,275,285,287,301,3 03,305,306,312,328,33 1,340,346,359,364,377, 378,394,395
anaptychus	069	Chiba	037,066,229,234,235,2 77,346,364,377,408,41 0,411
<i>Anisomyon</i>	104,105	Chichi	392,393
Antler	055	Chikura Group	346,364,408,410
applied geology	201	China	143,189,363
Aplian	144	Chongching	143
aptychus	175	Chordata	390
aquarium	075,093	chronology	218,219,220,220b,227, 228,238
Ascidacea	390	classification	316,270,288,292
astragalus	031	Coelacanth	064
autikoid	124	cold seep water	266b,273,300,301,302, 303,304,305,312,318,3 29,332,339
basalt	184	collapse deposit	263,267,333
bathyal sea	374	colony	233
Beijing	363	color pattern	106
benthos	056,187,205,304,335,3 36	community	304,318,327
bibliography	094,120	compressed air	033
biostratigraphy	126,295	conchology	961
Bivalvia	255,347,377,378,383,3 95,394,408	concretion	008,043,066,233,243,2 85,287,301,303,318,32 7,341,363a,365
borehole	334,382	coral reef	185
Boso Peninsula	192,206,219,220,220b, 227,228,229,230,235,2 38,249,251,258,277,29 1,306,346,348,364,375, 377,380,408,410	correlation	076,078,110,111
bottom	187	cowry shell	411
bottom material	205	crab	272
buried valley	012,054	cross bed	035
calcareous	043		
calcareous	346,364		
nanofossil			



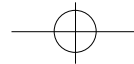


Cretaceous 003,004,005,011,027,0
 30,036,039,042,046,04
 7,049,050,051,052,058,
 059,060,065,068,069,0
 70,073,074,076,077,07
 8,082,084,085,087,089,
 091,095,101,102,103,1
 04,105,106,107,110,11
 1,113,115,116,118,119,
 124,125,126,128,129,1
 30,141,144,146,151,15
 2,157,159,162,163,166
 168,169,175,179,189,1
 90,196,207,208,222,24
 4,250,254,260,272,273,
 281,311,321,322,323,3
 31,340,341,347,367,36
 8,369,372,374,378,289,
 294,295,400,405,409,4
 14,415
 Culeolus 390
 culture and 154,155
 natural treasure
 Cymatocearas 146
 Danian 071,072
 Decapoda 272
 deep sea 941
 deposit 020,025
 depth 083,097
 diatom 240,278
 dinosaur 039,047,049,052,060,1
 89,414,415
 Dinosaur Museum 143
 distribution 319
 DNA 336,344
 dredging 187,205,291
 earthquake 198,204,245,261,274,3
 50,363,375,385,388,39
 2,393,403
 earthquake 245,392,393
 disaster
 earthquake fault 010
 earthquake 067,079,099,109,121
 forecasting
 Echinoid 082
 ecology 319,335
 ejected sand 274,198
 England 092
 Entemnotrochus 037,229,234,235,292,3
 16,342
 Entemnotrochus 173,174
 ramohii
 Eocene 053,139,140,360
 eruption 199
 Esashi 163
 Eupachydiscus 409
 haradai
 Europe 100
 evolution 046,058,065,070,105,2
 07,208,270,276,284,28
 8,326,344

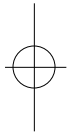
exhibition 020,025,028,123,138,3
 24,354,361,362,379,38
 4,386,401,941
 014,16
 Fagus crenata
 fault 296,359
 fauna 306,328
 field study 271
 firefly 145
 foraminifera 240
 forecasting 133,134,142,153,165,1
 earthquakes 80,188,202,217,231,24
 6,265,283
 Formosa 392,393
 fossil 033,044,045,160,289,3
 11,361,362
 fossil bed 020,025
 fossil enclosure 018
 fossil hunting 271
 fossil layer 262,266a,266b
 fossil locality 072
 freight depot 213
 Fukuoka 360
 Gastropoda 037,147,149,150,152,1
 70,173,174,177,178,27
 0,276,284,288,292,326,
 335,336,342,345,373,4
 06
 Gaudryceras 103
 gemstone 379,402
 geography 087
 geohistory 068,073,201,671
 geological age 139,264
 geological 271
 education
 geological history 009
 geological horizon 141
 geological map 006,007,162,232,254,3
 21
 geological pool 138
 specimen
 Geological Society 401
 of Japan
 geological 029
 specimen
 geology 002,023,040,100,120,1
 54,155,162,191,194,19
 5,197,201,218,222,232,
 239,254,282,311,354,3
 58,380,414,415,671,
 098
 Germany
 giant 207,208
 Gifu 001
 Gondwana 039,047,049,050,051,0
 52,060,087,362
 043
 grain analysis
 guidebook 282,324,34,399,971
 Gunma 152,383
 habitat 353,390
 Hamburg 098
 University
 IANEDA 951



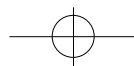
Hasse Formation	413	Kanagawa	002,006,007,008,009,0
Hatsushima Island	285,287		10,012,013,014,016,01
Hayama	008,022,048,066,132,1		7,018,019,021,022,023,
Formation (Group)	81,185,193,200,243,25		025,026,028,031,034,0
	6,293,295,296,297,298,		35,040,041,053,054,05
	299,305,306,308,309,3		5,057,066,067,079,099,
	10,312,320,328,366,37		117,120,121,123,132,1
	0,382		33,134,139,140,142,14
<i>Helcion</i>	104		5,153,154,155,156,158,
<i>Herzoglossa</i>	071		160,161,164,165,172,1
<i>clavica</i>			76,180,181,182,183,18
heteromorph	011,102		4,185,186,187,188,191
Hidaka	190,196		191b,191c,193,194,19
Hirasaku River	054		5,197,198,199,200,202,
Hoketsu	244,281		203,204,209,210,211,2
Hokkaido	003,004,005,011,036,0		12,213,214,215,216,21
	42,046,058,069,076,07		7,221,224,231,233,237,
	7,078,089,091,101,102,		240,243,245,246,247,2
	106,110,111,115,118,1		48,255,257,262,263,26
	25,126,128,129,130,14		5,266a,266b,267,274,2
	4,146,151,159,162,163,		80,282,283,286,289,29
	166,169,175,179,190,1		3,295,296,297,298,299,
	96,222,244,250,254,26		308,309,310,322,324,3
	0,272,273,281,321,322		28,329,333,334,347
	,323,340,341,347,378,3		35,0,354,358,366,370,3
	89,394,395,400,405		82,384,385,386,387,38
Holocene	156,160,182,186,191b,		8,391,396,397,398,399,
	191c,209,210,237,240,		401,403,404,407,412,6
	241,255,278,355,356,4		71,881,941,962,971
	11,881	Kanto Earthquake	010
Hota Group	066,377	Kanto Loam	138
hydrostatic	083,097,114,135	K Ar age	358
pressure		Kazusa Group	002,035,259
Ikego	221	keeping	075,086,093,145,353
Ikego Formation	413	key bed	172,176,192
Inocerami	065,070	Kinugasa Fault	404
<i>Inoceramus</i>	027,030,065,070,104,1	Kitatake Fault	183,203,224,237,248,2
	18,119,151,163,169,24		57,278,280,286,350,38
	4		7,388,404,412
International	363	Kozu Island	015
Geological		K T boundary	071,072,082
Congress (IGC)		Kurihama	191b,191c,881
Izu Islands	015,173,174,357,376	land utilization	203
Izu-Bonin Arc	384,386,401	landslide	263,267,333,412
JAMSTEC	205	LEHMANN	090,098
Japan	074,75	limpet	046,058,104,105,118,1
Japan Trench	390		41
jaw apparatus	069,074,084,102,103,1	Limparus	095
	07,124,125,128,372	liquefaction	198,274
Jogashima	182,210	littoral	187
Jomon pottery	355	living fossil	147,149,150,290,326,3
Jurassic	001,107,189		35,336,343,344,345,37
Kamakura	002		3,389,400,405,406
		Lobster	095
		locality	029
		Los Angeles	032,038
		Lower Yezo	250
		Lytoceraidae	107
		Maastorichthian	091,129
		Mabori Biological	067,079,099,109,121,1
		Garden	33,134,142,153,165,18
			0,188,202,217,231,246,
			265,283,334



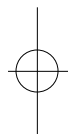
Madagascar	039,047,049,050,051,0 52,059,060,065,070,07 1,072,082,087,113,119, 311,323,361,362,379,4 02,414,415	Miura Peninsula	349,350,351,355,356,3 58,366,370,374,375,38 0,384,385,386,387,391, 396,397,398,399,401,4 03,407,413,671,941,96 2,971
mammal	024,028,031,123	Miyagi	294,313
marine animal	207,208	Miyata Formation	018,019,020,021,024,0 34,117,396
marine terrace	182,210,278	mode of life	061,062,063,080,108,1 12,116,122,127,131,13 6,137,170,171,177,178, 252
marine turtle	277	modern	061,062,063,080,094,1 08,112,122,127,131,13 6,137,157,158,167,329
Medusoid	152	mollusca	006,007,042,056,059,1 19,157,240,273,276,28 4,289,291,321,323,132 6,331,341,343,357,374, 376,396
memorial writing	951961	Monbetsu	323
Menabe	119	Moniwa	294,313
Mesozoic	098,150	Morozaki Group	275
<i>Metaplacenticeras</i>	129	musculology	025,026,029,032,038,1 38
<i>subtilistriatum</i>		museum	023,029,032,038,040,0 81,100,138,189,271,28 2,324,343,354,374,386, 941,951
methane	249,273	Nakagawa	144
microfossil	042,076,078,110,111,1 69	nanofossil	206,223,226,228,230,2 36,259,264,279,314,31 5,317,325,337,349,351, 352,381,382
Middle Yezo Group	260,340	Nasu	307
<i>Mikadotrochus</i>	148,149,150,276,284,2 92,316,335,336,338,34 2	National Science Museum	113
<i>Mikadotrochus</i>	147,150,170,177,178,2 70,291,338,345,353,37 3,406	natural history	100
<i>beyrichii</i>	371,376	Natural History Museum	143
<i>Mikadotrochus</i>	338,342,357	natural monument	053,204,209
<i>hirasei</i>		nature	232
<i>Mikadotrochus</i>		environment man	
<i>salinianus</i>		Nautiloid	061,062,063,071,075,0 83,084,085,103,146,16 7
Mikasa City	260	Nautiloidca	086,090,092,094,096,1 16,290
Minamishitaura Fault	397,399,407	<i>Nautilus</i>	061,062,063,077,083,0 84,085,086,094,097,11 6,124
Mineoka Tectonic Belt	348	<i>Nautilus</i>	093
mineral	361,379,402,414,415	<i>macromphalus</i>	
Miocene	185,193,200,256,294,3 07,313,320,328,383	<i>Nautilus</i>	080,108,114,122,127,1 31,135,136,137,171
Misaki Formation	233,242,399,413	nectonic	116
Mitarashi	001,146,254		
Miura City	034,117,191,194,195,1 97,198,204,209,240,24 2,397,407		
Miura Group	002,009,014,016,022,0 37,048,132,172,176,18 1,191,192,194,195,197, 199,206,218,219,220,2 20b,227,228,230,233,2 38,242,262,263,266a,2 66b,267,277,293,333,3 34,358,366,370,382,41 3		
Miura Peninsula	009,012,013,017,022,0 23,048,117,132,172,17 6,181,182,192,199,201, 206,209,210,214,218,2 19,220,220b,224,227,2 28,230,232,233,237,23 8,241,242,243,247,248, 249,251,255,256,257,2 58,262,278,280,282,28 6,295,296,297,298,299, 306,308,309,310,320,3 24,328,343,348		

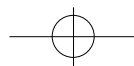


Neogene	006,007,008,009,013,014,016,017,022,037,048,056,066,132,140,181,185,191,192,193,194,195,197,200,223,224,225,226,229,230,234,235,236,249,251,263,275,279,282,295,296,297,298,299,306,307,310,314,315,322,324,327,331,333,343,347,352,358,371,391,398,408,410	<i>Perotrochus</i>	234,276,284,292,294,313,316,342,360
new species	036	<i>Perotrochus teramachii</i>	338
<i>Nipponothracia</i>	347	Philippines	080,081,108,112,122,127,131,136,137
Nishicha	162,321	pillow lava	053,139,140,154,155,184,261,370
Nitarachi Formation	115	pisces	064
Nobi	203	plate boundary	327
nodule	043	plate tectonics	330,366,370,391
North American Paleontological Convention	068,073	Pleistocene	371
Northern Fault Zone of the Miura Peninsula	388	Plesiosaur	367,368,369,372
Northern Pacific	046,058	<i>Pleurotomaria</i>	036,101,106,268,360
Numa Formation	411	Pleurotomariidae	036,037,101,106,173,174,229,234,235,253,268,270,276,284,288,290,292,294,307,313,316,319,335,336,338,344,345,353,360,371,373,376,342,357
Numa Surface	182,210	Pleurotomarioidea	326
Obira	003,004,340,341	preparation	033
Off Boso	319	pressure	171
Oga Peninsula	056	<i>Promuniciceras</i>	089
Oiso Hill	337,381	<i>Provampyrocutis</i>	367,368,369,372
Okinoyama Bank	223,226,236,379,314,315,317	Quaternary	012,017,018,019,020,021,024,025,028,031,034,035,041,054,057,117,123,145,156,158,161,164,274,267
Okinoyama Bank Chain	223,226,236,239,259,264,317,325,330,337,349,351,352,381	radio isotope age	140,184
ophiolite	168	radiolaria	115,179,190,196,250
ore	379,402	radula	326,338,342,344,
orthopedition	033,044,045	railway	211,212,213,214,215,216
Otsu Member	031,055,161,289	reef coral	193,200
oxygen isotope	253,253,268,332,339	Reptile	125,189
OYAMA	961	research	343
Pacific	141,291	research group	090
Palaeoloxodon naumanni	021,024,028,123,158,211	Research Group for active faults in the Miura Peninsula	962
paleocurrent	035	respiration	114,135,171
Paleogene	082,139,360,398	rhyolite	015
paleogeography	017,051	Sagami Bay	147,149,170,177,178,187,201,205,223,226,236,239,247,249,251,252,253,258,259,264,268,269,279,285,287,304,305,312,314,315,317,318,319,325,327,330,332,335,336,337,339,345,349,351,352,359,363,365,366,370,381,389,391,400,405,406,961
paleontology	032,038,039,044,045,047,049,050,051,052,060,087,090,100,113,311,361,362	Sagami Knoll	239,259
Paleozoic	150	Sagami Shell Club	961
Parahoplites	144	Sagami Trough	259,264,279,314,315,317,325,330,337,359,381
pearly shell	080,097,108,112,114,122,127,131,135,136,137		
pegmatite	379,402		
Pelecypoda	072,163,260,410		
peridotite	257		

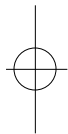


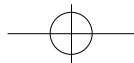
Saghalien	074	symposium	092,167,218,219,220,238
Sanchu Graben	152	Takeyama Fault	183,404
sand brast	045	Tanghai	363
Scalarites	102	tectonics	248,351,352,380,398
scale	064	Tenijima Marine Biological Garden	040
scanning electron microscope	064,088,095,338	Tetori Group	001
school	271	<i>Tetragonites</i>	077,085,103,124,175
school system	081	<i>Texanites</i>	089,130
sea cave	356	<i>Thracia</i>	340
sedimentary structure	013	Thraciidae	260,299,310,322,331
sedimentology	041,043,057	Tochigi	307
SEM	064,088,095,338	Tokyo Bay	148,201,348,349,375,380
Senbata	229,234,235	Tokyo Bays' Entrance Fault	348
Sendai City	294,313	Tokyu Corporation	215,215
serpentine	286	topography	040,203,232
shell form	225	Torishima Island	357,376
shell growth	086	trenching survey	204,280,350,387
shell implosion	114,135	tubeworm	300,302,305,312,329,365
shell mound	241	tuff	172,176,192,230
shell structure	088	Turonian	244,281
Shimukappu	151	U. S. A.	032,038,068,141
<i>Shinomegaceros vabei</i>	158,161	ultrasonic scaler	044
Shizuoka	285,287	unconformity	293
Shonan Electric Railway	214	university	081
site	191b,191c,255,881	uplifted beach line	204,209
slit shell	148,291	Upper Yezo Group	125
Solemyidae	256,298,365,383	Urakawa	005,011,042,069,076,078,089,091,101,110,111,115,126,130,159,162,166,254,321
Sorachi Group	126,168,190,196,222,250	Valanginian	115
South Kanto	067,079,099,109,121,133,134,142,148,153,165,180,188,202,217,218,219,220,220b,225,227,231,238,246,265,283	Vampyromorpha	157,367,389,400,405
specimen number	029	<i>Vampyroculthis</i>	367,368,369,372
Spirula	088	variation	148
standardize	026	<i>Vesicomya</i>	378,394,395
storage	026	Vesicomnyidae	221,225,247,251,252,269,290,308,359,363a,394,408,410
strain	067,079,099,109,121,133,134,142,153,165,180,188,202,217,231,246,265,283	volcanic rock	015
stratigraphy	019,042,206,228,281	volcano	199
subduction zone	269,300,301,302,303,332,325,330,337,339,375	Wakayama	027,030
submarine vessel	170,177,178	water depth	171
Suchen	143	water temperature	353
sulfur	329	Western Interior	068,073,141
sulfur metabolism	300,302,305,312	whale	275
Suruga Bay	252	Yezo Geosyncline	166
Suruga Trough	269	Yezo Supergroup	003,004,005,126,166,168,169,179,190,196,222,272
Sus	164	Yokohama City	035
suture line	409		





Yokosuka City	006,007,008,010,012,0 13,014,016,018,019,02 0,021,023,024,026,028, 029,031,034,040,041,0 53,054,055,057,117,12 3,139,140,145,154,155, 156,158,160,161,164,1 83,184,185,186,191b,1 91c,193,197,200,203,2 11,213,215,216,224,23 7,241,243,245,248,255, 257,263,274,280,286 Yokosuka City
	289,295,296,297,298,2 99,300,301,302,303,30 8,309,310,320,329,333, 334,350,354,385,388,3 96,403,404,412,881,94 1,951,971 Yokosuka Formation
	041,057,145,161,189 Yokosuka Line
	212,213,214,215,216 Yokosuka
	211 Shioyari (Irons)
	027,030 Yuasa
	212,221,262,266a,266 Zushi City
	b,267,293,382 Zushi Formation
	334,413





本冊子と CD-ROM の作成にあたって下記の方々・機関のお世話になりました。
横須賀市自然人文博物館ボランティア, 倉持卓司氏, 市川悦弘氏, 浅見茂雄研究員, 渡辺政美研究員,
(有) Comtech 社



目 次

横須賀市自然・人文博物館地球科学部門の研究業績

..... 菅 江 康 充1

CONTENTS

Contributions on the Earth Science Division of the Yokosuka City Museum

..... KANIE Yasumitsu1

横須賀市博物館資料集 第26号

2002 (平成14) 年1月25日 発行

頒価 (定価)

発 行 横須賀市自然・人文博物館
〒238-0016 横須賀市深田台95
<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>
m-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp
電話 0468 (24) 3688 (代表)
FAX 0468 (24) 3658

印刷所 文明堂印刷株式会社
〒239-0821 横須賀市東浦賀町1-5
電話 0468 (41) 0074